



平成14～15年度大庭町管渠工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

(出雲国造館跡・正林寺遺跡)

2005年2月

松江市教育委員会

平成14～15年度大庭町管渠工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書
(出雲国造館跡・正林寺遺跡)

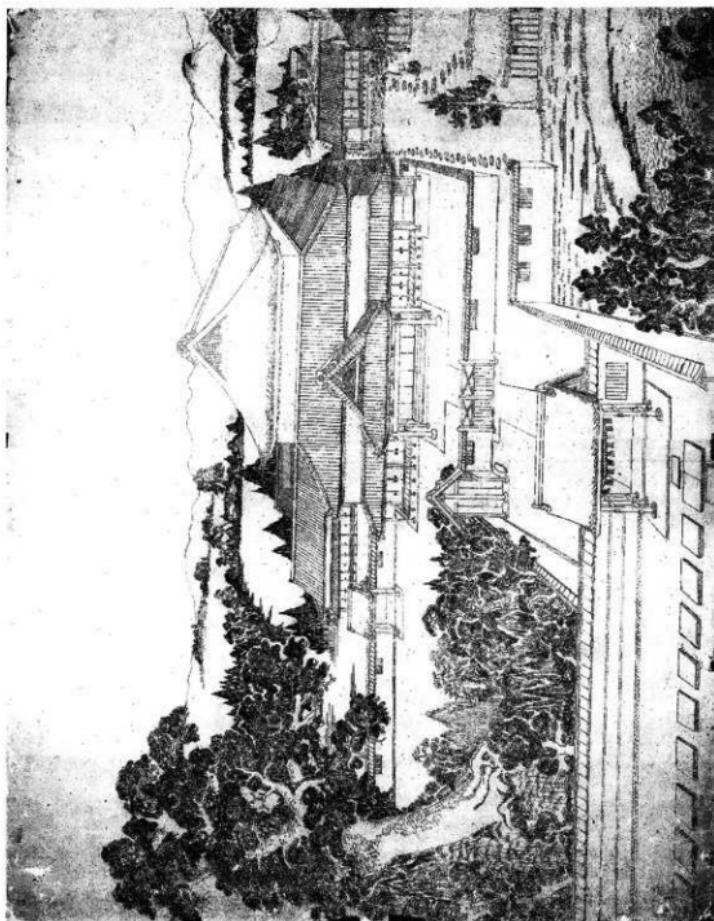
2005年2月

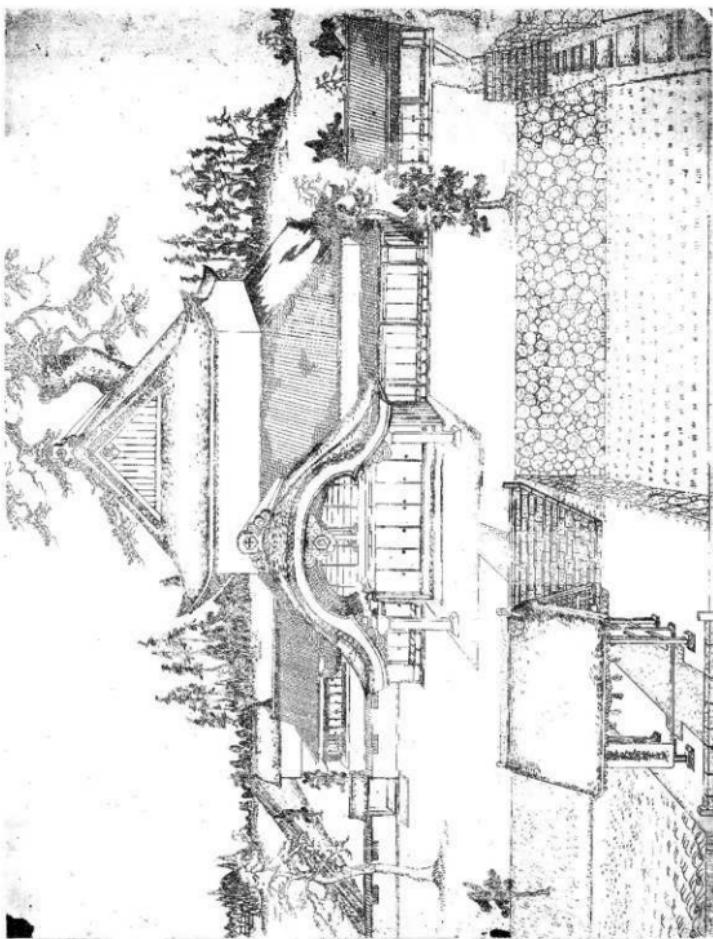
松江市教育委員会

口絵 1 神魂社古図（北島国造家所蔵）

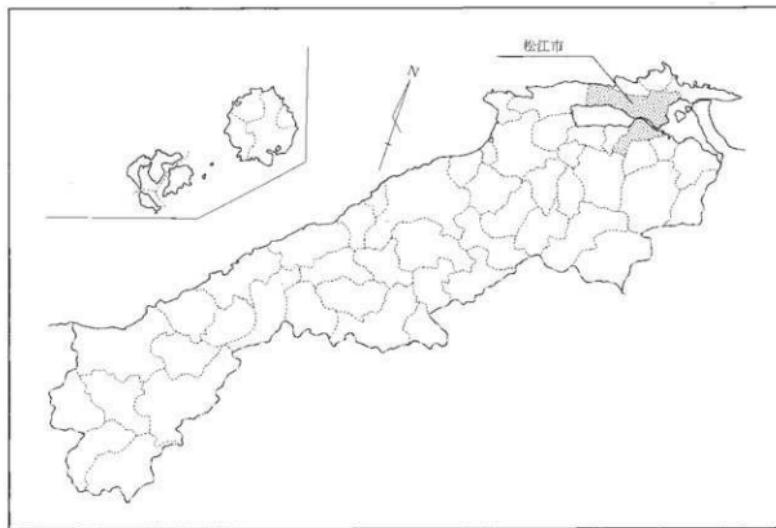


口绘2 北岛国造馆图（平尾英夫氏所有）

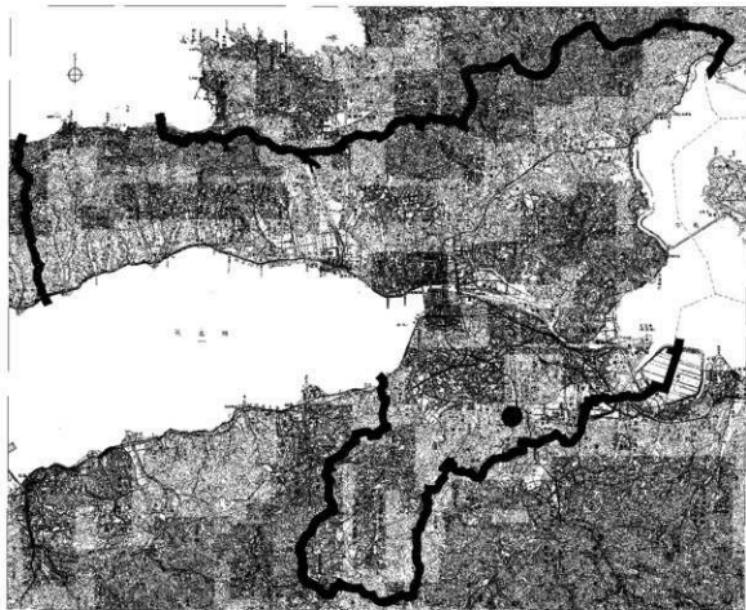




口绘3 千家国造館圖（平垣英夫氏所有）



第1図 島根県地図



第2図 松江市地図

例　　言

1. 本書は、平成14年度～15年度において松江市教育委員会が松江市公共下水道工事に伴い実施した埋蔵文化財発掘調査事業（出雲国造館跡・正林寺遺跡）の報告書である。
2. 本事業の実施体制は下記のとおりである。

工事主体者　松江市公共下水道管理者　松浦正敬（下水道部下水道工務課）

調査主体者　松江市教育委員会

調査体制　(平成14～15年度)

教育長　山本弘正

副教育長　中島秀夫

文化財課長　岡崎雄二郎

調査係長　飯塚康行

主任　藤原幸二、松浦俊充

主事　藤井一

調査補助員　飯塚啓太、山根克彦（平成14年度）、飛田恵美子（平成14年度）、原英賀（平成15年度）、小山泰正（平成15年度）

3. 本報告書の執筆担当は次のとおりである。（平成16年度）

編集　松江市教育委員会文化財課　飯塚康行、藤井一

執筆　松江市教育委員会文化財課　飯塚康行

絵図解説　松江市教育委員会文化財課　吉岡弘行、松原祥子

遺物実測　松江市教育委員会文化財課　小山泰正、原英賀

図面作成　松江市教育委員会文化財課　飯塚啓太、小山泰正

遺物整理　松江市教育委員会文化財課　荻野哲二

4. 本書に掲載した「神魂社占図」は、北島国造家北島達孝氏から掲載の承諾を頂いた。
5. 本書に掲載した「北島国造館図」、「千家国造館図」は、所有者の平垣英夫氏および収蔵者の島根県立八雲立つ風上記の丘資料館から掲載の承諾を頂いた。
6. 第4図、第42図に使用した地形図は、島根県教育委員会から提供を受けたものを松江市教育委員会で加工して掲載した。
7. 本書に掲載した出土遺物、写真、実測図は、松江市教育委員会文化財課で収蔵・保管している。

文化財愛護シンボルマークとは…

このマークは昭和41年5月26日に文化財保護委員会（現文化庁）が全国に公募し、決定した文化財愛護の運動を推進するためのシンボルマークです。

その意味するところは、左右にひろげた両手の掌が、日本建築の重要な要素である斗拱^{トウゴウ}、すなわち半と併の組み合わせによって全体で軒を支える檼木の役をなす細物のイメージを表わし、これを一つ重ねることにより、文化財というみんなの遺産を過去・現在・未来にわたり永遠に伝承していくというものです。



文化財愛護
シンボルマーク

目 次

図版1：「神魂社古図」

図版2：「北島国造館図」

図版3：「千家国造館図」

第1章 調査に至る経緯 1

第2章 位置と歴史的環境 1

第3章 調査の概要

- (1) これまでの調査成果 9
- (2) 平成14年度調査 13
- (3) 平成15年度調査 33

第4章 考 察

- (1) 遺物の検討 61
- (2) 遺構の検討 62
- (3) 絵図に見える出雲国造館について 63

第5章 小 結 69

- 遺構・遺物- 簡表 70
- 出土遺物観察表 74
- 遺構写真図版 77
- 遺物写真図版 86

第1章 調査に至る経緯

松江市では、平成20年度までに市内全域の下水道普及を目指し、年次的に敷設工事を実施している。平成14～15年度においては大庭町地内で工事の計画がなされたが、その路線が出雲国造館跡の推定地内および正林寺遺跡の隣接地に計画されていたことから、松江市教育委員会では工事に合わせて立会調査を実施することとなった。

調査の実施期間は平成14年度分が平成14年11月18日～平成15年1月15日、平成15年度は平成15年9月29日～平成15年11月21日までである。

第2章 位置と歴史的環境

出雲国造館跡（1）は、松江市大庭町の通称「黒田塚」と呼ばれる標高20数mの低い台地上に位置し、これまでの調査の結果、方1町四方の敷地を持つことが推定されている。正林寺遺跡（2）は出雲国造館跡が所在する台地の西方に位置し、古墳時代から中世にかけての遺物散布地として周知されている。これらの遺跡の東方には意宇川の沖積によって形成された意宇平野が広がり、出雲地方有数の穀倉地帯となっているが、この肥沃な平野を中心とする一帯は、原始時代から人々の生活の場となり、やがて出雲地方の中心地となつたことが遺跡の分布から知られている。

意宇平野周辺の遺跡のうち、縄文時代の遺跡は意宇平野北岸部に点在して見られ、間内遺跡（6）、法華寺前遺跡（59）、さっぺい遺跡（45）、旧竹矢小学校校庭遺跡（65）などの遺跡からは繩文土器片が発見されている。

弥生時代の遺跡としては、意宇平野の北西部丘陵地帯で四隅突出型墳丘墓の間内越墳墓群（78）、米美墳丘墓（90）が知られるほか、意宇平野の北部で向小紋遺跡（9）、上小紋遺跡（8）などの水田跡や銅鋌形土製品が出上した布田遺跡（60）などが知られるが、まだ遺跡数は少ない。

古墳時代には意宇平野周辺の丘陵部に多くの古墳が築造されるようになる。前期に属するものとしてはわずかに廻田1号墳（84：前方後円墳、全長58m、前期末）、井ノ奥2号墳（29：方墳、13～15m、前中期ないし中期前半）が知られるのみであるが、中期に入ると意宇平野の北方、大橋川南岸に大型古墳が築造されるようになる。右尾山古墳（77：方墳、40m）、竹矢岩舟古墳（31：前方後方墳、49m）、手間古墳（30：前方後円墳、67m）などがそれにあたり、大橋川の水運を掌握した有力者が存在していたことを窺わせるものである。また意宇平野南方の丘陵部には中期末～後期前半にかけて東白塚山古墳群（20）、西白塚山古墳群（19）などの群集墳が築造される。

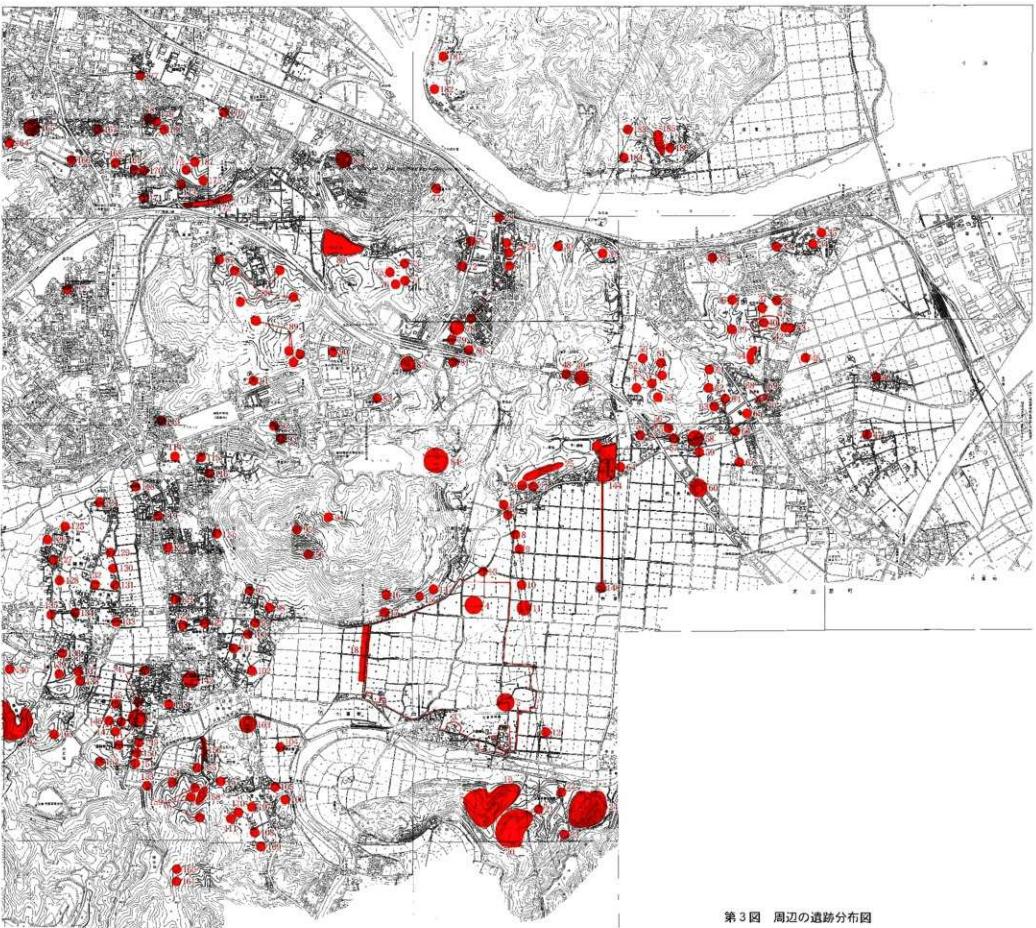
古墳時代後期になると、一転して内陸部の茶臼山周辺に古墳が築造されるようになる。その中でも大形のものは茶臼山北西端部に築かれた山代二子塚古墳（114：前方後方墳、94m）、山代方墳（115：方墳、45m）、永久宅後古墳（116）であり、出雲東部の首長墓と見なされる古墳である。また意宇平野の南西部には「瀬田部臣」の銘文入り大刀が出土した岡山1号墳（103：前方後方墳、24m）、御崎山古墳（106：前方後方墳、50m）、岩屋後古墳（104）など中規模の古墳も築かれ、この地域が当

時代の中心地であったことが窺われる。

こうした状況を受けて律令時代には意宇平野南側に出雲国庁跡（3）が置かれ、名実ともに当地が出雲地方の中心地となった。大平5年（733年）に編纂された『出雲国風土記』によれば国庁周辺には公的施設としての意宇郡家、駅屋、軍團、正倉（山代郷正倉跡：121）などがあり、官道である正西道（山陰道）と枉北道（隱岐への官道）が交わる十字街もあったことが記されている。仏教の伝来もいち早くこの地に見られ、茶臼山の北麓では来美廃寺（91）、南麓では四王寺跡（98）が発見され、それぞれ風土記に記載の見える南北2つの「新造院」に比定されている。さらに大平13年（741年）の国分寺建立の詔による国分寺（144）や国分尼寺（58）の建立も平野の北部丘陵地帯で行われている。

この意宇平野を含む意宇郡を中心として出雲国全域に勢力を振るっていた出雲臣一族はこの地を本拠地として国造の他郡司の要職をも独占していたが、延暦17（798）年国造大領兼帶の禁により、熊野・杵築両神社の祭事のみに専念することとなる。その後島根半島西端の杵築（簸川郡大社町）に本拠地は移るが、なおこの地に重要な祭事の際の止宿所として存続したとされている（註1）。さらに南北朝時代には千家・北島両家に分かれて明治初年まで続いたことが伝えられており、明治初年に地元の高梨兵三郎氏が書き残した両国造館の鉛筆画も残っている。

（註1） 加藤義成「古代祭祀遺跡」「八雲立つ風土記の丘周辺の文化財」昭和50年



第3図 周辺の遺跡分布図

周辺の遺跡一覧表

No.	名 称	所在地	種 别	時 代	遺 構・遺 物
1	出雲国造館跡	大庭町	城館跡	弥生～中世	ピット群、溝状遺構、須恵器、土師器、陶磁器、ガラス小玉、滑石製勾玉他
2	正林寺遺跡	大庭町	散布地	古墳～中世	須恵器片、土師器片、土師器質土器、陶磁器他
3	史跡出雲国府跡	大草町	官衙跡	奈良時代	礎石建物跡、掘立柱建物跡、溝、祭祀遺構等、木簡、墨書き土器、銅印、硯、須恵器、土師器等
4	龜山玉作跡	大草町	生産遺跡	古墳時代？	詳細不明
5	大草玉作遺跡	大草町	生産遺跡	古墳～奈良	瑪瑙勾玉、碧玉、水晶、筋砥石
6	間内遺跡	矢田町	散布地	縄文～弥生	縄文土器、弥生土器、打製石斧、布目瓦、磨石
7	大平遺跡	矢田町	その他	不明	上墻4、黒曜石片、碧玉剥片
8	上小絞遺跡	竹矢町	水田跡	弥生・古墳	水田跡17区画、溜耕状遺構1、溝状遺構2
9	向小絞遺跡	竹矢町	水田跡	弥生時代	水田跡10区画、溜耕状遺構1、土壤1
10	四配田遺跡	竹矢町	散布地他	古墳時代	溝状遺構3、掘立柱建物1
11	神田玉作跡	竹矢町	生産遺跡	古墳時代	砾石
12	大屋敷遺跡	大草町	集落跡	平安～鎌倉	掘立柱建物跡2、土墻5、須恵器、青磁、白磁
13	才塚遺跡	竹矢町	散布地	縄文時代	縄文土器、石斧（打製、磨製）
14	大谷遺跡	山代町	散布地	不明	須恵器、土師器
15	聖岩遺跡	山代町	祭祀遺跡	不明	聖岩、土師質土器、占錢
16	大谷横穴群	山代町	横穴墓	古墳時代	2穴
17	真名井遺跡	山代町	散布地	不明	須恵器片
18	大坪遺跡	山代町	散布地	弥生～中世	弥生土器片、須恵器片、土師器片、木簡他
19	西百塚山古墳群	大草町	古墳群	古墳時代	4支群、合計32基以上
20	東百塚山古墳群	大草町	古墳群	古墳時代	3支群、合計52基以上
21	古天神古墳	大草町	古墳	古墳時代	前方後方墳（25m）、石棺式石室、須恵器
22	天満谷遺跡	大草町	集落跡	平安～鎌倉	掘立柱建物跡6、須恵器、白磁他
23	大草岩船古墳	大草町	古墳	古墳時代	舟形石棺、須恵器、円筒埴輪
24	安部谷横穴群	大草町	横穴群	古墳時代	6支群以上、合計10穴以上、須恵器、馬具他
25	上竹矢古墳群	竹矢町	古墳群	古墳時代	方墳7基、前方後方墳1基、前方後円墳1基
26	上竹矢古墳	竹矢町	古墳	古墳時代	堅穴式石室
27	上竹矢遺跡	竹矢町	散布地	不明	石斧
28	荒神畠占墳	竹矢町	古墳	古墳時代	円筒埴輪片、滑石製有孔円板
29	井ノ奥古墳群	竹矢町	古墳群	古墳時代	前方後円墳1基（58m）、方墳2基、墳形不明1基
30	手間古墳	竹矢町	古墳	古墳時代	前方後円墳（67m）、円筒埴輪
31	竹矢岩舟占墳	竹矢町	古墳	古墳時代	前方後方墳（49m）、舟形石棺、円筒埴輪
32	灘山古墳	馬潟町	古墳	古墳時代	方墳（13×10m）、土師器、須恵、鉄器残欠
33	高橋遺跡	八幡町	散布地	古墳時代	占式土師器片、土師器片
34	角森遺跡	八幡町	散布地	弥生時代	弥生土器、鐵製品、磨製石斧
35	A 25遺跡	八幡町	散布地	古墳時代	須恵器片
36	若宮山古墳	八幡町	古墳	古墳時代	方墳（11×16m）
37	觀音寺古墳群	八幡町	古墳群	古墳時代	方墳3基、直刀、刀子、埴輪
38	觀音寺遺跡	八幡町	散布地	古墳時代	土師器片、須恵器片
39	普提寺古墳	八幡町	古墳	古墳時代	方墳（15×19.5m）
40	其神古墓	八幡町	その他の墓	平安時代	土壙
41	其神遺跡	八幡町	散布地	古墳時代	土師器片、須恵器片
42	鳳敷山遺跡	八幡町	その他の墓	中世	五輪塔、宝篋印塔、2群8基
43	A 23遺跡	八幡町	散布地	古墳時代	須恵器片
44	迎接寺裏山古墳群	八幡町	古墳群	古墳時代	方墳4基、前方後方墳1基、前方後円墳1基
45	さっぺい遺跡	八幡町	散布地	縄文時代	縄文土器
46	A 19遺跡	八幡町	散布地	古墳時代	須恵器片
47	安國寺古墓群	八幡町	その他の墓	近世	五輪塔、宝篋印塔、京極高次宝篋印塔

No.	名 称	所在地	種 別	時 代	遺 構 ・ 遺 物
48	才ノ岬古墳群	竹矢町	古墳他	古墳・奈良	方墳(14.5×15.7m)、前方後方墳
49	才ノ岬遺跡	竹矢町	集落跡、祭祀跡	古墳時代～中世	加工段、掘立柱建物跡16棟、須恵器、木簡、墨書き器、陶器、瓦、陶磁器、祭祀遺物他
50	長峯遺跡	竹矢町	集落跡	弥生・平安	竪穴住居跡(弥生)、土塙墓(平安)
51	中竹矢後1号墳	竹矢町	古墳	古墳時代	方墳(14.2m)
52	武内神社裏山古墳群	竹矢町	古墳群	古墳時代	方墳3基
53	長峯1号墳	竹矢町	古墳	古墳時代	方墳(19×10m)
54	中竹矢古墳群	竹矢町	古墳・横穴	古墳時代	古墳6基、横穴墓13基、須恵器、大刀ほか
55	中竹矢遺跡	竹矢町	集落跡ほか	弥生～近世	掘立柱建物跡、瓦窯跡、万台状遺構ほか
56	社日古墳群	竹矢町	古墳	古墳時代	古墳2基、土師器、珠文鏡、管玉ほか
57	出雲国分寺瓦窯跡	竹矢町	生産遺跡	奈良時代	瓦窯跡1基、瓦、須恵器
58	出雲国分尼寺跡	竹矢町	寺院跡	奈良時代	瓦、墨書き土器、施釉陶器片、須恵器片
59	法華寺前遺跡	竹矢町	散布地	繩文時代	繩文土器片(深鉢形土器)
60	布田遺跡	竹矢町	集落跡	弥生時代～	住居跡状遺構、溝状遺構、土塙他、銅鋸形土製品
61	代官屋後横穴群	八幡町	横穴墓	古墳時代	横穴墓10穴以上
62	宮内岩舟古墳	八幡町	古墳	古墳時代	円墳
63	八幡宮下横穴群	八幡町	横穴群	古墳時代	横穴墓2穴
64	出雲国分寺跡付近遺跡	竹矢町	散布地	弥生時代	弥生土器、石鎚
65	旧竹矢小学校校庭遺跡	八幡町	散布地	繩文・弥生	繩文土器、弥生土器、石鎚、磨石、黒曜石
66	平浜八幡宮前遺跡	八幡町	散布地	弥生時代	弥生土器
67	宮内遺跡	八幡町	散布地	弥生時代	石斧
68	の場遺跡	八幡町	散布地	不明	土壙4基
69	的場古墳群	八幡町	古墳群	古墳時代	円墳1基、墳形不明1基
70	的場横穴(古墓)群	八幡町	横穴墓他	古墳～中世	横穴墓5穴、古墓3基
71	保地遺跡	矢田町	散布地	繩文～弥生	繩文土器、弥生土器、石鎚
72	矢田団地付近遺跡	矢田町	散布地	古墳時代	須恵器片
73	保地古墳群(4号墳)	矢田町	古墳	古墳時代	詳細不明
74	保地古墳群(3号墳)	矢田町	古墳	古墳時代	詳細不明
75	保地古墳群(2号墳)	矢田町	古墳	古墳時代	詳細不明
76	保地古墳群(1号墳)	矢田町	古墳	古墳時代	詳細不明
77	石屋古墳	東津田町	古墳	古墳時代	方墳1基(40×40m)
78	間内越墳墓群	矢田町	その他の墓	弥生時代	四隅突出型墳丘墓2基、墳形不明2基
79	矢田平所遺跡	矢田町	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡、掘立柱建物跡
80	平所Ⅱ遺跡	矢田町	散布地	古墳時代	土師器片、須恵器片
81	平所遺跡	矢田町	生産遺跡	古墳時代	竪穴住居跡3、土作工房跡1、埴輪窯跡1
82	寺山小田遺跡	矢田町	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡2、掘立柱建物跡2
83	十王免横穴群	矢田町	横穴墓	古墳時代	横穴墓37穴
84	邇田古墳群	矢田町	古墳群	古墳時代	前方後圓墳1基(58m)他合計10基
85	東光台团地古墳群	東津田町	古墳	古墳時代	墳形不明、箱式石棺
86	須原池遺跡	東津田町	散布地	不明	須恵器、古瓦、備前焼
87	上谷遺跡	東津田町	散布地	古墳時代	須恵器、管玉
88	南外古墳群	東津田町	古墳群	古墳時代	前方後圓墳1基(20m)、方墳3基(9~10m)
89	来美東遺跡	矢田町	古墳他	古墳時代	方墳2基、住居跡推定地2所
90	来美墳丘墓	矢田町	その他の墓	弥生時代	四隅突出型墳丘墓1基(8.5×6.5m)
91	来美廐寺	矢田町	寺院跡	奈良時代	基壇4基、須弥壇、礎石、瓦
92	狐谷古墳	山代町	古墳	古墳時代	方墳1基、須恵器片
93	狐谷横穴群	山代町	横穴墓	古墳時代	17穴以上、須恵器、土師器、直刀、耳環他
94	長元遺跡	山代町	散布地	繩文時代	繩文土器
95	茶臼山城跡	山代町	城跡	中世	曲輪、堀切、陶磁器片、土師質土器片、錢貨他
96	山代社元社地	山代町	祭祀遺跡	古代	詳細不明

No	名 称	所在地	種 別	時 代	遺 構・遺 物
97	市堀遺跡	山代町	散布地他	中世～近世	土壤、ピット群、陶磁器片他
98	四王寺跡	山代町	寺院跡	奈良時代	基壇、瓦溜、須恵器、土師器、陶磁器、螺髪他
99	寺ノ前遺跡	山代町	散布地	古墳～近世	瓦、須恵器、土師器、陶磁器類他
100	山代郡南新造院瓦窯跡（小無田Ⅱ遺跡）	山代町	生産遺跡	奈良時代	瓦窯跡3基、住居跡他、瓦、須恵器他
101	小無田遺跡	山代町	散布地他	古墳～中世	掘立柱建物跡、須恵器、土師器、陶磁器他
102	团原古墳	山代町	古墳	古墳時代	石棺式石室
103	岡田山古墳群	大草町	古墳群	古墳時代	前方後方墳1基、円墳1基他合計7基、「各田部戸」銘直刀、鏡、須恵器、土師器、円筒埴輪他
104	岩屋後古墳	大草町	古墳	古墳時代	石棺式石室、須恵器、人物埴輪、円筒埴輪
105	上立遺跡	大草町	散布地	旧石器	石器、須恵器、土師器
106	御崎山古墳	大草町	古墳	古墳時代	前方後方墳1基（50m）、獅頭環頭大刀、珠文鏡、馬具、耳環、須恵器他
107	寺山遺跡	大草町	散布地	不明	須恵器片
108	穴観音奥遺跡	大草町	散布地	不明	須恵器片
109	小谷横穴	大草町	横穴	古墳時代	1穴
110	寺山古墳群（1号墳）	大草町	古墳群	古墳時代	方墳（10×10m）
111	寺山古墳群（2号墳）	大草町	古墳群	古墳時代	方墳（10×10m）
112	練兵場跡Ⅱ遺跡	古志原町	不明	不明	詳細不明
113	井手平山古墳群	山代町	古墳群	古墳時代	1号墳（円墳、14.8m）、2号墳（方墳、9.5m）
114	山代二子冢	山代町	古墳	古墳時代	前方後方墳（94m）、須恵器、円筒埴輪
115	山代方墳	山代町	古墳	古墳時代	方墳（45×43m）、石棺式石室、須恵器、埴輪
116	永久宅後古墳	山代町	古墳	古墳時代	石棺式石室、円筒埴輪
117	鎌打屋遺跡	山代町	生産遺跡	古墳～奈良	窯跡、土壤、須恵器、フイゴ羽口他
118	大庭鶴塚	大庭町	古墳	古墳時代	方墳（41×43m）、須恵器、円筒埴輪
119	大庭住宅東遺跡	大庭町	散布地	古墳～奈良	須恵器片、土師器片
120	山代遺跡	山代町	散布地	弥生時代	弥生土器片
121	出雲国山代郷正倉跡	山代町	官衙跡	奈良～平安	掘立柱建物跡2基、溝状遺構5基、須恵器、炭化米
122	下黒田遺跡	大庭町	官衙跡	奈良～近世	掘立柱建物跡7基、溝状遺構7基、井戸4基、土壤他
123	黒田館跡	大庭町	城館跡	古墳～中世	建物跡、井戸跡、濠跡、須恵器、土師器、陶磁器他
124	下ノ原古墳群	大庭町	古墳群	古墳時代	方墳4基
125	B 1 1 遺跡	大庭町	散布地	古墳時代	須恵器片
126	B 1 2 遺跡	大庭町	散布地	古墳時代	須恵器片
127	B 1 0 遺跡	大庭町	散布地	古墳時代	須恵器片
128	B 9 遺跡	大庭町	散布地	古墳～平安	須恵器片、土師器片
129	B 8 遺跡	大庭町	散布地	古墳時代	須恵器片
130	B 2 8 遺跡	大庭町	城館跡	中世	土壘、空塹
131	B 2 1 遺跡	大庭町	散布地	古墳時代	須恵器片
132	B 1 8 遺跡	大庭町	散布地	古墳時代	須恵器片
133	東瀬寺古墳	大庭町	古墳	古墳時代	前方後方円墳（推定62m）、須恵器、円筒埴輪、形象埴輪片
134	B 3 遺跡	大庭町	散布地	古墳時代	須恵器片
135	大庭小学校校庭遺跡	大庭町	散布地	古墳時代	須恵器片、土師器片
136	大庭廻田遺跡	大庭町	集落跡	不明	聚穴住居跡
137	平古墳群	大庭町	古墳群	古墳時代	方墳2基
138	秋上家古墓群	大庭町	その他の墓	不明	3基
139	堂廻遺跡	大庭町	集落跡	奈良時代	ピット群、須恵器、土師器
140	空ノ原古墳	佐草町	古墳	古墳時代	方墳（8.5×9.5m）
141	神魂神社参道遺跡	大庭町	散布地	古墳～奈良	須恵器片、土師器片

No.	名 称	所在地	種 别	時 代	遺 構・ 遺 物
142	黒田畠遺跡	大庭町	散布地他	奈良・中世	土壙墓、ビット群他、須恵器、土師器、墨書き土器、陶磁器他
143	黒田畠遺跡 (仁平屋敷地区)	大庭町	集落跡	奈良～近世	ビット群、須恵器片、土師器片、陶器片
144	史跡出雲国分寺跡附 古道	竹矢町	寺院跡	奈良時代	南門跡、中門跡、金堂跡、講堂跡、僧房跡、塔跡、回廊跡等、瓦、墨書き土器、須恵器、土師器等
145	B 7 遺跡	大庭町	散布地	古墳時代	須恵器片、土師器片
146	B 4 遺跡	大庭町	散布地	古墳時代	須恵器片、土師器片
147	B 5 遺跡	大庭町	散布地	古墳時代	須恵器片、土師器片
148	三軒屋遺跡	竹矢町	散布地	奈良時代	弥生土器、土師器
149	神魂神社参道遺跡	大庭町	散布地	古墳～奈良	須恵器片、土師器片
150	B 1 7 遺跡	大庭町	散布地	古墳～奈良	須恵器片、土師器片
151	中西遺跡	大庭町	城館跡	奈良～平安	掘立柱建物跡 2、須恵器、青磁、白磁
152	大石古墳群	大庭町	古墳群	古墳時代	方墳 8 基
153	涼田遺跡	大庭町	散布地	不明	石敷遺構、須恵器
154	寺越遺跡	大庭町	散布地	不明	須恵器、土師器、占式土師器
155	有古墓群	大庭町	その他の墓	中世	3基以上
156	有遺跡	大庭町	散布地	不明	須恵器片
157	有廻遺跡	大庭町	散布地	不明	須恵器片
158	有廻横穴群	大庭町	横穴墓	古墳時代	5穴以上
159	有古墳群	大庭町	古墳群	古墳時代	方墳 3基 (10～15m)
160	雨乞池遺跡	大庭町	祭祀遺跡		地方伝承あり
161	トウト古墳	大庭町	古墳	古墳時代	方墳 (10×10m)
162	荒神谷・後谷古墳群	佐草町	古墳、横穴	古墳時代	古墳 1基以上、横穴墓 20穴以上、須恵器、銀環、銅環、管玉、ガラス小玉、鉄器
163	大石横穴群	大庭町	横穴群	古墳時代	詳細不明
164	喰ヶ谷横穴群	東津田町	横穴群	古墳時代	3穴以上
165	喰ヶ谷古墳群	東津田町	古墳群	古墳時代	方墳 3基 (7～10m)、須恵器、土師器、刀子他
166	喰ヶ谷遺跡	東津田町	散布地	古墳時代	須恵器片
167	根星古墳	東津田町	古墳	古墳時代	前方後方墳か?
168	タルミ IV 遺跡	東津田町	散布地	古墳時代	須恵器片、土師器片
169	タルミ I 遺跡	東津田町	散布地	繩文～弥生	黒曜石片
170	タルミ II 遺跡	東津田町	散布地	古墳時代	土師器片
171	タルミ III 遺跡	東津田町	散布地	古墳時代	須恵器片、土師器片
172	石台遺跡	東津田町	散布地	繩文～古墳、中世	繩文土器、弥生土器、須恵器、土師器質土器、陶磁器
173	舟津田遺跡	東津田町	散布地	不明	須恵器片、土師器片
174	高杉 1号墳	東津田町	古墳	古墳時代	前方後方墳 1基 (26.5m)
175	高杉 2号墳	東津田町	古墳	古墳時代	方墳 1基 (11.5×11.5m)
176	鷹日神社前遺跡	東津田町	散布地	不明	石斧
177	塚岡遺跡	東津田町	散布地	不明	石斧
178	伝兵衛山古墳	東津田町	古墳	古墳時代	方墳 1基 (8.6×6.1m)
179	伝兵衛山古墳群	東津田町	その他の墓	中世	五輪塔、道祖神
180	高杉古墓群	東津田町	その他の墓	中世	五輪塔
181	魚見塚古墳	朝酌町	古墳	古墳時代	前方後方墳 (62m)、須恵器
182	多賀宮古墳推定地	朝酌町	古墳	古墳時代	詳細不明
183	福富神社境内遺跡	福富町	散布地	不明	須恵器片
184	明事山古墳	福富町	古墳	古墳時代	方墳 1基 (10×10m)
185	阿弥陀寺裏山古墳群	福富町	古墳群	古墳時代	方墳 5基 (7～18m)
186	阿弥陀寺古墳	福富町	古墳	古墳時代	石棺式石室
187	月戸遺跡	東津田町	その他の墓	中世	古墓 2基、占錢、銅製容器

第3章 調査の概要

(1) これまでの調査成果

出雲国造館跡周辺では、これまでに4回にわたり島根県教育委員会、または松江市教育委員会により発掘調査が実施されている。

①昭和51年度の調査（松江市教育委員会）

出雲国造館跡西側の水田が、大庭東部地区開拓整備事業として整備されるのに伴い、事前に発掘調査を実施したものである。

調査の結果、柱穴や井戸跡、土壤などの遺構が検出され、それに伴って大量の土器類や木製品などが検出された。

出土した須恵器、土師器の年代は、古墳時代前期末頃から平安時代末期まで、陶磁器や国産陶器の一部は中世鎌倉期まで続いていることが認められる。特に南宋から輸入された青磁、白磁片が大量に出土したことから、付近に強大な実権を持つ豪族の居館があったであろうことが推定され、それは出雲国造とその館に関わるものであろうとされている。また中世以降の遺物が極端に少なくなることから、その生活規模が急激に縮小したものと考えられている。

（参考文献：『出雲国造館跡発掘調査報告書』松江市教育委員会、1980年）

②昭和55年度の調査（島根県教育委員会）

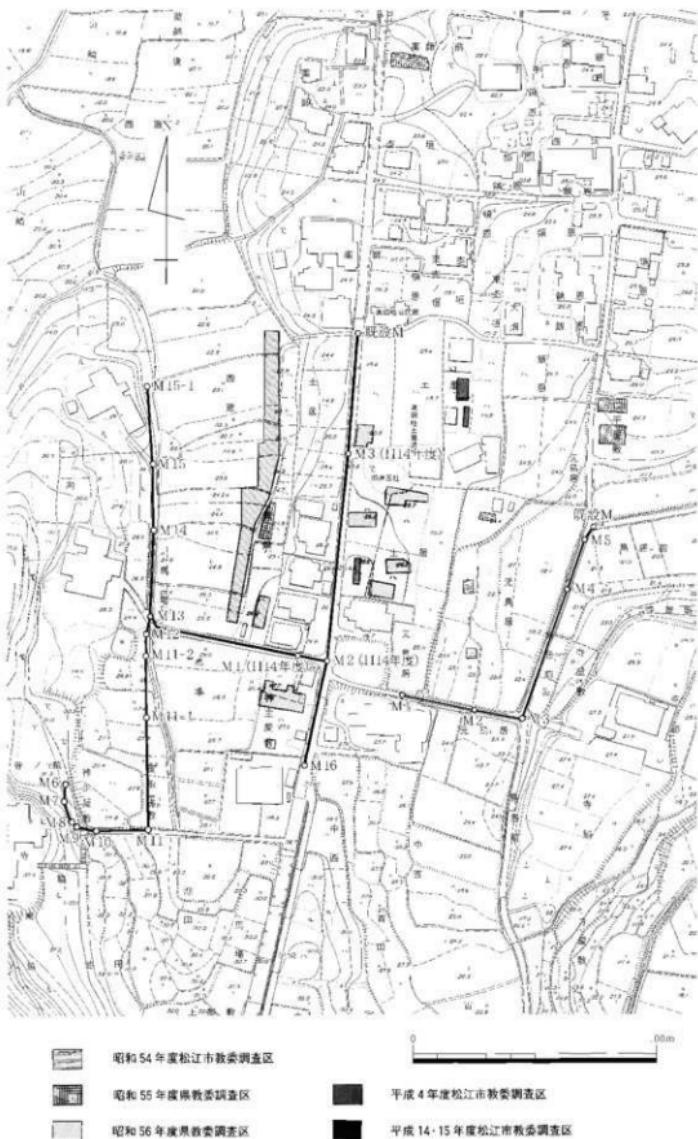
国庫補助事業により、大庭町字葉原ノ前、字元鳥居、字長畑、字仁平屋敷の出雲国造館跡推定地周辺5箇所で発掘調査が実施され、掘立柱建物跡8、井戸状遺構1、鍵状のプランを呈する落ち込み1が検出されている。このうち中世に属する遺構は、掘立柱建物跡7と井戸状遺構1であるとされているが、注目される点として、第I調査区では奈良時代初頭を下らない時期に鍵状の落ち込みは大がかりな埋め戻しが行われ、更に中世において掘削されて建物が建てられていることが報告されている。また同様な中世の削平は第V調査区でも認められたことが明らかになっている。

（参考文献：『日原遺跡発掘調査概報Ⅲ』島根県教育委員会、1981年）

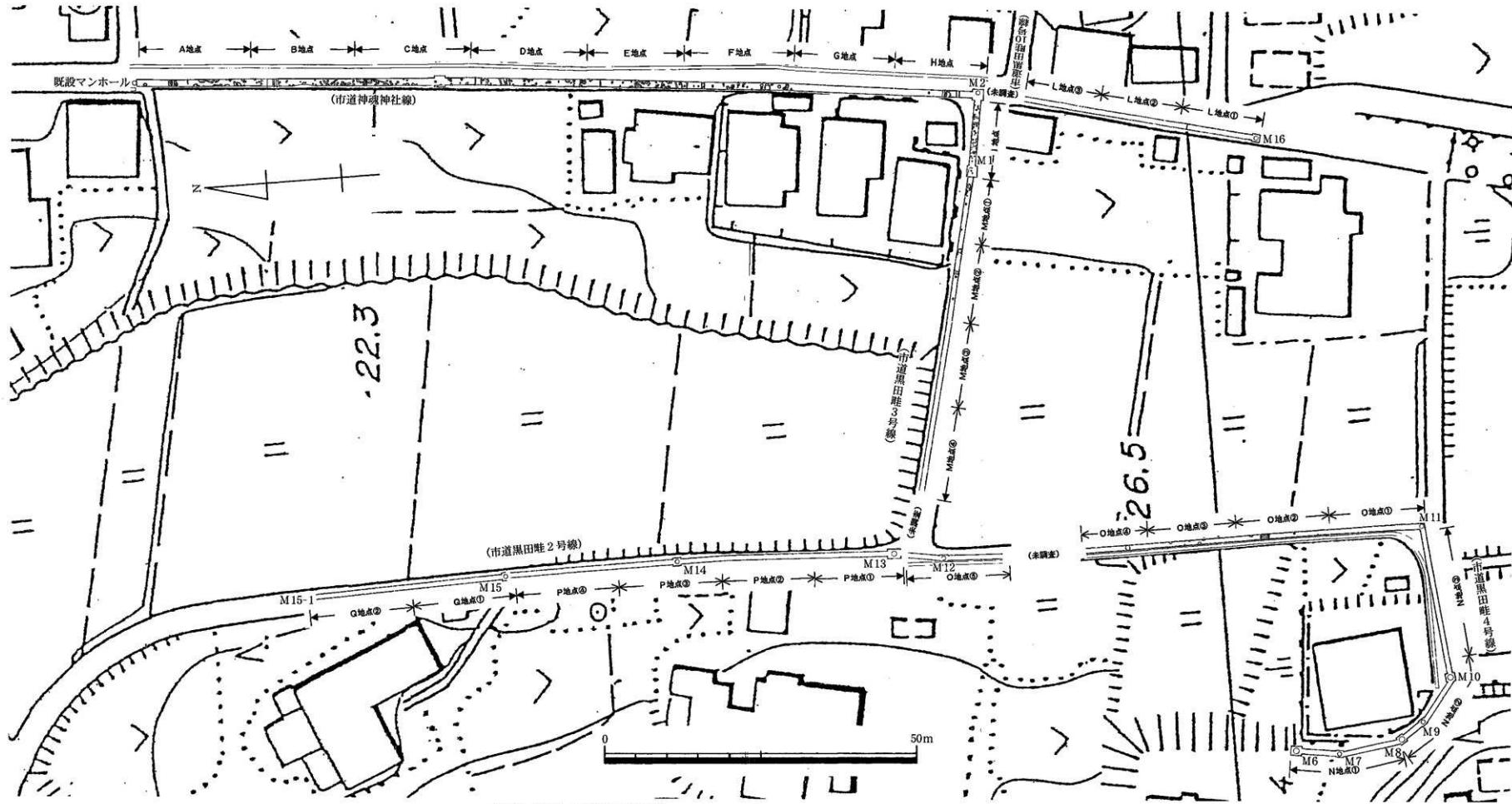
③昭和56年度の調査（島根県教育委員会）

国庫補助事業により、大庭町字上居、神上屋敷の合計7箇所で発掘調査が実施され、土居第II調査区を除く各調査区において多数の柱穴状のビットを確認し、竪穴住居跡1、掘立柱建物跡7、柵列1、溝状遺構1、土塙4が検出されている。このうち注目される遺構としては神主屋敷第I調査区で検出された東西方向に走る溝状遺構（S56：SD-01）があり、上幅2.0m、下幅0.8m、深さ1.0mを測る逆台形の断面形状を持ち、溝内から出土した陶磁器類と寛永通宝から近世に埋没したものとされている。

（参考文献：『風上記の丘地内遺跡発掘調査報告Ⅰ』島根県教育委員会、1982年）



第 4 図 調査位置図



第5図 平成14~15年度調査区全体図

④平成4年度の調査（松江市教育委員会）

字土居地区での個人住宅建設に伴う事前調査を国庫補助事業により実施した。トレンチ3箇所による調査の結果、豎穴住居跡1、溝状遺構1、井戸状遺構1をはじめ柱穴と思われるピットが検出された。このうち注目されるのは東西方向に走る溝状遺構（H4：SD-01）である。上端幅2.4～2.6m、下端幅0.7～1.1m、深さ0.8mを測り、断面の形状は逆台形を呈する。埋土中から出土した上師器質土器から平安時代～中世に埋め戻されたことが推定されたが、溝の形状や規模が昭和56年度の神主屋敷第I調査区で検出された東西方向の溝状遺構（S56：SD-01）に酷似していることから、これらを関連付けて出雲国造館跡の区画溝である可能性を示している。すなわち、（H4：SD-01）は北側の区画溝、（S56：SD-01）は南側の区画溝とすれば、二つの溝の間隔は約112mで、約1町（60間×109m）四方の敷地を持つことが想定された。

（参考文献：『出雲国造館跡発掘調査報告書』松江市教育委員会、1993年）

（2）平成14年度調査

平成14年度は字土居地区および字神主屋敷地区の、市道神魂神社線および市道黒田塚3号線において、下水管理設溝の掘削工事に合わせて立会い調査を行った。調査範囲は幅1.0m、延長147mで、A～I地点に分けて実施した。（第4、5図）

①A地点調査区（0～18m）（第6図、第15図）

A地点調査区は市道神魂神社線の既設マンホールを起点として南方へ18mまでの区間である。

【土層堆積状況】

現況の道路舗装面から下へ30cmまでは道路関連の土層（第1～3層）である。第4層は厚さ30cmの暗褐色を呈する粘質土で、遺物はほとんど含まない。道路敷設時の盛土であろうと思われる。第5層は厚さ20cmの黒茶褐色土で土層中に遺物の細片を含むが、後世の烟の耕作上とも思われる上層である。第5層の下は地山面で、橙褐色を呈し、よく縮まっている（第6層）。地山面は調査区の北端と南端ではレベル差があり、北から南へ向かって約40cmほどレベルが上がっている。

【検出遺構】

地山面においてピット状遺構14箇所（P-1～14）、土壌状遺構2箇所（SK-01、02）を検出した。ピットは小さいものでは直径15～20cm、深さ15cm前後を測るが、大きなピットでは直径50～90cm、深さ35～60cmを測る。P-10のように方形の掘り方を持つものも見られた（一边110cm）。ピットの埋土はいずれも暗黒灰色の粘質土中に黄色のブロックが混じり（第8層）、よく縮まっているが、ピットの大小にかかわらず同じ埋土であることから、一時期に埋め戻された可能性が考えられる。更にピットの検出面では遺物が無いことと、ピット埋土の上面と地山の上面のレベルがきれいに揃うことから、一度ピットが埋め戻された後に地山面まで削平されているものと考えられる。これは昭和55年度に島根県教育委員会で調査が行われた際に、第I調査区で見られた埋め戻しの状況と共通する可能性がある（註1）。

SK-01は長辺90cm、短辺70cm、深さ37cmを測る隅円方形の土壙である。埋土中から土師器の表片と占墳時代のものと思われる高环（No.3、4）が出土している。

SK-02は調査区の東壁際で検出された十数状の遺構である。南北長3.4mを測り、調査区外の東方に延びているものと考えられる。土壙の掘り込みは北部で深く40cm、南部で浅く15cmを測るが、土壙の底面で更にピット状の遺構も見られた。出土遺物としては、須恵器、土師器、上師質土器の破片が検出されたが、須恵器の中には立ち上がりのある环身片も見られた（No.1）。

その他ピット中には須恵器や土師器、土師質土器の細片を含むものが多い。いずれも細片であるために時期の分かることは少ないが、P-4からは土師器の高环脚部（No.6）、P-10からは土師器の高环片（No.5）と須恵器の立ち上りのある环身片（No.2）などが検出されている。

（註1）『田原遺跡発掘調査概報Ⅲ』島根県教育委員会、1981年

②B地点調査区（18~35m）（第7岡、第15岡）

B地点調査区は市道神魂神社線の既設マンホールを起点として南方へ18~35mまでの区間である。

【土層堆積状況】

土層の堆積状況はA地点とほぼ同じ様相を呈しており、現況の道路舗装面から下へ30cmまでは道路関連の土層（第1~3層）である。第4層は厚さ30cmの暗褐色を呈する粘質土で、遺物はほとんど含まない。道路敷設時の盛土であろうと思われる。第5層は厚さ30cmの虫茶褐色土で土層中に遺物の細片を含むが、後世の畑の耕作土とも思われる上層である。第5層の下は地山面で、橙褐色を呈する（第6層）。地山面は調査区の北端と南端ではレベル差はほとんどない。

【検出遺構】

地山面においてピット状遺構27箇所（P-1~27）、溝状遺構2箇所（SD-01、02）を検出した。ピットは小さいものでは直径15~30cm、深さ10~20cm程度を測り、大きなピットでは直径60~80cm、深さ20~43cmを測る。ピットの理土はいずれも暗黒灰色の粘質土中に黄色のブロックが混じり（第8層または第15層）、よく締まっているが、ピットの大小にかかわらずほぼ同じ埋上であることから、A地点と同様に一時期に埋め戻された可能性が考えられる。更にピットの検出面では遺物が無いことと、ピット埋上の上面と地山の上面のレベルがきれいに揃うことから、一度ピットが埋め戻された後に地山面まで削平されているものと考えられる。

SD-01は上幅2.7~3.0m、下幅0.85~0.9m、深さ約1.0mを測る断面逆台形の溝状遺構で、調査区を東西に横断する形で検出された。溝の南側は幅30cm程のテラスがあり、2段掘りのような形態を呈する。理土は黄褐色~淡灰褐色の粘質土が硬く締まった状態で堆積しており、埋め戻されたような状況を呈していた。埋土中からの出土遺物は高台を持つ須恵器环片（No.9）や平底の須恵器环片（No.10）、土師質土器の柱状高台片（No.13）、細片のために実測できなかったが占墳時代に属すると思われる須恵器の环蓋片など、古墳時代後期~中世にかけて時期差のある遺物が検出されている。なお、この溝状遺構は平成4年度の松江市教育委員会による調査の際に第I調査区で検出されたSD-01（註2）と形態的に良く似ており、また位置関係から考えても一連の遺構であると考えられる。

その他ピット中には須恵器や土師器、土師質土器の細片を含むものが多い。いずれも細片であるために時期の分かることは少ないが、P-5からは須恵器の坏蓋片（№8）と土師質土器の坏底部片（№11）、P-7からは上師質土器の柱状高台片（№14）、P-11からは須恵器の坏蓋片（№7）、P-17からは上師質土器の坏底部片（№12）などが検出されている。

（註2）「出雲国造館跡発掘調査報告書」松江市教育委員会、1993年

③C地点調査区（35~53m）（第8図、第15~16図）

C地点調査区は市道神魂神社線の既設マンホールを起点として南方へ35~53mまでの区間である。

【上層堆積状況】

土層の堆積状況はA地点とはほぼ同じ様相を呈しており、現況の道路舗装面から下へ30cmは道路周辺の上層（第1~3層）である。第4層は厚さ40cmを測る。暗褐色を呈する粘質土で、遺物はほとんど含まない。道路敷設時の盛土であろうと思われる。第5層は厚さ20cmを測る。黒茶褐色土で土層中に上師質土器の壺（№23）や环（№25）の破片、小壺形の土器（№22）などを含むが、後世の畑の耕作土とも思われる土層である。しかしこの第5層は、マンホール（M3）設置地点で消失し、以南は第4層のみとなっている。第5層の下は調査区南側では地山面（第6層）が現れるが、調査区北側～中央部では黒褐色の硬い土層（第18層）が見られた。この土層はピットや溝状遺構などの埋め戻し土（第8層）によく似ていた。地山面は調査区の北端と南端ではレベル差があり、北から南へ向かって約30cmほどレベルが上がっている。

【検出遺構】

地山面においてピット状遺構21箇所（P-1~21）、土壙状遺構2箇所（SK-01~02）、溝状遺構1箇所（SD-01）を検出した。ピットは小さいものでは直径20~30cm、深さ10~20cm程度を測る。大きなピットはP-12、13のように不整形なものが多いが、深さ5~10cm程度のものであり、柱穴とは考えにくいものであった。ピットの埋土はいずれも暗黒灰色の粘質土中に黄色のブロックが混じり（第8層または第18層）、よく縮まっているが、ピットの大小にかかわらずほぼ同じ埋土であることから、A地点と同様に一時期に埋め戻された可能性を考えられる。更に埋め戻し後に削平されているのもA地点と同様であるが、調査区北側～中央部にかけてはその掘削は地山面まで及んでいない。

SD-01は遺構検出時には不整形な溝状遺構のように見られたが、深さ10cm程度で底が現れ、底面から土壙状遺構（SK-02）及びピット（P-2~4、22、23）が検出された。SK-02は調査区東方へさらに広がるが、短辺80cm、長辺70cm以上、深さ35cmを測る。黄色ブロックが混じる黒褐色土の埋土を持つ。このうちSK-02からは、古墳時代の土師器の壺（№16）や高片（№20）、須恵器の坏蓋片（№17）の他に8世紀代と思われる須恵器の坏片（№18）など時期幅のある遺物が検出された。

SK-01はSK-02の北側で検出された土壙状遺構で、不整形な平面形を呈し、さらに調査区の東方へ広がる。深さは80cmと深いが、埋土はSK-02とほぼ同じであった。埋土中からの出土遺物は弥生時代中期の壺片（№15）、古墳時代の土師器の高片（№19）、時期不明の手づくね土器片（№21）の他、実測不可能であったが土師器の壺片も検出された。

その他ピット中には須恵器や土師器、土師質上器の細片を含むものが多い。いずれも細片であるために時期の分かることは少ないが、P-17からは上師質上器のⅢ (No24) が検出されている。

④D地点調査区 (53~72m) (第9図、第16図)

D地点調査区は市道神魂神社線の既設マンホールを起点として南方へ53~72mまでの区間である。

【土層堆積状況】

土層の堆積状況は、C地点調査区の南端部とほぼ同様で、現況の道路舗装面から下へ30cmは道路関連の土層（第1~3層）である。第4層は厚さ30~35cmを測る。暗褐色を呈する粘質上で、遺物はほとんど含まない。道路敷設時の盛土であろうと思われる。第4層の下は地山面で、橙褐色を呈する（第6層）。地山のレベル差は調査区の北端と南端では約50cm程あり、南側ほどレベルが高い。

【検出遺構】

地山面においてピット状遺構24箇所（P-1~24）、溝状遺構4箇所（SD-01~04）を検出した。ピットは小さいものでは直径20~25cm、深さ15~20cm程度を測り、大きなピットでは直径40~60cm、深さ20~40cmを測る。ピットの埋土はいずれも暗黒灰色の粘質土中に黄色のブロックが混じり（第8層）、よく締まっているが、ピットの大小にかかわらずほぼ同じ埋土であることから、A地点と同様に一時期に埋め戻された可能性が考えられる。更にピットの検出面では遺物が無いことと、ピット埋土の上面と地山の上面のレベルがきれいに揃うことから、一度ピットが埋め戻された後に地山面まで削平されているものと考えられる。

SD-01は上幅1.1m、下幅0.8mを測り、調査区を東西方向に横断する溝状遺構であるが、深さがわずか10cm程度しか残っていなかった。埋土は黄色ブロックが混じる暗黒灰色の粘質土が硬く締まった状態で堆積しており、埋め戻されたような状況が見られた。埋土中からの出土遺物は土師質土器の小型皿の破片が多量に出土しており（No26~29）、19個体分以上はあるものと推定される。その他にも土師質土器の壺（No31、32）や柱状高台片（No34）、須恵器の細片が検出された。

SD-02は幅20cm、深さ3cmほどの窪み状の溝で、調査区を東西に横断する形で検出された。出土遺物は無く、性格は不明であるが、SD-01と同様の埋土を持つ。しかしSD-02からの出土遺物は検出されなかった。

SD-03は幅1.5~1.6mを測るやや不整形な平面形の溝状遺構で、深さは3~40cmと一定していない。調査区を東西に横断するが、SD-01とは方位が少し異なる。埋土はSD-01と同様である。埋土中からは上師器の壺片（No35）、高壺脚部片（No38）、土師質土器片（No36）、手づくね土器片（No37）などが検出されている。

SD-04は幅65cm、深さ10cmを測る浅い溝で、調査区を東西に横断する形で検出された。埋土はSD-01と同様である。出土遺物は無く性格は不明である。

その他ピット中には須恵器や土師器、土師質上器の細片を含むものが多い。いずれも細片であるために時期の分かることは少ないが、P-6からは須恵器の壺片（No39）と鉄釘（No40）、P-7からは上師質上器の小型皿（No30）などが検出されている。またP-9からは土師質土器の完形の壺（No33）

が伏せた状態で検出された。

⑤E地点調査区 (72~87.5m) (第10図、第17図)

E地点調査区は市道神魂神社線の既設マンホールを起点として南方へ72~87.5mまでの区間である。

【土層堆積状況】

土層の堆積状況は、調査区北側ではD地点の南端からほぼ同じ状況を呈しており、現況の道路舗装面から下へ30cmまでは道路関連の土層（第1~2、19層）である。その下は暗褐色を呈する粘質土（第4層）が約50cmの厚さで存在する。遺物はほとんど含まず道路敷設時の盛上であろうと思われる。調査区南側では地山のレベルが上がるのに伴って第4層は厚さが薄くなり15cm程になる。地山のレベル差は調査区の北端と南端では約40cm程あり、南側ほどレベルが高い。

【検出遺構】

地山面においてビット状遺構27箇所（P-1~27）、溝状遺構2箇所（SD-01~02）を検出した。ビットは小さいものでは直径20~30cm、深さ5~10cm程度を測り、大きなビットでは直径40~100cm、深さ10~48cmを測る。ビットの埋上は淡黒灰色土に黄色のブロックが混じってよく締まったもの（第21層）が多いが、P-12、14、27は埋土が異なり茶褐色を呈する。前者の埋上を持つビットはA地点と同様に一時期に埋め戻された可能性が考えられる。更に一度ビットが埋め戻された後に地山面まで削平されているものと考えられる。後者の埋土を持つビットは時期的には後出である可能性がある。

SD-01は幅12cm、深さ6cmを測り、調査区を東西方向に横断する溝状遺構である。黒色の埋上（第20層）を持つが、出土遺物は無く、遺構の性格は不明である。

SD-02は幅100cm、深さ5~24cmを測り、調査区を東西に横断する溝状遺構である。ビットと同じ淡黒灰色の埋土（第21層）を持つ。埋土中からは須恵器の甕片（No.46）、土師質土器の环片（No.43、44）が検出された。

ビット中の出土遺物は、第21層の埋土を持つビット中には須恵器や土師器、土師質土器の細片を含むものが多く、P-7からは上師質土器の环片（No.45）、P-11からは土師質土器の环（No.41）、P-19からは土師質土器の环片（No.42）などが検出されている。また茶褐色の埋土を持ち後出のビットと考えられるP-12、14、27からは上師器片や上師質土器片が検出されたが、いずれも細片であるために時期が分かるものや実測出来るものは無かった。

⑥F地点調査区 (87.5~105m) (第11図、第17図)

F地点調査区は市道神魂神社線の既設マンホールを起点として南方へ87.5~105mまでの区間である。

【上層堆積状況】

上層の堆積状況は、現況の道路舗装面から下へ30cmまでは道路関連の土層（第1~2、19層）である。その下は調査区北側では暗褐色を呈する粘質土（第4層）が約20~30cmの厚さで存在する。この第4層は調査区中央部で灰色粘質土（第24層）がブロック状に混じるようになり、中央部以南では第

24層へ、更に黄茶褐色の第26層へと変化するが、いずれの土層も遺物はほとんど含まず道路敷設時の盛上であろうと思われる。これらの土層の下は調査区中央部では地山面（第6層）が現れるが、調査区北側及び南側では淡黒灰色の硬い土層（第21層）が見られた。この土層はピットや溝状遺構の埋土と同じものであった。地山面のレベル差はほとんど無く、平坦であった。なお、地山直上から染付皿片（No.51）、陶器の高台部片（No.52）が検出されたことが注目される。

【検出遺構】

地山面においてピット状遺構23箇所（P-1～23）、土壤状遺構2箇所（SK-01～02）を検出した。ピットは小さいものでは直径20～30cm、深さ10～40cmを測り、大きなピットでは直径40～90cm、深さ20cm前後を測る。ピットの埋土は淡黒灰色土に黄色のブロックが混じってよく綿まとったもの（第21層）で、A地点と同様に一時期に埋め戻された可能性が考えられる。更に一度ピットが埋め戻された後に削平を受けているが、調査区中央部は地山面まで掘削が及んでいるのに対して、調査区北側と南側半分は第21層までで止まっている。ピットの埋土中には須恵器や土師器、土師質土器の細片を含んでいた。

SK-01は長さ90cm、幅50cm、深さ約40cmを測る長方形の土壤状遺構である。土壤中には拳大までの砂礫土（第27層）が詰まっており、これらに混じって黒瓦片、陶器のすり鉢片が検出されており、後世のものと考えられる。

SK-02は幅90cm、長さ70cm以上で調査区の西方に更に延びている。深さは10cmを測り、淡黒灰色の埋土（第21層）を持つ。埋土中の出土遺物は土師質土器の細片のみで、遺構の性格は不明である。

その他ピット中には須恵器や土師器、土師質土器の細片を含むものが多い。いずれも細片であるために時期の分かることは少ないが、P-6からは須恵器の壺片（No.49）と上師質土器の皿片（No.48）、P-15からは須恵器のかえりを持つ壺蓋片（No.47）と壺片（No.50）などが検出されている。

⑦G地点調査区（105～121m）（第12図）

G地点調査区は市道神魂神社線の既設マンホールを起点として南方へ105～121mまでの区間である。

【土層堆積状況】

上層の堆積状況は、現況の道路舗装面から下へ30cmまでは道路関連の土層（第1～2、19層）である。その下は調査区北側では黄茶褐色を呈する粘質土（第26層）が約50cmの厚さで存在する。この第26層は調査区中央部以南で淡褐色土（第30層）へと変化するが、いずれの土層も遺物はほとんど含まず道路敷設時の盛上であろうと思われる。第26層中からは須恵器片、黒瓦片、陶器片が検出された。これらの土層の下は調査区北側では厚さ10～15cmを測る淡黒灰色の硬い上層（第21層）が見られた。この土層は調査区南側では灰褐色土（第31層）へと変化するが、第21層と同質であると思われる。地山のレベル差は調査区の北端と南端では約10cm程あり、南側ほどレベルが高い。

【検出遺構】

G地点調査区では遺構は検出されなかった。またF地点と同様に須恵器片、陶器片、黒瓦片などがわずかに検出された。

③H地点調査区（121～135m）（第13図、第17図）

H地点調査区は北方の既設マンホールを起点として南方へ121～135mまでの区間である。

【土層堆積状況】

土層の堆積状況は、調査区北側ではG地点の南端部とほぼ同様で、現況の道路舗装面から下へ30cm～40cmまでは道路関連の上層（第1～2、28層）で、その下は道路敷設時の盛土と思われる淡褐色土（第30層）が最大40cmの厚さで存在する。さらにその下は灰褐色を呈し固く締まった第31層が10cm程度の厚さで存在するが、調査区の中央部で消失する。また調査区の中央部では第30層も薄くなり、やがて消失し、第28層へと変化する。地山のレベル差は調査区の北端と南端では約40cm程あり、南側ほどレベルが高い。

【検出遺構】

地表面においてピット状遺構1箇所（P-1）、溝状遺構2箇所（SD-01～02）を検出した。ピットは直径30cm、深さ10cmを測る浅いもので、第31層と同質の埋土を持つ。埋土中からの出土遺物は検出されなかった。

SD-01は幅1.0～1.3mを測り、調査区を東西に横断する形で検出された溝状遺構であるが、その埋土が道路敷設時の盛土と思われる土層と同じ（第28層）であることから、道路敷設時の搅乱であるものと考えられるが、埋土中から須恵器の高环脚部片（No53）が検出された。

SD-02は幅50cm、深さ10cmを測る溝状遺構である。調査区を東西に横断する形で検出された。淡褐色の硬く締まった埋土（第30層）を持ち、埋め戻されたような状況が見られるが、出土遺物は無く、遺構の性格は不明である。

④I地点調査区（0～12m）（第14図、第17図）

I地点調査区は市道黒田畦3号線のマンホールM-1を起点として西方へ0～12mまでの区間である。

【土層堆積状況】

土層の堆積状況は、現況の道路舗装面から下へ35cmまでは道路関連の上層（第1～2層）で、その下は道路敷設時の盛土と思われる暗褐色土（第28層）が約10cmの厚さで存在する。その下は橙褐色を呈する地表面（第6層）であるが、地表面は西方に向かってレベルが下がっており、そのレベル差は調査区の東端と西端では約30cm程ある。

【検出遺構】

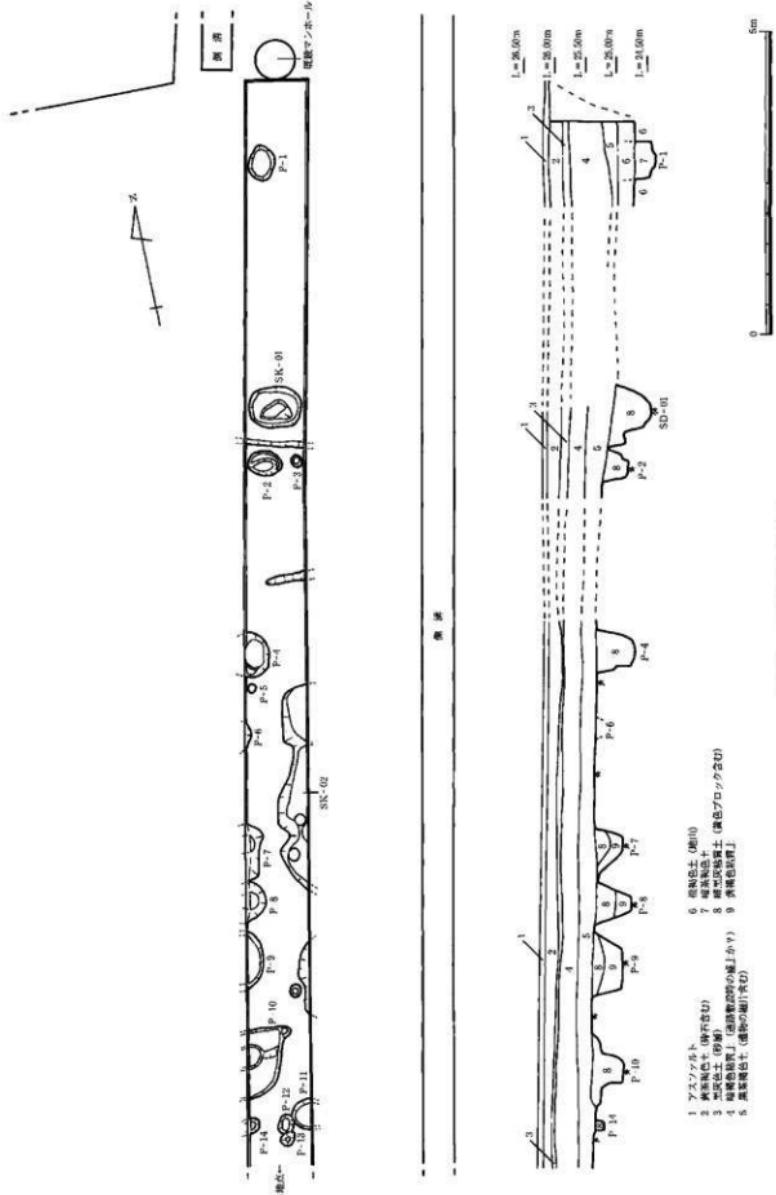
地表面においてピット状遺構26箇所（P-1～26）、溝状遺構2箇所（SD-01～02）を検出した。ピットは小さいものでは直径15～25cm、深さ10～20cmを測り、大きなピットでは直径35～40cm、深さ15～20cmを測る。ピットの埋土は淡黒灰色土に黄色のブロックが混じってよく締まったもの（第21層）で、A地点と同様に一時期に埋め戻された可能性が考えられる。更に一度ピットが埋め戻された後に地表面まで削平を受けている状況が見られる。

SD-01は幅1.0～1.2m、深さ18cmを測り、南北に縦断する形で検出された溝状遺構である。ピット

と同様の埋土（第21層）を持ち、埋土中から須恵器片、土師器片、土師質上器片が検出された。

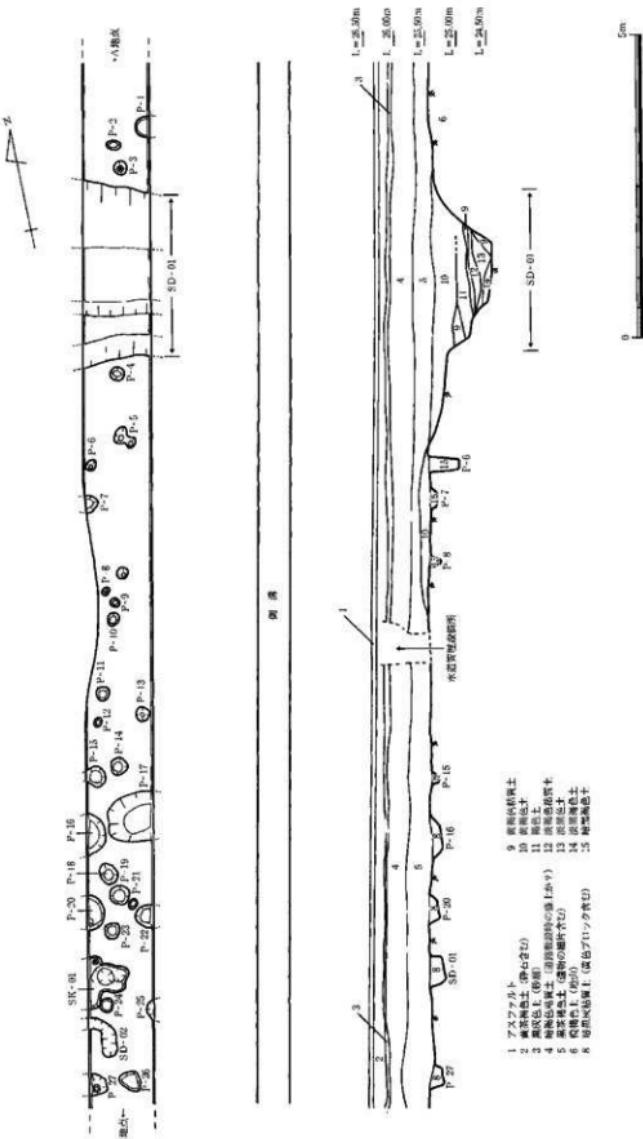
SD-02は幅1.4～1.6m、深さ18cmを測り、南北に縦断する形で検出された溝状造構である。SD-01やピットと同様の埋土（第21層）を持ち、埋土中から須恵器高台坏片（No56）、土師器片、土師質土器片、陶器片が検出された。

その他ピット中には須恵器や土師器、土師質上器の細片を含むものが多い。いずれも細片であるために時期の分かることは少ないが、P-8からは須恵器の台付壺底部片（No58）、P-11からは須恵器の坏片（No55）、P-12からは須恵器の平底坏片（No57）、P-15からは須恵器の坏蓋片（No54）などが検出されている。

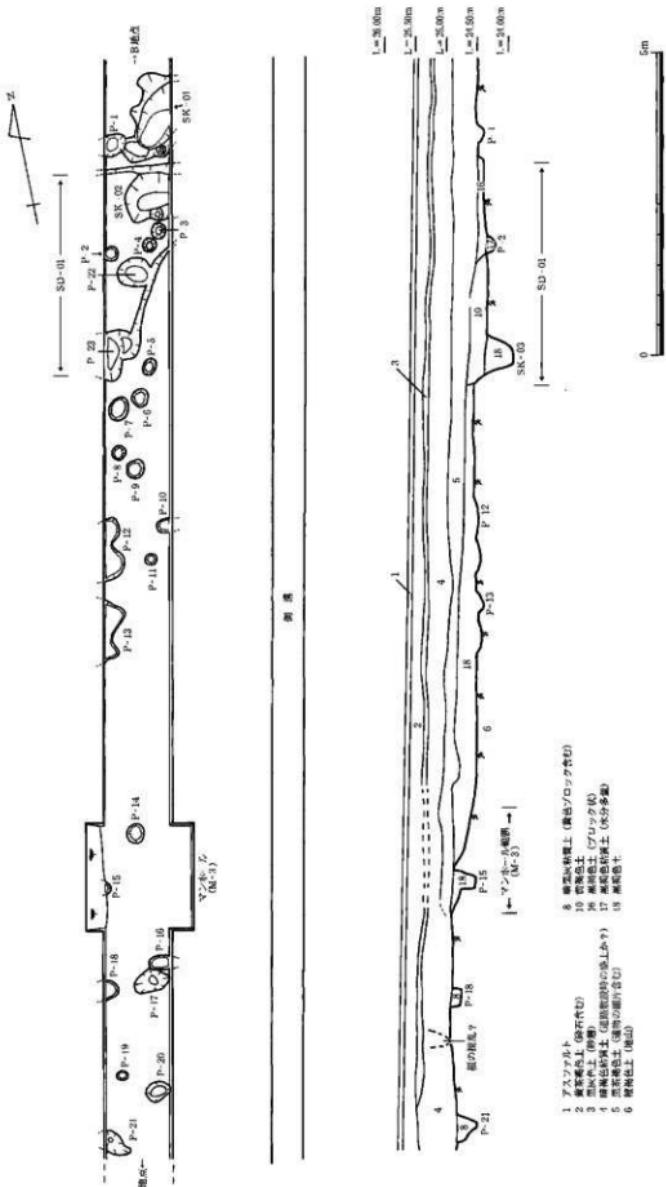


第6図 A地点調査結果図

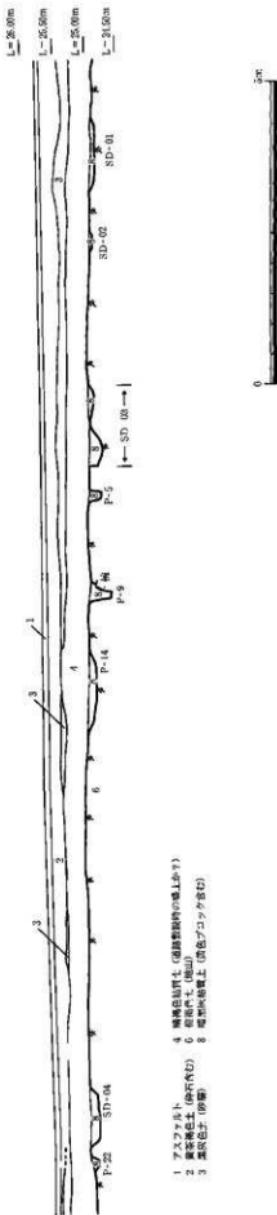
第7図 B地点調査成図



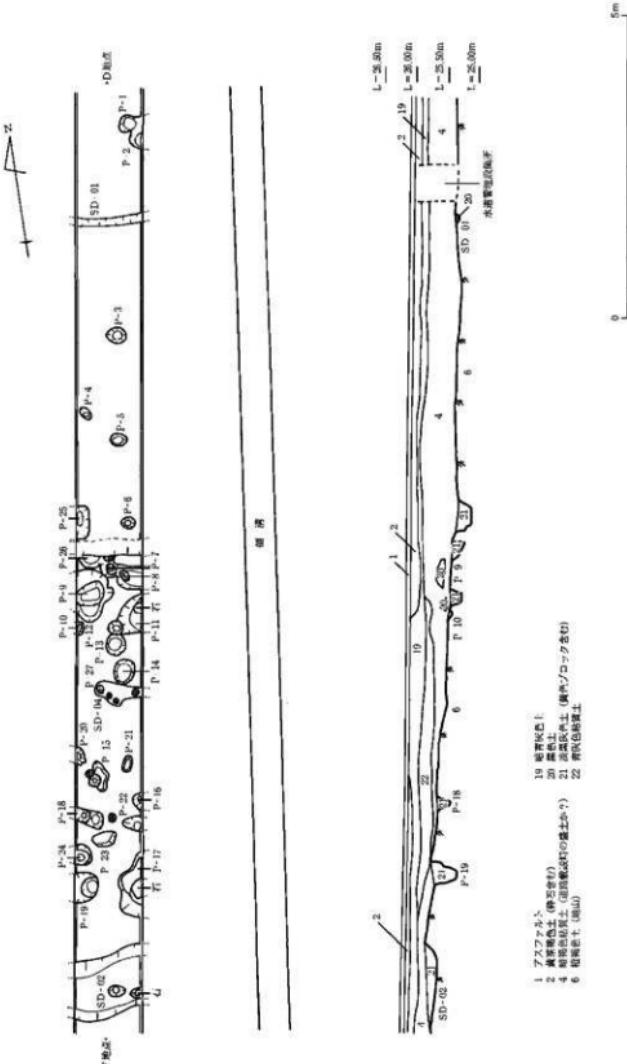
第8図 C地点調査成果図



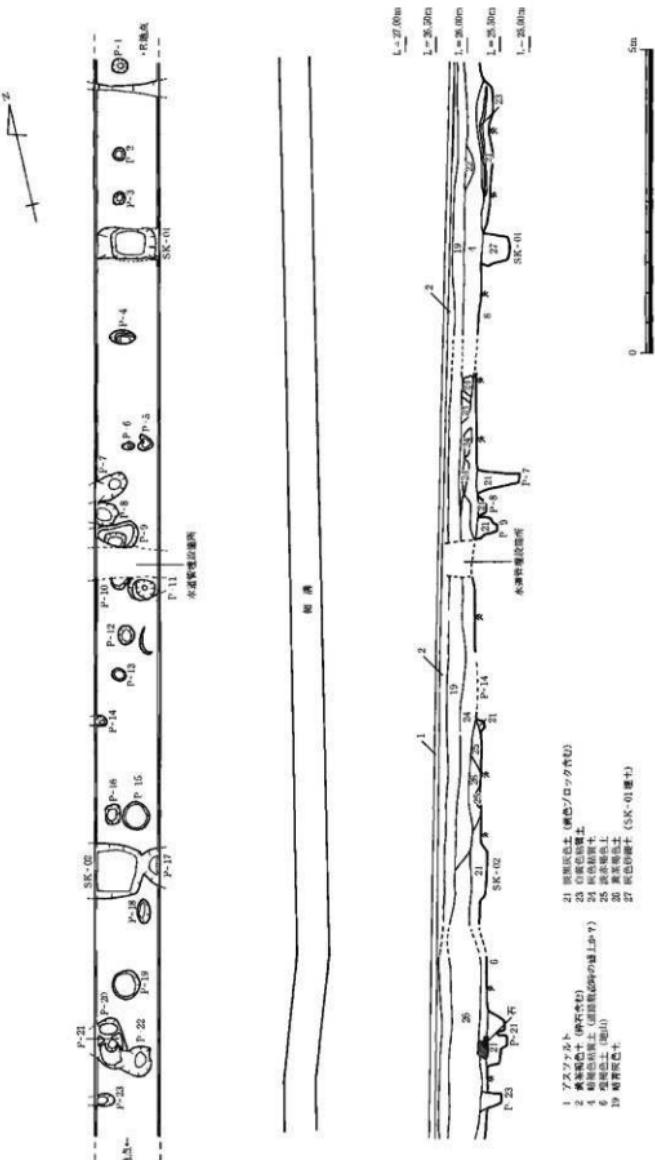
第9図 D地点調査成績図

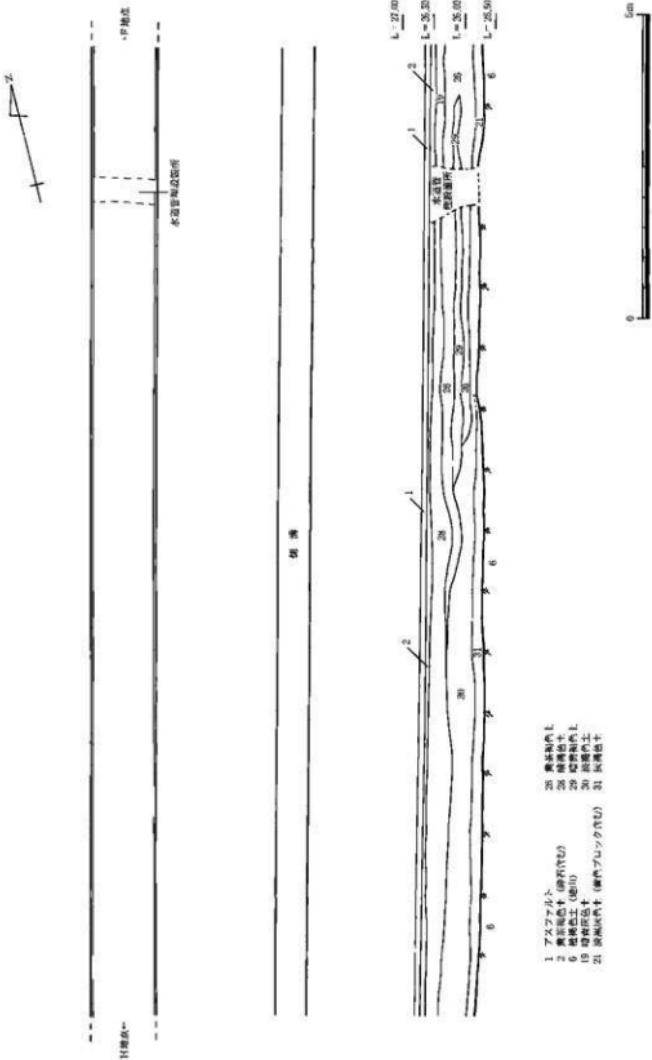


- 1 ツクツカルト
- 2 黒茶色土 (赤瓦色)
- 3 黑灰土 (赤茶)
- 4 黄褐色粘土 (赤茶色砂利の混入)
- 5 砂質粘土 (赤茶)
- 6 砂質粘土 (赤茶)
- 7 黑灰土 (赤茶)
- 8 黑灰土 (赤茶) (褐色コシケ含む)

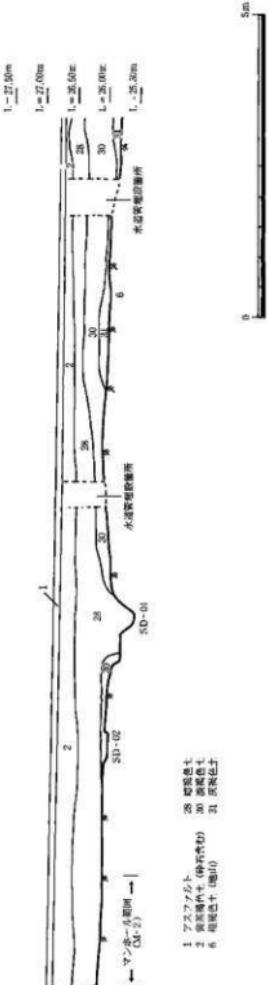
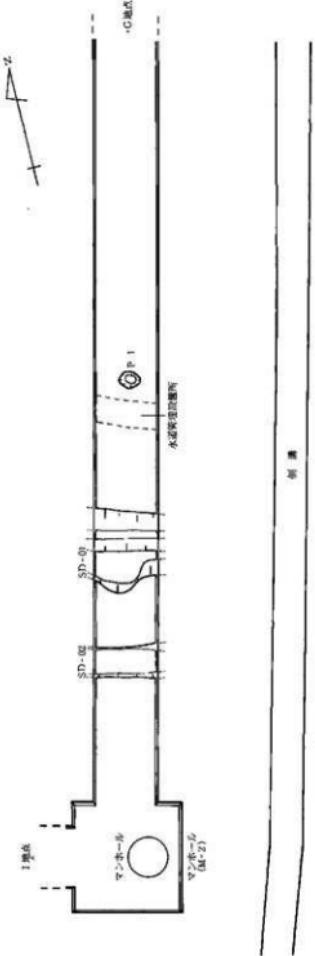


第10図 E地点調査成果図



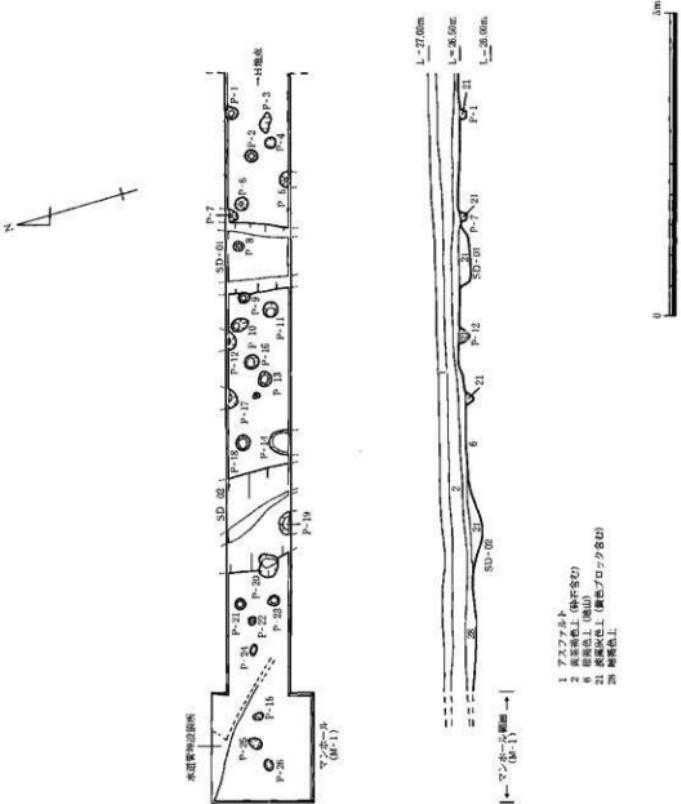


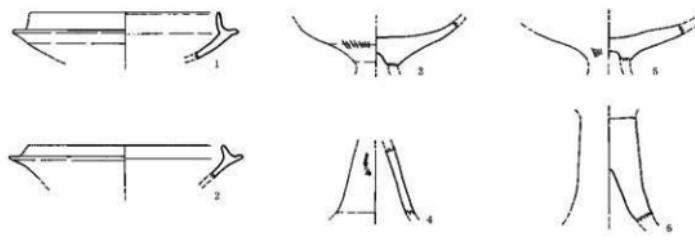
第12図 G地点調査成果図



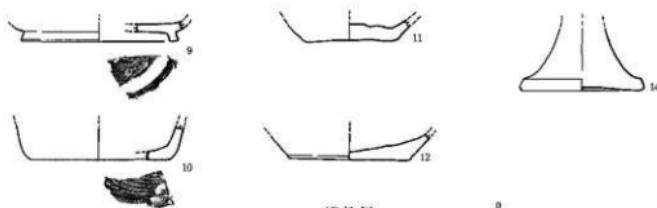
第13圖 H地點調查成果圖

第14図 地点調査成績図



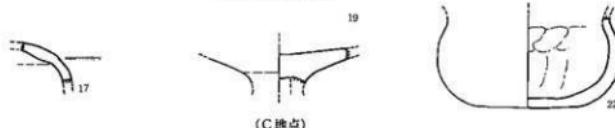
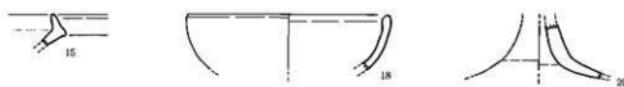


(A地点)



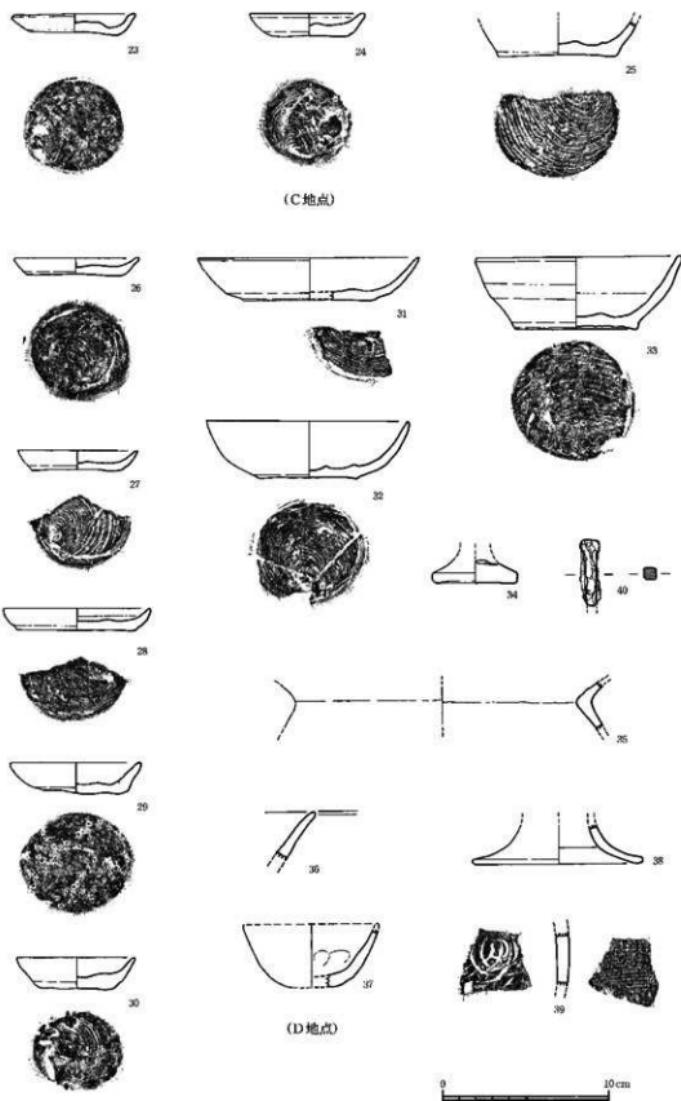
(A地点)

0 10 cm

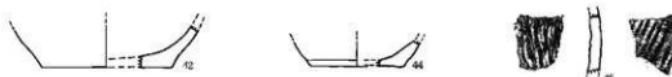


(B地点)

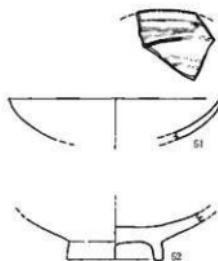
第15図 A～C地点出土遺物実測図



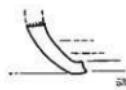
第16図 C～D地点出土遺物実測図



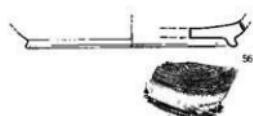
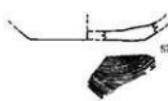
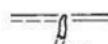
(E地点)



(F地点)



(II地点)



(I地点)

第17图 E～I地点出土遗物实测图

(3) 平成15年度調査

平成15年度は宇神主屋敷地区、宇元鳥居地区および字馬場地区の、市道神魂神社線、市道黒田畦2号、3号、4号、10号線において、下水管埋設溝の掘削工事に合わせて立会い調査を行った。調査範囲は幅1.0m、総延長470mで、J～Q地点に分けて実施した。(第4、5図)

①J地点調査区（既設M→M3）

J地点調査区は市道黒田畦10号線の既設マンホールを起点として南方のM3までの83m区間である。マンホールM5設置箇所の掘削時の立会では、現況の道路舗装面から下へ40cmまでは道路関連の土層であり、碎石や砂の層であった。その下には約80cmの厚さで淡青灰色の砂礫層が見られたが、無遺物層であり、これも道路敷設の際の盛土であろうと考えられる。その下は暗茶褐色の粘質土が60cm以上の厚さで堆積していたが、これは水出閃速の土層である。結局マンホール部分では工事による掘削深度では地山面は現れず、遺物も検出されなかった。このためJ地点はマンホール部分の立会調査に留めることとした。

②K地点調査区（M1→M3）

K地点調査区は市道黒田畦10号線のマンホールM1を起点としてM3までの50m区間である。マンホールM1設置箇所付近の掘削時の立会では、現況の道路舗装面から下へ40cmまでは道路関連の上層であった。その下で黄褐色の地山が見られ、直径15～20cm程のピットが2箇所検出されたが、そこからM3へ至る区間は現道を嵩上げする以前の道路面が検出されたのみで、それ以上の調査は実施しなかった。

③L地点調査区（M16→M2）（第18～20図）

L地点調査区は市道神魂神社線のマンホールM16を起点として、平成14年度に設置したマンホールM2までの45m区間である。調査はL地点を①～③までの小区間に分けて実施した。但しL地点③からマンホールM2までの約8m区間は工事と調査の日程調整がつかず未調査である。

【土層堆積状況】

L地点①～③の上層堆積状況は、現況の道路舗装面から下へ40～50cmまでは道路関連の土層（第1～2層）で、その下は道路敷設時の盛土と思われる灰褐色の砂質土（第6層）が最大40cmの厚さで存在する。その下は黄褐色～褐色の地山面（第5層または第7層）であるが、地山面は南方に向かってレベルが上がりおり、そのレベル差はL地点①の南端とL地点③の北端では約1.0m程ある。

【検出遺構】

L地点調査区では遺構、遺物ともに検出されなかった。

④M地点調査区（M1→M13）（第21～24図、第39～40図）

M地点調査区は市道黒田畦3号線の平成14年度に設置したマンホールM1を起点として、西方へM

13までの60m区間である。調査はM地点を①～⑤までの小区間に分けて実施した。但しM地点④からマンホールM13までの約9m区間は工事と調査の日程調整がつかず未調査である。

【土層堆積状況】

M地点①では、現況の道路舗装面から下へ40cmまでは道路関連の土層（第1～2層）で、その下は道路敷設時の盛土と思われ暗茶褐色の粘質土（第9層）が15cm程の厚さで堆積しており、その下は明茶褐色の地山（第10層）が観察された。この地山面上ではピットが検出された。

M地点②では、第9層中に瓦が多量に混じり、第9層の下では玉砂利や遺物を含み、硬く締まった黒灰色土（第13層）が検出された。この土層中からは須恵器の壺蓋片（No.59～62）、平底の皿片（No.63）、高台付きの皿片（No.67、68）、壺身片（No.64～66）、壺口縁片（No.69）、壺類の口縁部と思われる破片（No.70、71）、短頸壺口縁部片（No.72）、甕口縁部片（No.73～75）、台付き壺の底部片（No.76、77）、土師器の壺口縁部片（No.78）、把手片（No.79）など、主に8世紀末～9世紀にかけての須恵器や土師器片が土器溜り状となって多量に検出された。この第13層の下は地山（第10層）が現れ、ピットや溝状遺構が検出された。地山面はM地点②から西へ向かってレベルが下がって行き、M地点③、④では地山面上に軟らかい黑色土（第14層）が堆積していた。これは炭や遺物の細片を含む土層であるが、後世のものである可能性がある。地山のレベル差はM地点①の東端とM地点④の西端では約1.0m程ある。

【検出遺構】

M地点①と②の地山面からピット状遺構10箇所（P-1～10）、溝状遺構1箇所（SD-01）、土壤状遺構1箇所（SK-01）を検出した。M地点②以西では遺構は検出されなかった。

ピットは小さいものでは直径15～30cm、深さ15～30cmを測り、大きなピットでは直径48～70cm、深さ15～25cmを測る。ピットの埋土は黒色土（第11層）で、ピットの大小にかかわらず同じ埋土であることから、一時期に埋め戻された可能性が考えられる。

SD-01は幅45～70cm、深さ20cmを測り、調査区を南北に縱断する形で検出された溝状遺構である。ピットと同様の埋土（第11層）を持つが、埋土中からの出土遺物は無く、遺構の性格は不明である。

SK-01は幅58～70cm、深さ16cmを測る。調査区の南北方向に更に広がるため、あるいは溝状遺構である可能性もある。土壤中には須恵器の甕片が多量に詰まっていた。

その他ピット中には須恵器や土師器、土師質土器の細片を含むものが多い。いずれも細片であるために時期の分かるものは少ないが、P-9からは須恵器の蓋に付く擬宝珠状のつまみが検出されている。

⑤N地点調査区（M 6→M11）（第25～27図、第40～41図）

N地点調査区は市道黒田畦4号線のM 6を起点として、東方へM11までの53.5m区間である。調査はN地点を①～③までの小区間に分けて実施した。

【土層堆積状況】

N地点①では、現地表面が南から北へ向けてレベルが下がっているが、土層の堆積にも同じ状況がある。

見られた。遺物を含む土層は、表土から2層下の黄灰色粘質土（第22層）で、マンホールM7付近で現れ、北方へ向けてレベルを下げながら最大50cmの厚さで堆積している。土層中には須恵器（No.80、83）や土師器、青磁（No.82）の破片を含むが、染付（No.81）や黒瓦の破片も含んでいることから、江戸時代以降の上層であると思われる。またこの第22層は、マンホールM6付近で第18～19層に切られて消失している。第19層中にも遺物を含むが、須恵器片に混じって黒瓦片や陶器片が見られることから、第22層と同じように江戸時代以降の土層であると思われる。地山は黄褐色を呈する土層（第27層）で、マンホールM7付近から南へ向ってレベルが上がって行く。

N地点②ではN地点①から続く地山がマンホールM9付近まで上昇した後にマンホールM10付近で削平を受けたように下降する。そこに堆積している黒色土（第29層）中には須恵器片に混じって黒瓦片や陶器片が見られるため、江戸時代以降の擾乱であるものと考えられる。

N地点③ではN地点②から続く第29層が最大60cmの厚さで確認されたが、マンホールM11付近では消失して灰色粘土（第32層）に変化する。第32層も若干須恵器片、黒瓦片、ガラス片を含み、近～現代の土層であるものと考えられる。

【検出遺構】

N地点調査区では遺構は検出されなかった。

⑥O地点調査区（M11→M13）（第28～32図、第41図）

O地点調査区は市道黒田畠2号線のM11を起点として、北方へM13までの84m区間である。調査はO地点を①～⑤までの小区間に分けて実施した。但しO地点④からO地点⑤までの約11m区間は工事と調査の日程調整がつかず未調査である。

【土層堆積状況】

O地点①～③まではN地点③から続く灰色粘土（第32層）が厚さ40～60cmの厚さで存在し、染付を含む陶磁器片や土師質上器片をわずかに含んでいる。この上層はO地点④で薄くなり、第36層やO地点⑤での第38、39層と併存しながら存在している。O地点⑤では第32、38、39層中から須恵器片（No.88、89）や土師質上器片（No.90）の他に染付や唐津焼の皿（No.84～87）などの陶磁器片、青磁片、白磁片、黒瓦片などが検出され、江戸時代以降の上層であると考えられる。

【検出遺構】

O地点で検出された遺構は、O地点②～④でピット状遺構9箇所（P-1～9）、溝状遺構1箇所（S-D-01）である。遺構は下水道工事により掘削が及ぼないものについては平面検出に留めたが、直徑25～100cmを測るもので、黒灰色の埋土（第35層）を持つ。

SD-01は幅1.3～1.4cm、深さ20cmを測り、調査区を東西に横断する形で検出された溝状遺構である。ピットと同様の理土（第35層）を持つが、理土中の出土遺物は無く、遺構の性格は不明である。

⑦P地点調査区（M13→M15）（第33～36図、第41図）

P地点調査区は市道黒田畠2号線のM13を起点として、北方へM15までの62m区間である。調査は

P地点を①～④までの小区間に分けて実施した。

【土層堆積状況】

P地点①では、現況の舗装道路面から下へ約70cmまでは道路関連の土層（第17層）があり、その下には青灰色土（第43層）と灰色砂質土（第45層）が存在するが、これらも後世の堆積土である可能性が考えられる。その下は遺物包含層で、黒灰色を呈する粘質土（第46層）中に須恵器片（No.91～98）、土師器片（No.102）、土師質土器片（No.99、100）、白磁碗口縁部片（No.101）、などを含んでいたが、出土瓦片も若干検出されていることから江戸時代以降の上層で、O地点⑤で見られた遺物包含層（第32、38、39層）と同質のものである可能性が考えられる。なお、この包含層はP地点②まで続いている状況が観察された。

P地点③から北方は遺物の出土量は少なくなる。道路関連の土層（第17層）の下には少い真砂土（第52層）の他、青灰色土（第43層）や灰色砂質土（第45層）が堆積するが、いずれも後世の土層と思われる。最下層では有機物を含む黒灰色土（第51層）の上層が堆積しているが、この土層中からわずかに須恵器片と土師器片が検出されたのみである。P地点④では第51層も現れず、道路関連の土層（第17層）の他は後世の土層（第52、43、45層）のみであった。

【検出遺構】

P地点調査区では工事の掘削深度が地山面に至らないことも関係して遺構は検出されなかった。

⑧Q地点調査区（M15→M15-1）（第37～38図）

Q地点調査区は市道黒田塚2号線のM15を起点として、北方へM15-1までの32.5m区間である。調査はQ地点を①～②までの小区間に分けて実施した。

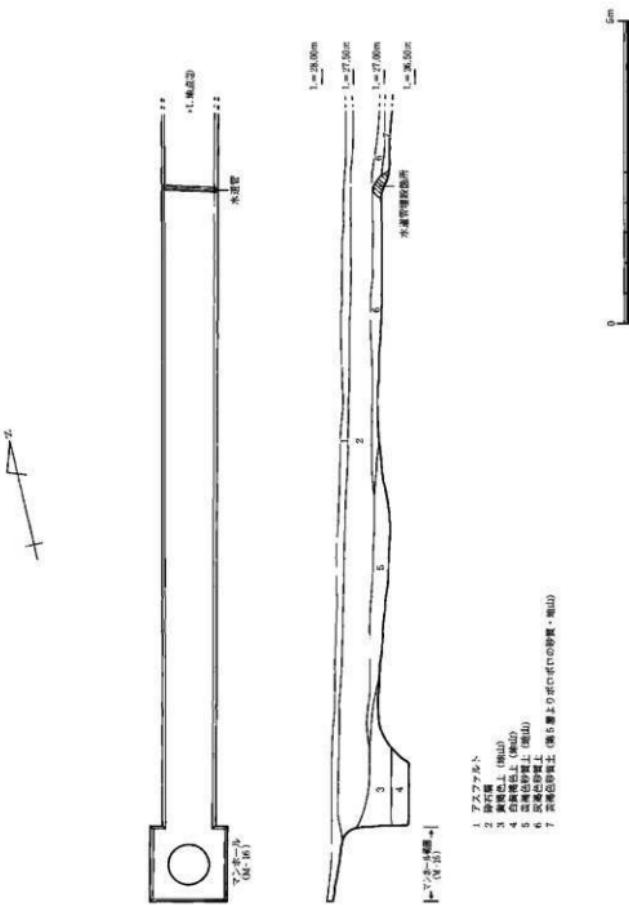
【土層堆積状況】

Q地点①、②ともに道路関連の土層の下は後世の土層（第52、43、45層）のみで出土遺物も検出されなかった。

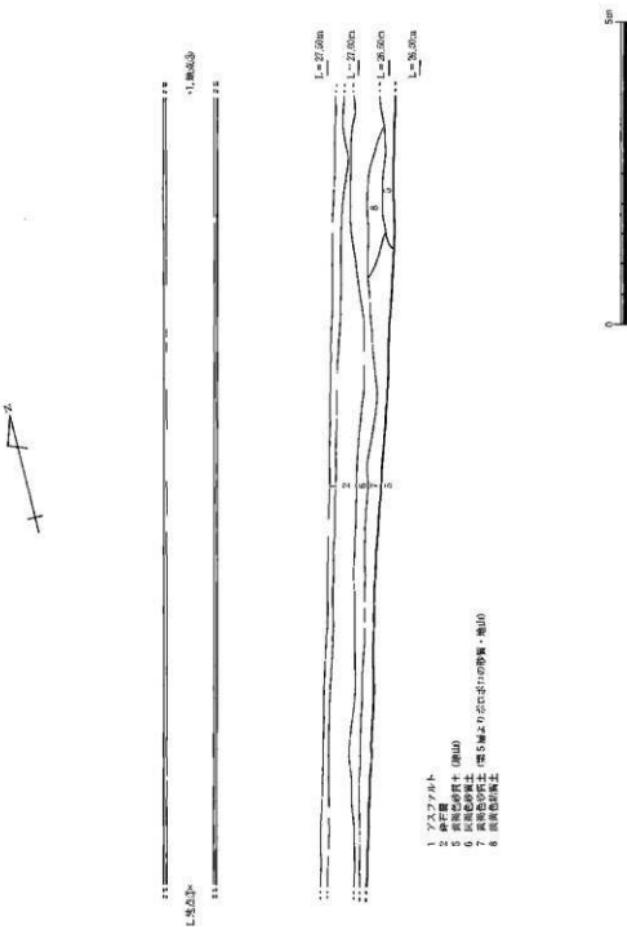
【検出遺構】

Q地点調査区では工事の掘削深度が地山面に至らないことも関係して遺構は検出されなかった。

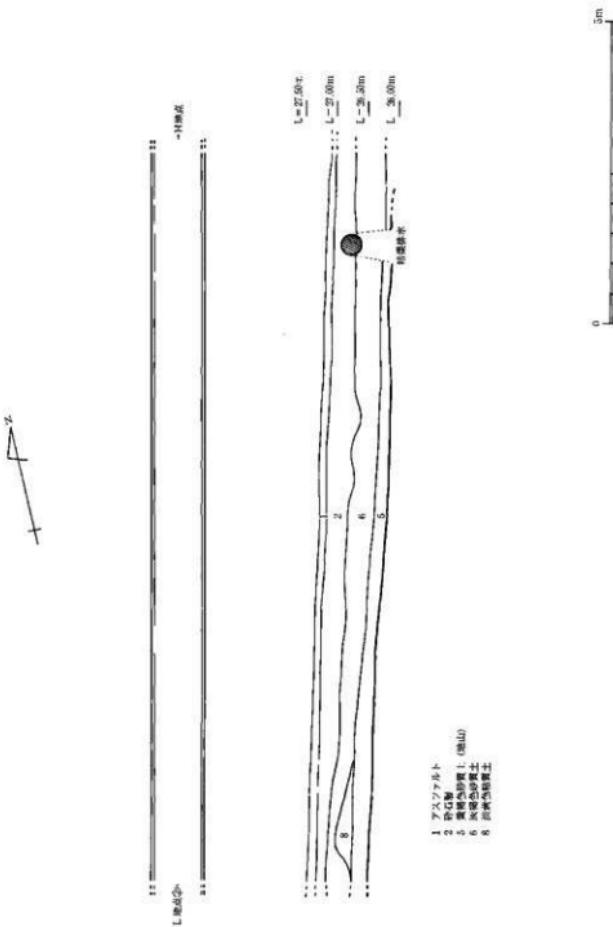
第18図 地点①調査結果図

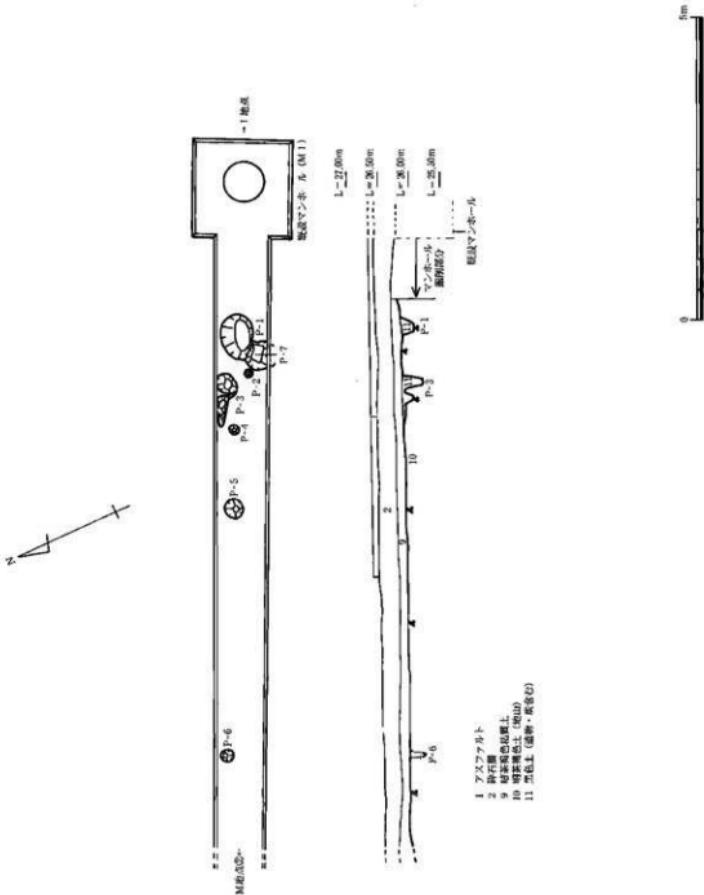


第19図 L地点②調査結果図

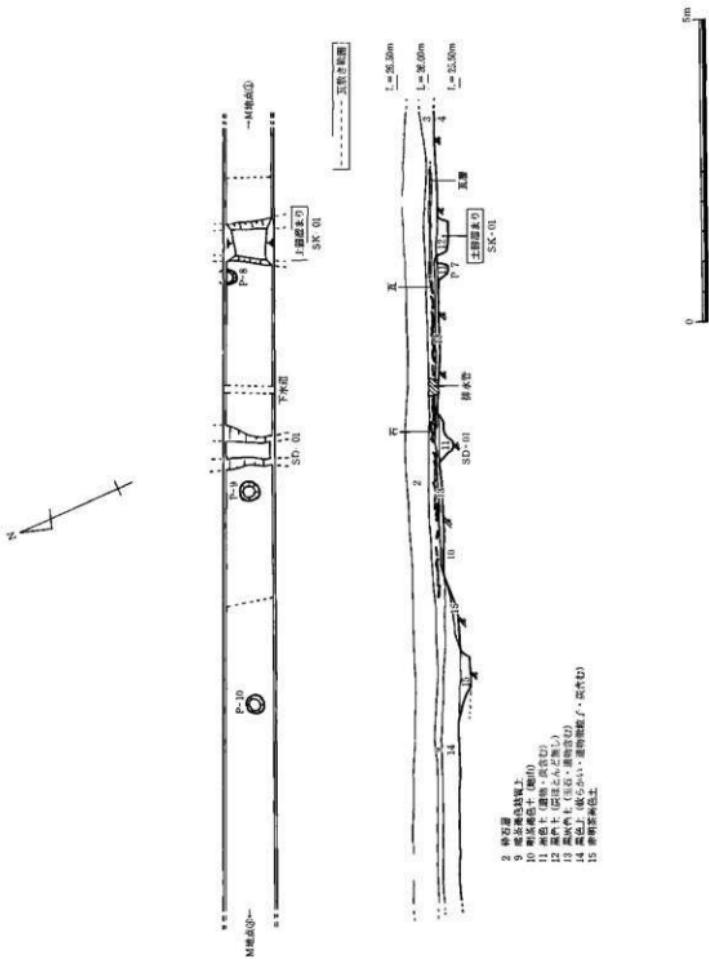


第20図 L地点③調査成果図

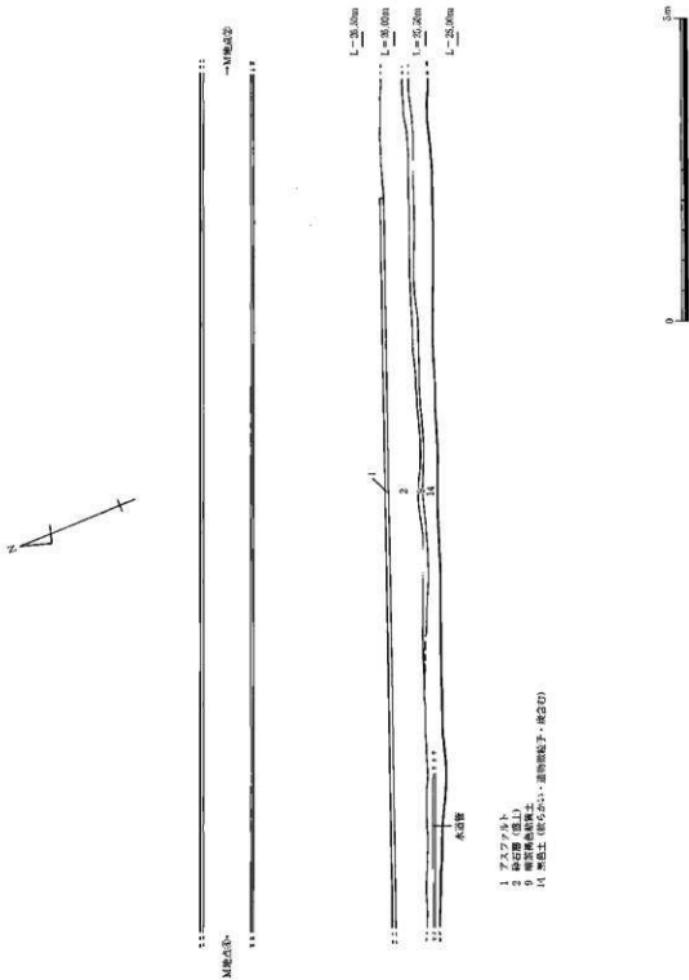


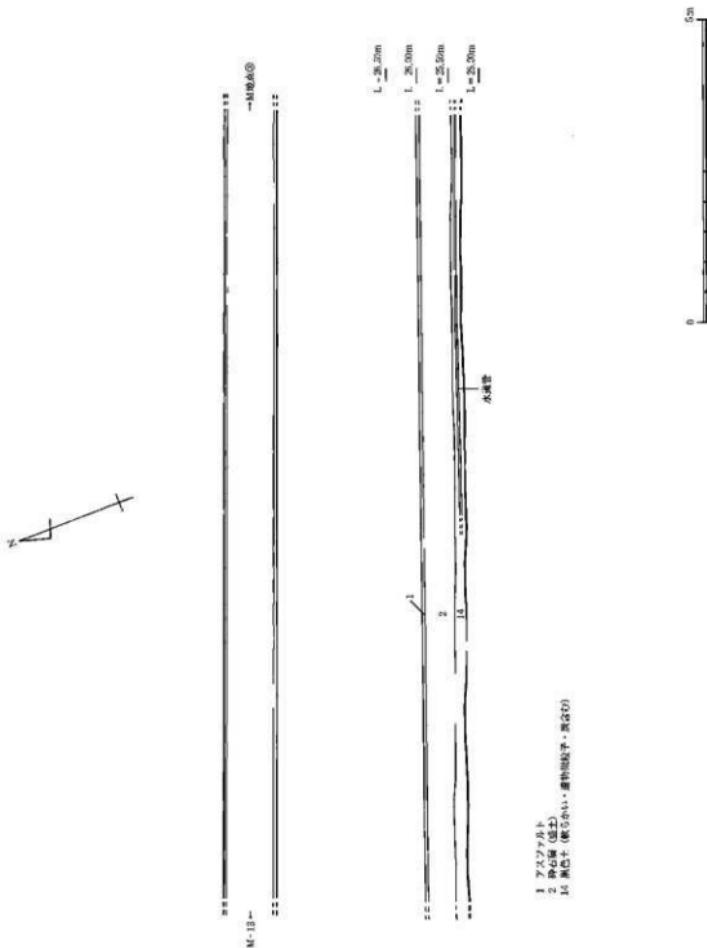


第22図 M地点②調査結果図



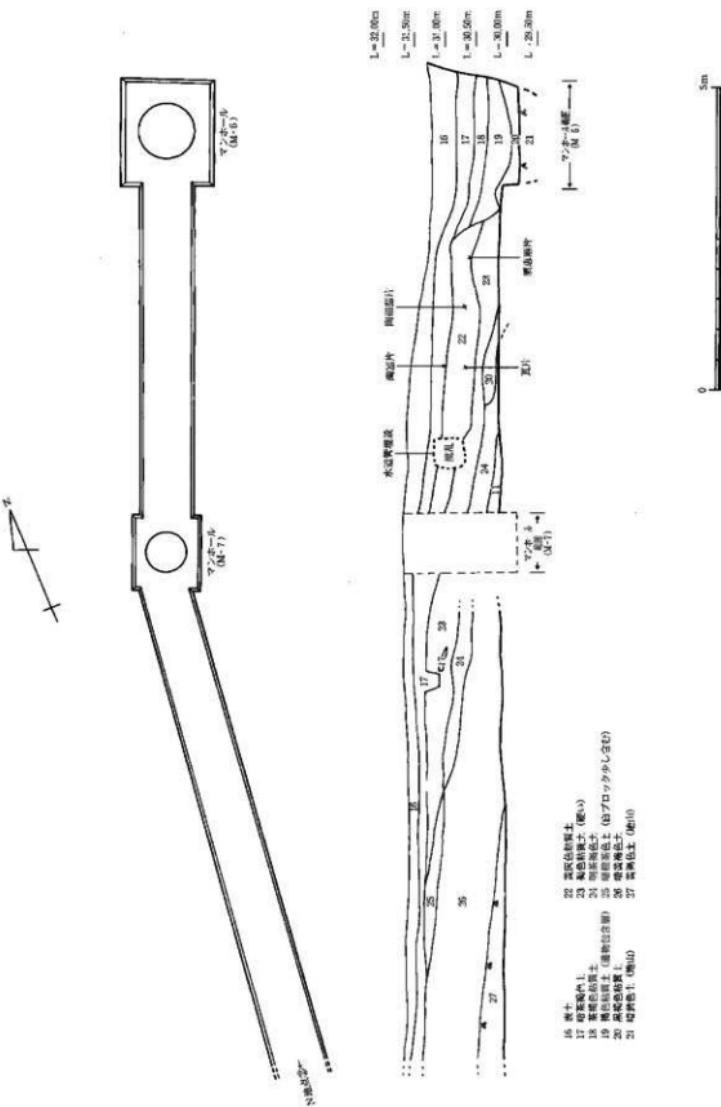
第23図 M地点③調査成績図

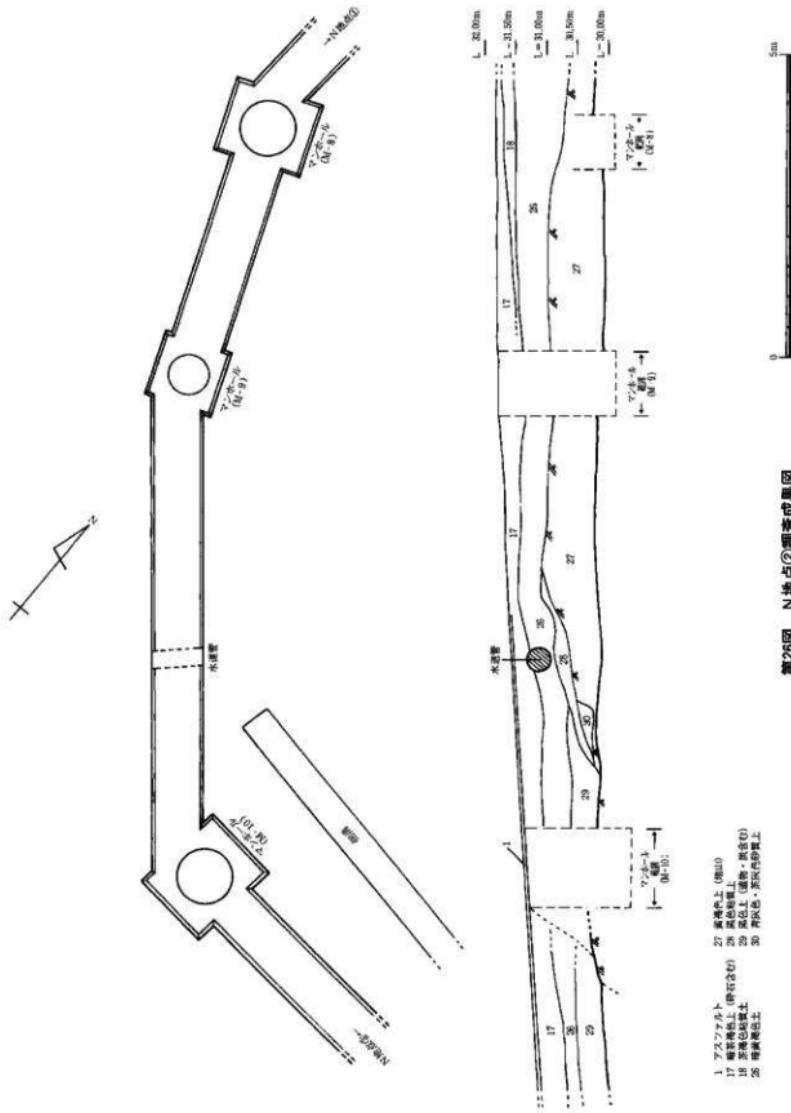




第24図 M地点④調査成果図

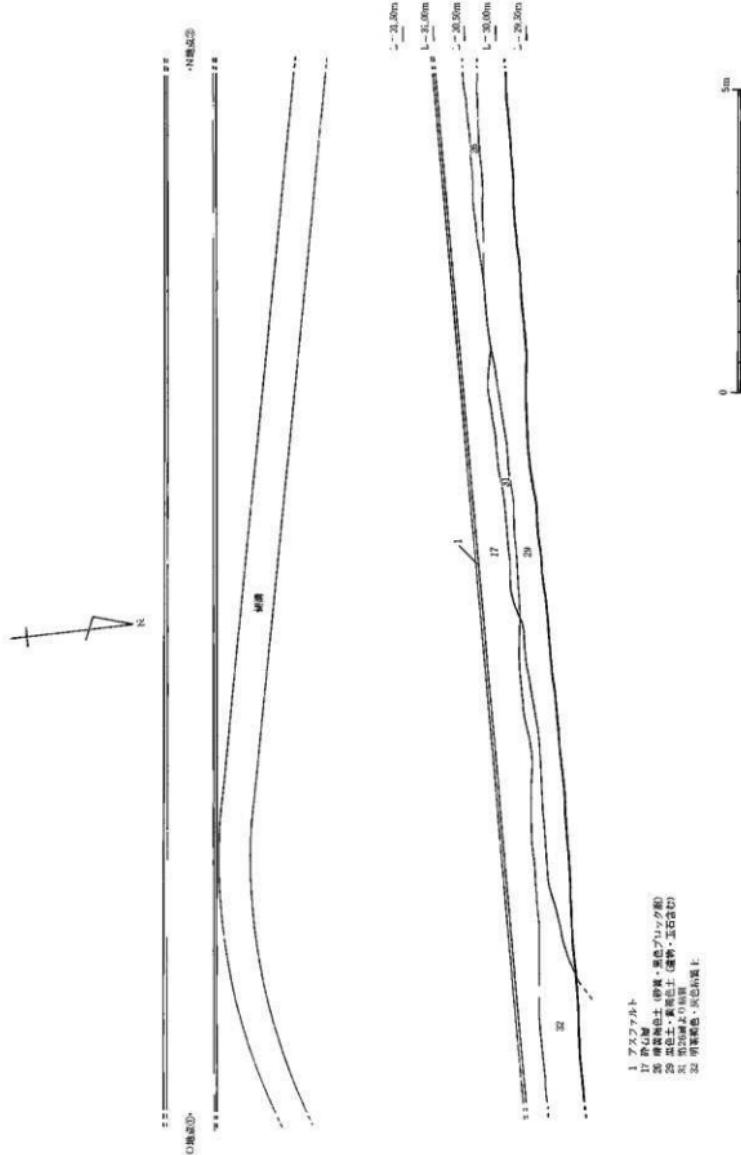
第25図 N地点①調査成果図



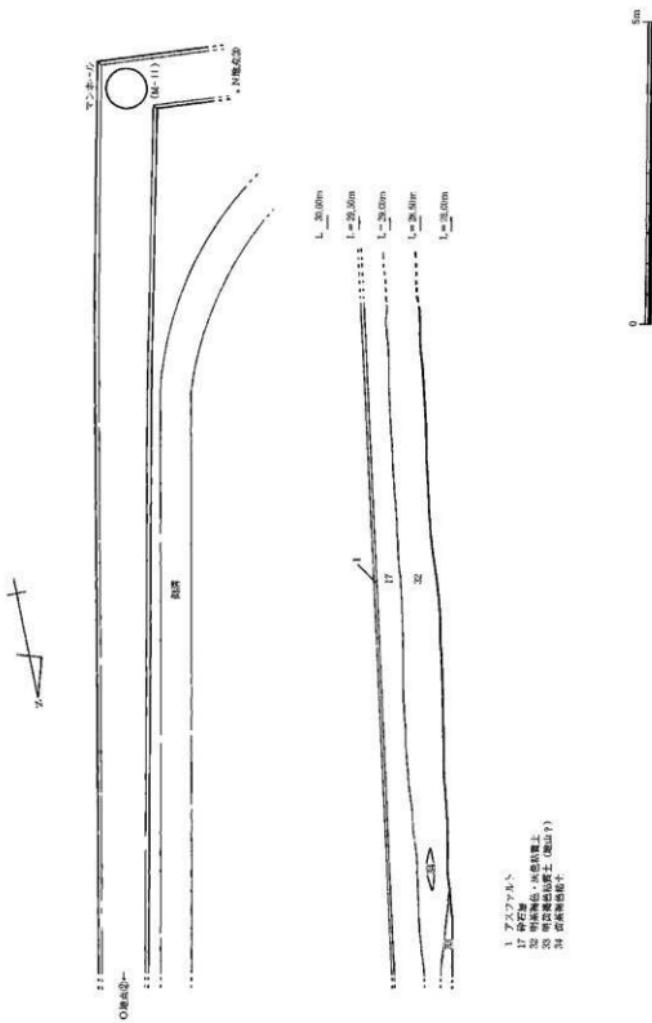


第26図 N地点②調査成果図

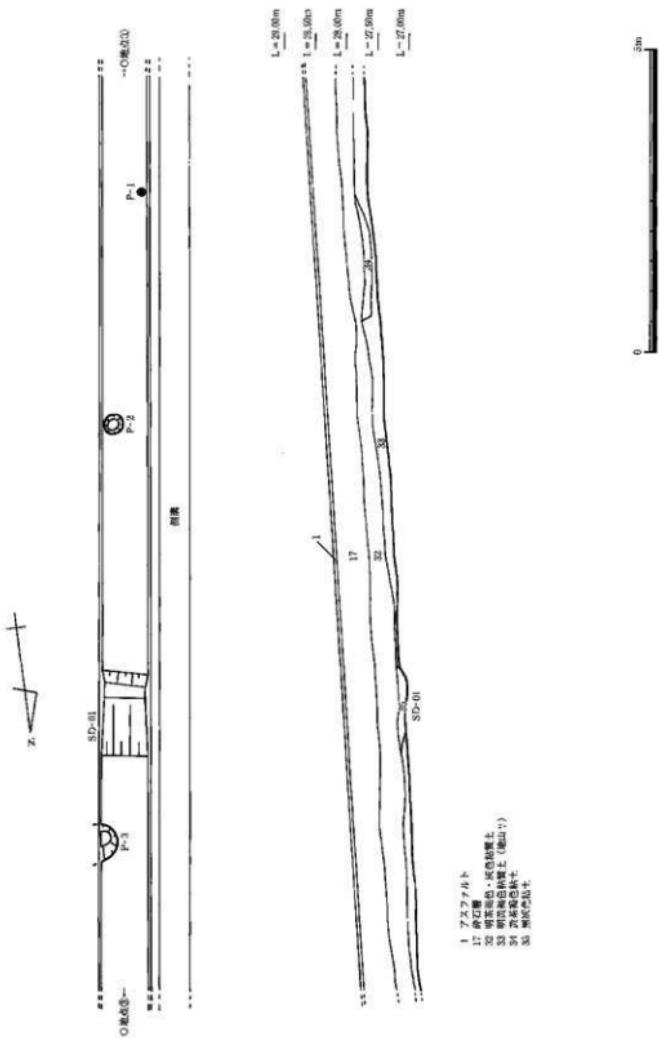
第27図 N地点③調査結果図

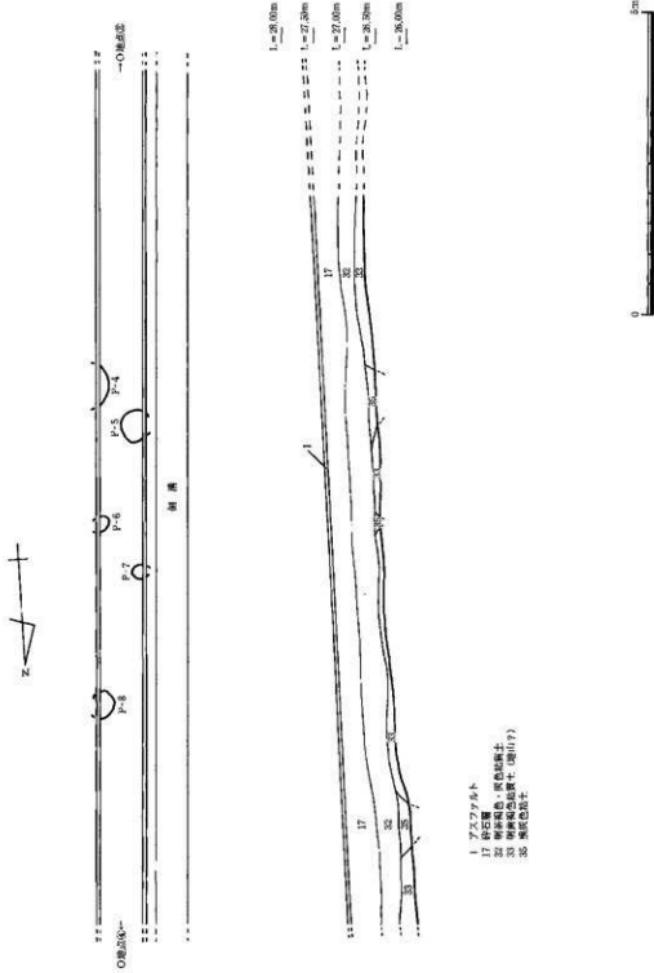


第26圖 O地点①調查成果圖

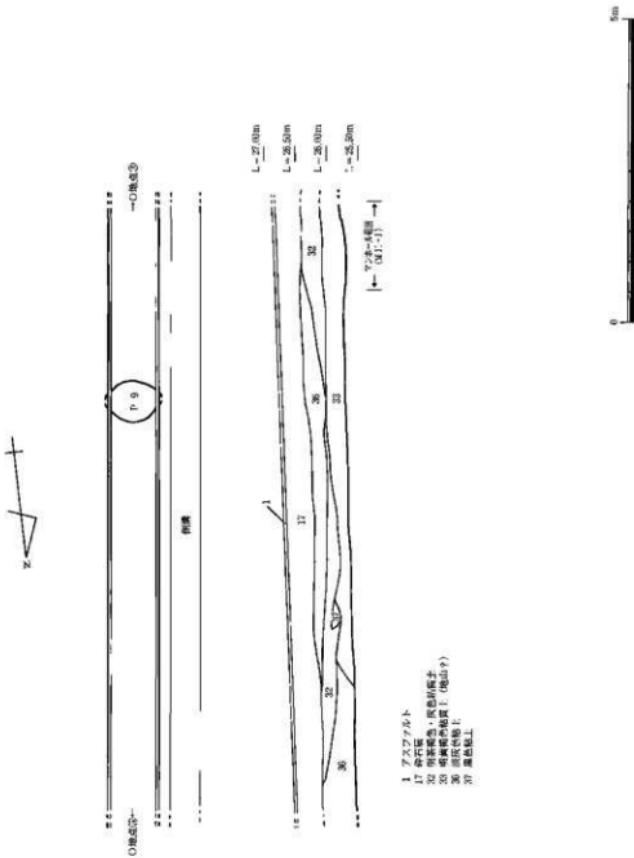


第29図 ○地点②調査成果図



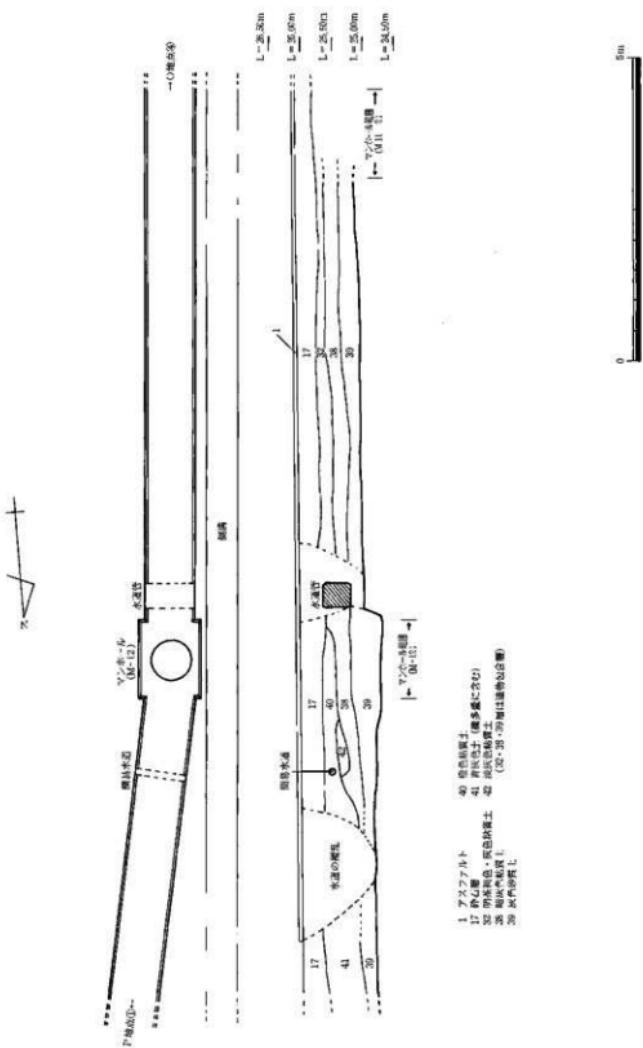


第30図 ○地点③調査成果図

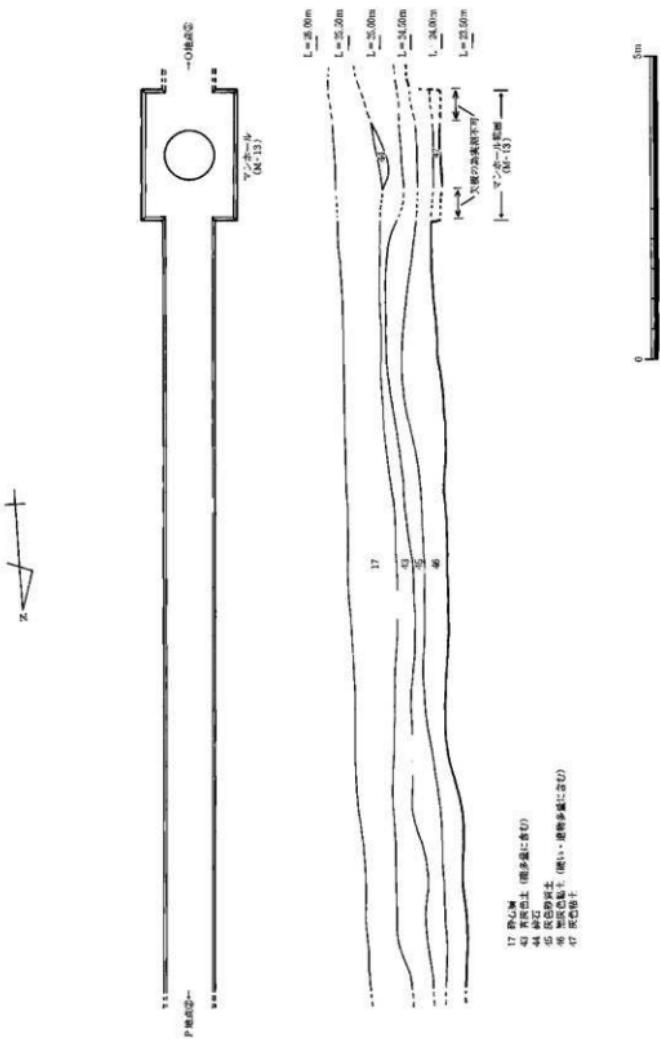


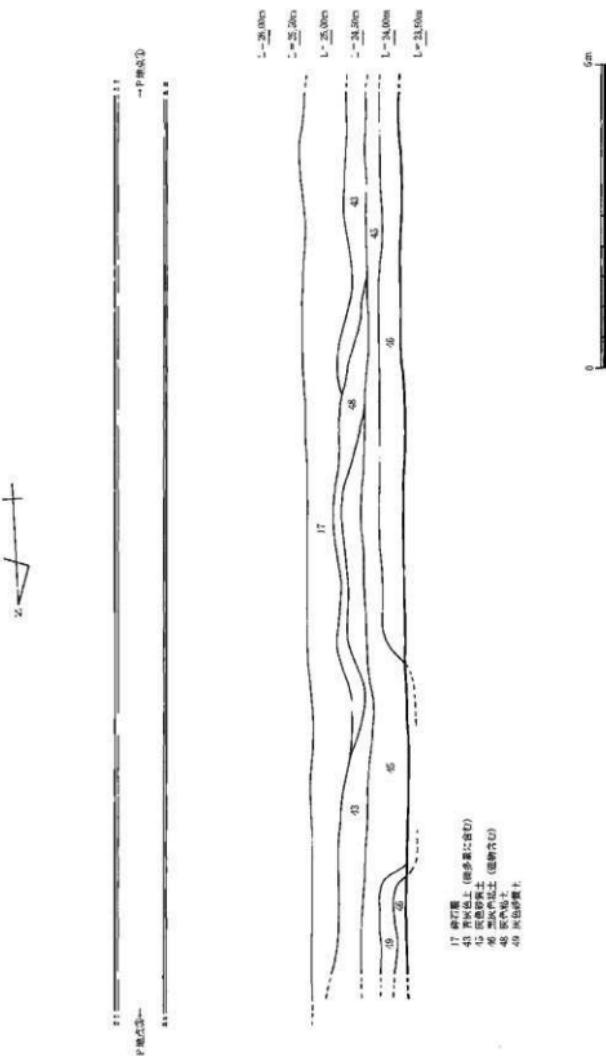
第31図 O地点④調査成果図

第32図 O地点⑤調査成果図

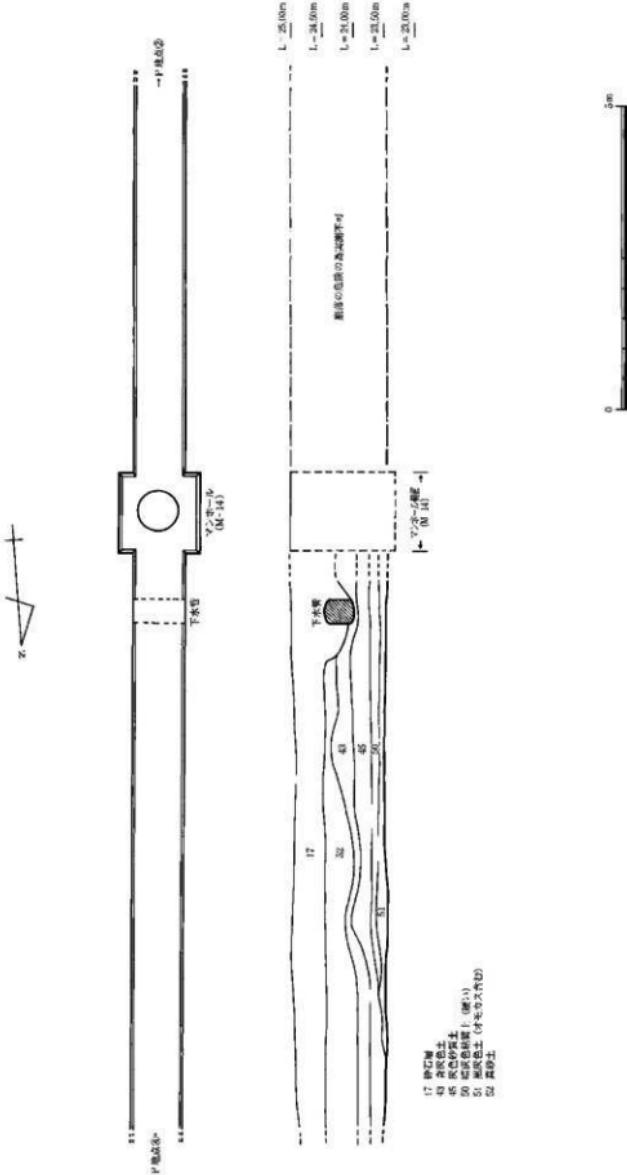


第33図 P地点①調査成果図

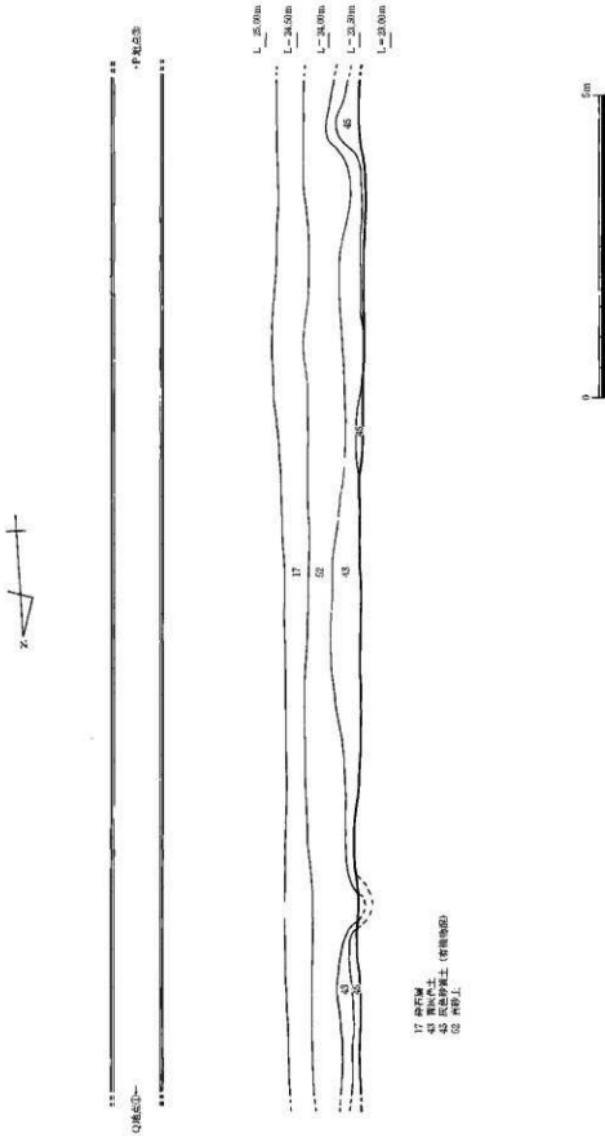




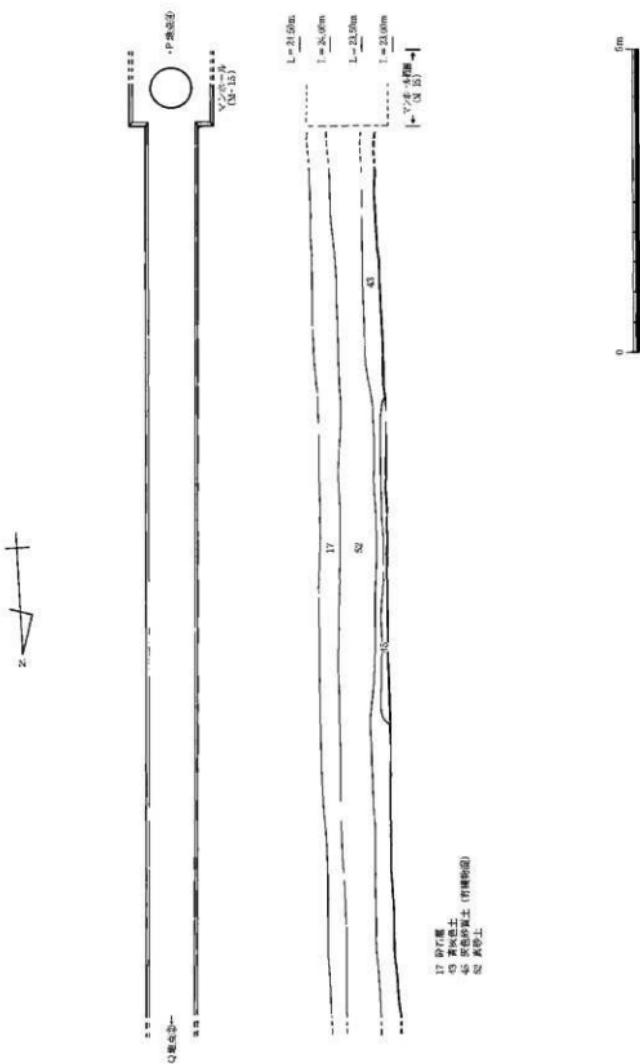
第34図 P地点(2)調査成果図



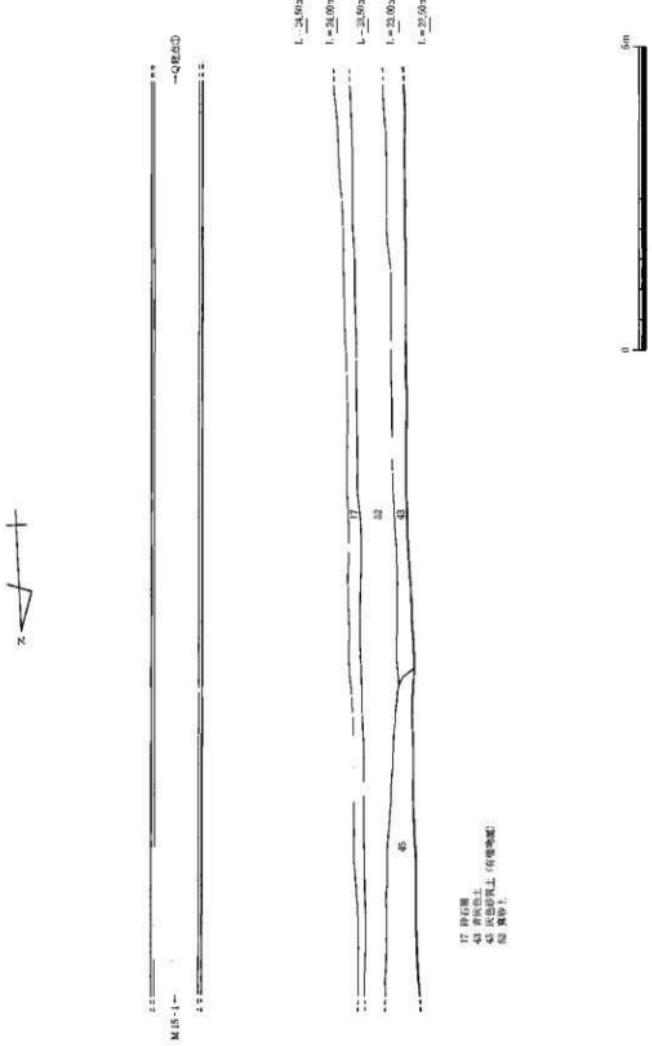
第35図 P地点③調査成果図



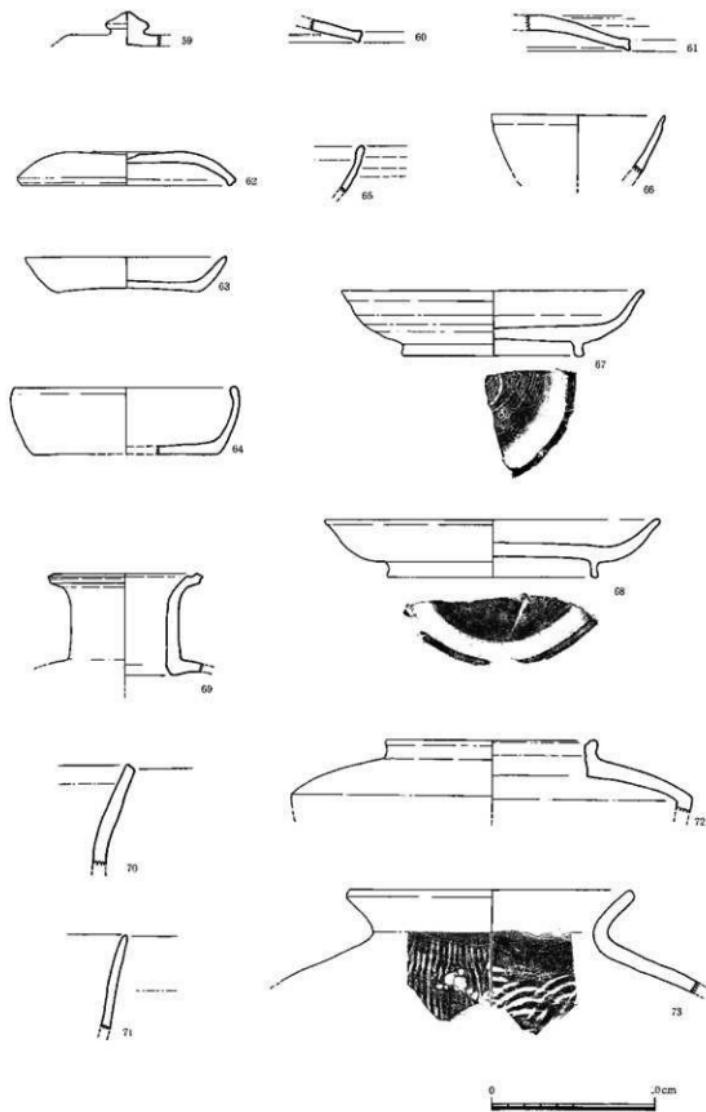
第36圖 P地點④調查成果圖



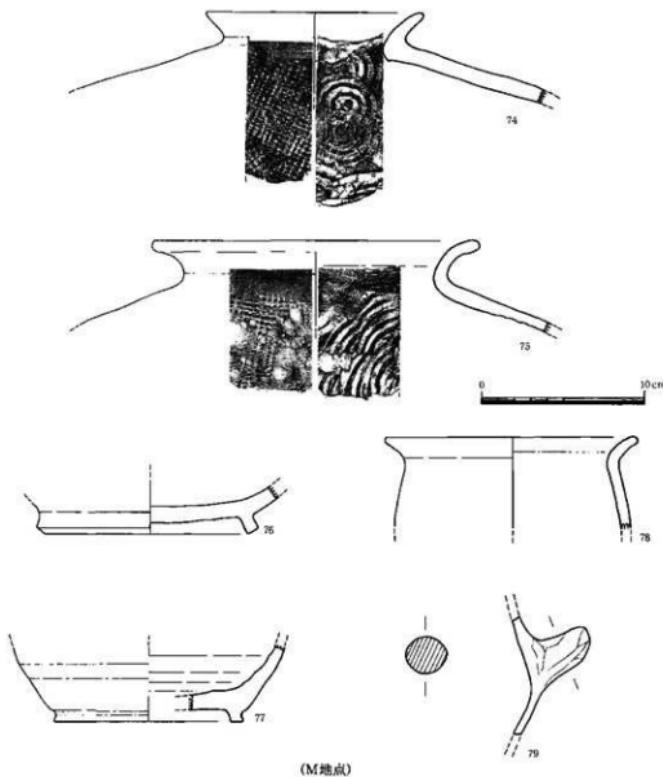
第37圖 Q地點①調查成果圖



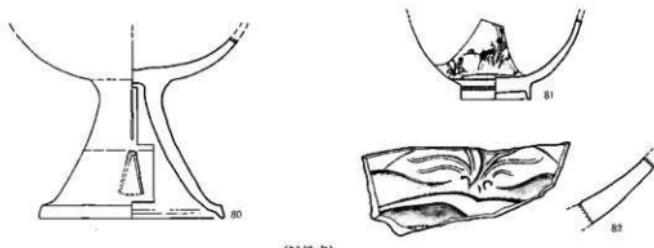
第38圖 Q地點②調查成果圖



第39図 M地点出土遺物実測図

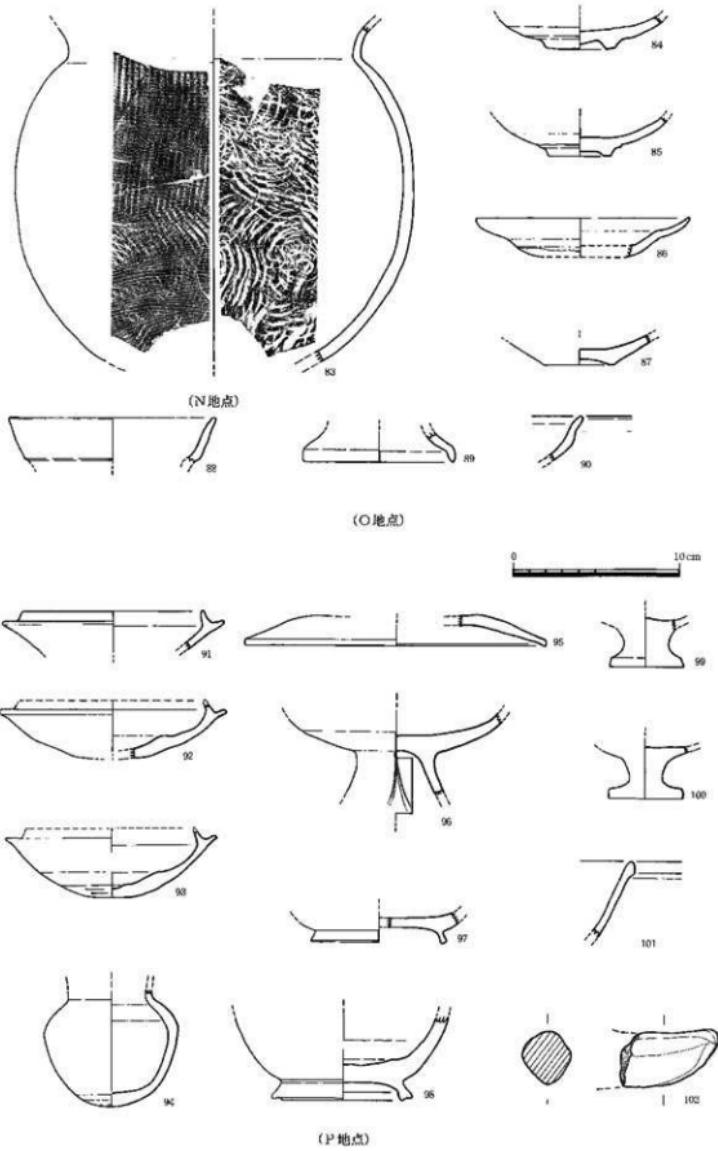


(M地点)



(N地点)

第40図 M～N地点出土遺物実測図



第41図 N～P地点出土遺物実測図

第4章 考 察

(1) 遺物の検討

平成14～15年度の調査の結果、出雲国造跡関連遺物としてコンテナ11箱、正林寺遺跡関連遺物としてコンテナ6箱分の出土遺物が検出された。

いずれも細片になっており、時期が把握できないものが多いことや、同一遺構からの遺物でも時期幅があり、良好な一括遺物に恵まれなかつたが、比較的良好な資料としてD地点調査区のSD-01出土遺物、P-9 出土遺物、M地点②の土器溜り出土遺物がある。

D地点SD-01からは、土師質上器の小型皿（No.26～29）、平底の壺（No.31～32）、柱状高台（No.34）が検出されている。このうち平底の壺No.32は口径12.0cm、底径6.0cm、器高3.5cmを測り、平底の底部から口縁部は内弯して立ち上がるるもので、底部外周には回転糸切り痕が残る。類似の資料としては昭和56年度の黒田畠遺跡第Ⅳ調査区（註1）の土器溜り下層部から検出された壺や、昭和59年度の大草町天満谷遺跡で検出された壺a類などがある。両資料とも時期を決定する共伴遺物を欠くが、天満谷遺跡の報告（註2）において壺a類は三刀屋町京殿遺跡（註3）からの出土品に形態の共通性が認められることから、京殿遺跡で伴出した龍泉窯系青磁碗の年代を参考に13世紀後半～14世紀前半の年代観が与えられている。

D地点P-9 から出土した上師質上器の壺（No.33）は口径12.4cm、底径7.4cm、器高4.6cmを測り、平底の底部から内弯気味に立ち上るもの、口縁部外周直下で鈍い稜をなすもので、底部外周には回転糸切り痕が残る。類似の資料としては昭和56年度の黒田畠遺跡第Ⅳ調査区（註1）の上器溜り上層部から検出された壺や、出雲市蔵小路西遺跡B区土壤9 から出土した壺などがある（註4）。蔵小路西遺跡では龍泉窯系青磁碗が伴出しており、その年代から13世紀後半以降という年代観が与えられている。また同遺跡B区土壤9 と黒田畠遺跡第Ⅳ調査区の土器溜り上層では、今回調査のD地点SD-01と同様の小皿も検出されており、同じ年代観が与えられるものと思われる。

M地点②の土器溜りからは須恵器の壺蓋片（No.59～62）、平底の皿片（No.63）、高台付きの皿片（No.67、68）、壺身片（No.64～66）、壺口縁片（No.69）、壺類の口縁部と思われる破片（No.70、71）、短頸壺口縁部片（No.72）、壺口縁部片（No.73～75）、台付き壺の底部片（No.76、77）などが検出されている。このうち壺蓋は擬宝珠のつまみで天井部は低く、口縁端部はわずかに屈曲する特徴を持ち、島根県古代文化センターによって「山陰古代出土文字資料集成Ⅰ」（註5）の中で高広編年を基に検討された蓋Ⅱ類に属し、IVB期に相当するものと考えられる。また平底の皿は皿Ⅰ類、高台付きの皿は皿Ⅱ類、平底の壺身のうちNo.64は壺Ⅲ類に属し、いずれもIVB期に相当するとして良いものと考えられる。これらの中年代については同集成中では8世紀末～9世紀初頭の年代観が与えられている。

（註1）島根県教育委員会『風土記の丘内地内遺跡発掘調査報告Ⅰ－松江市大庭町黒田畠字上居・字神主岸敷所在遺跡－』1982年3月

（註2）島根県教育委員会『北松江幹線新設工事・松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』1987年3月

(註3) 三刀屋町教育委員会「京殿遺跡一調査概報一」1979年

(註4) 建設省松江国道工事事務所、島根県教育委員会「蔵小路西遺跡—一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告2」1999年3月

(註5) 島根県古代文化センター「山陰古代出土文字資料集成I（出雲・石見・隠岐編）」2003年

（2）遺構の検討

【出雲国造跡】（第42図）

平成14～15年度の調査の結果、溝状遺構13、土壙状遺構8の他、ピットが多数検出された。遺構の分布状況を見ると、平成14年度に調査したA地点～H地点及びI地点、平成15年度に調査したM地点①～②に集中する傾向が見られる。これは市道神魂神社線が走る台地状の低丘陵が南北に尾根筋状に延び、東西方向は標高が下がっていく地形と一致しており、台地上に遺構が集中する傾向がある。

検出された遺構の中で注目されるものとして、B地点で調査区を東西に横断する形で検出されたSD-01が挙げられる。これは上端幅2.7～3.0m、下端幅0.85～0.9m、深さ約1.0mを測る断面逆台形の溝状遺構で、南側にテラスを有する。一方、SD-01の東方延長線上では、平成4年度に松江市教育委員会が発掘調査を実施した際に第I調査区から大溝（H4：SD-01）が検出されている。この大溝の規模は上端幅2.4～2.6m、下端幅0.7～1.1m、深さ0.8mを測り、断面が逆台形で、2段掘り状にテラスを有する点など、規模、形態ともに酷似しており、両者は一連の遺構であることが考えられる。この溝は平成4年度の調査報告でもふれられているように、屋敷地などを区画する溝である可能性が考えられる。

また同類の大溝として、昭和56年度に島根県教育委員会が発掘調査を実施した際に神主屋敷第I調査区で東西方向に延びる溝状遺構（S56：SD-01）が検出されている。これは平成4年度に検出された大溝（H4：SD-01）から約112m南方の地点に位置し、規模は上端幅2.0m、下端幅0.8m、深さ約1.0mを測り、断面逆台形を呈する。規模や形状がH4：SD-01に酷似していることから、同類の区画溝であると想定されている。平成15年度の調査でS56：SD-01の東延長線上を調査する予定であったが、ちょうどL地点③からマンホールM2の間で工事との調整がつかず調査できなかったため、その存在の有無が確認できなかった。

遺構の特徴としてもう一つ重要な点は、遺構の集中地域（A地点～H地点、I地点、M地点①～②）で検出された溝状遺構、土壙状遺構、ピット状遺構などの埋土はいずれも、①暗黒灰色の粘質土を主体とした中に黄褐色土のブロックが若干混じり、硬くしまっていること。②埋土中には6世紀末～13世紀後半にかけての時期幅のある遺物の細片が混じっていること。などから一時期に埋め戻された形跡が見られる。更に遺構検出面（地山上）では遺物が無いことや遺構検出面直上には後世の耕作上と考えられる上層が堆積していることなどから、一度ピットが埋め戻された後に地表面まで削平されているものと考えられる。遺物の様相から、一度遺構が埋め戻された時期は13世紀後半以降の時期、さらに掘削を受けた時期は定かでないが、遺構集中地域の縁辺の調査区（F地点、M地点②）では近世または近世以降の遺物が検出されていることから、近世以降に掘削を受けた可能性が考えられる。

【正林寺遺跡】（第5図）

正林寺遺跡は、昭和51年頃の大庭地区の分布調査で、須恵器片、土師器片、土師質土器片などが表採されたことから散布地として周知されてきた遺跡である。平成15年度のN地点、O地点がこれに該当するものと考えられる。調査の結果、遺構はO地点②～④において溝状遺構1、ピット状遺構9が検出されたに過ぎず、遺跡の性格は特定できなかった。遺物は遺構面では検出されなかったものの、N地点を中心とする包含層からは古墳時代後期～近世にかけての時期幅のある遺物が多量に検出されていることから、周辺に同時期の遺構が存在する可能性は高いものと考えられる。

また、O地点⑤～P地点①、②を中心とした区域では、遺構は無いが遺物が集中する包含層の存在が確認された。N地点の包含層同様に古墳時代後期～近世にかけての時期幅のある遺物が存在することから、正林寺遺跡の範囲として捉えられるものである。

（3）絵図に見える出雲国造館について（図1～3、第43図）

出雲国造家の変遷については、加藤義成氏の論考（註1）によれば、大きくは①出雲臣一族が国造の他郡司や軍団の要職をも兼任していた時代。②延暦17年（798年）に発せられた太政官符によって国造による郡司兼務が禁じられ、以後熊野・杵築両大社の祭事に専念することになった時代。③徳治2年（1307年）に出された譲状により国造家の所領が分与され、千家・北島両家へ分かれて行った時代の3つに分けて考えられている。

このうち①の時代の本拠地は、現在の神魂神社北方、「土居」という字名が残る地区に比定されている。②の時代になると杵築にも居館が置かれることになるが、やがて出雲大社で祭事の機会が増えようになると杵築の居館に常駐化するようになり、大庭の居館は熊野大社での祭事の折りの止宿所として同所に存続したものと推察されている。さらに③の時代になると千家国造館は現在の正林寺の北方、「向」地区、北島国造館は土居に南接する「元鳥居」地区で両家ともに明治初年まで存続していたことが知られている。

両国造家の様子を知る絵図資料として、北島国造家に保管されている「神魂社古図」がある（口絵1）。これは「出雲国造家文書」（註2）の巻頭にも掲載されている絵図で、明和4年（1767年）、北島国造館の屋根修理に際して高浜卓精が6月3日から7月16日まで逗留した期間中に描かれたものである。神魂神社から北島国造館までの一帯が詳細に描かれ、③の時代のこの地域の様子を知ることができる。もう一つは明治初年に地元の高梨兵三郎氏が書き残した鉛筆画がある（図2、3）。これは③の時代の北島・千家両家の鳥瞰図ともいえる絵図である。

『神魂社古図』を見ると、岡中左側に千木を載せた社殿があり、屋根部分に「神魂本社」と書かれているため、これは神魂神社であると考えられる。絵図の中央上部には基壇上に五輪塔を含む草標らしい塔が林立し、「国造塚十二」と記されている。これについては現在の正林寺裏山に五輪塔群があり、幅1.1m、長さ8.63m、高さ30～40cmを測る南北方向の基壇上に五輪塔や宝篋印塔が並んでいる。さらに基壇の東側前方にある石碑には「国造北島廟」と記されていることから、絵図に見える「国造塚十二」に相当するものと考えられる。この国造塚のある丘陵の裾には建物が描かれているが、位置

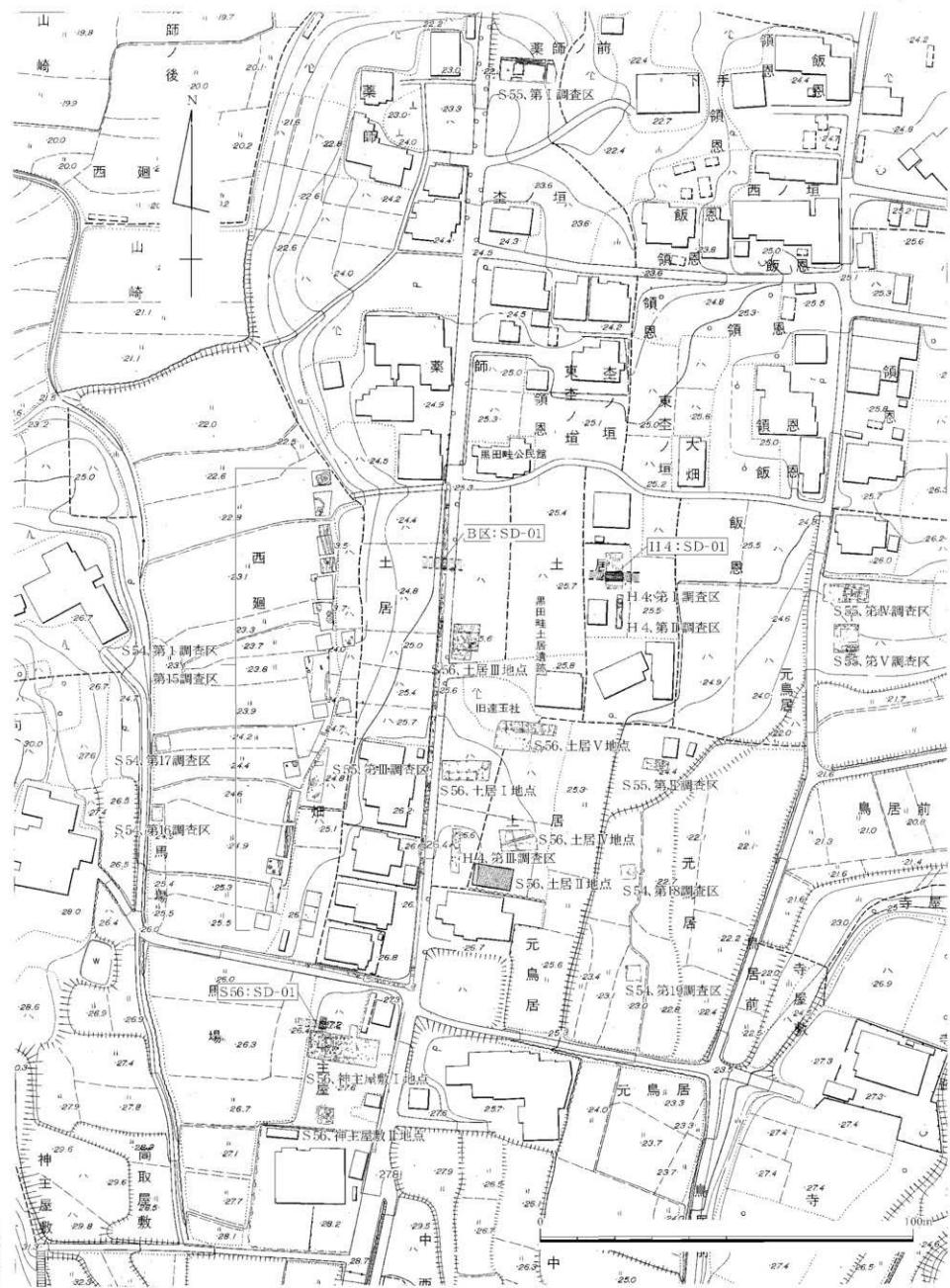
関係から考えるとこれは正林寺であろうと考えられる。神魂神社の鳥居が建つ参道は現在もある参道（市道神魂神社線）で、鳥居の西方に「秋上中務」と見えるのは現在の秋上宮司宅と一致する。「秋上中務」と記された建物から右手へ門をくぐると柵に囲まれた館があるのが北島国造館で、間取りまで詳細に記されている。間取り図の下には「憩詰之間ヨリ臺所マテ憩間數七間ニ三間半」と書かれています。建物の規模は東西方向が7間（約12.7m）、南北方向が3間半（約6.4m）程度あったものと推定される。また館を取り巻く柵は建物の裏手で二重に巡っており、柵で囲まれた中に杉の大木が一本描かれている。ここには「早卡神木松享保年中マテ枝常青ミ有之由…」と書かれ、早卡社の神木である杉は享保年間まで（1716～1736年）は枝も青々とした大木で、出雲大社の造営にあたって銀三貫目で戸板の用材に求められたが、神木として大切な木するために売り渡すことを断った経緯が記されている。さらに文末には絵図が書かれた明和の頃には枝も折れて藤の蔓が巻き上がっている様子が記されている。この早卡神木があった場所は、現在の市道神魂神社線の東側で通称「速卡さん」と呼ばれる社叢がこれに当たるものと思われる。

高梨氏が描いた鳥瞰図「北島国造館図」と比べて見ると、柵で囲まれた屋敷地に大きな屋根の館があり、2つの門をくぐると正面玄関に至る点や、2つ目の門の脇に小さな建物（釜屋？）がある点など両絵図には共通点が見られる。さらに屋敷地の裏手には杉の大木は無いものの、千木を載せた小さな祠が見え、これが速卡社ではないかと想定される。

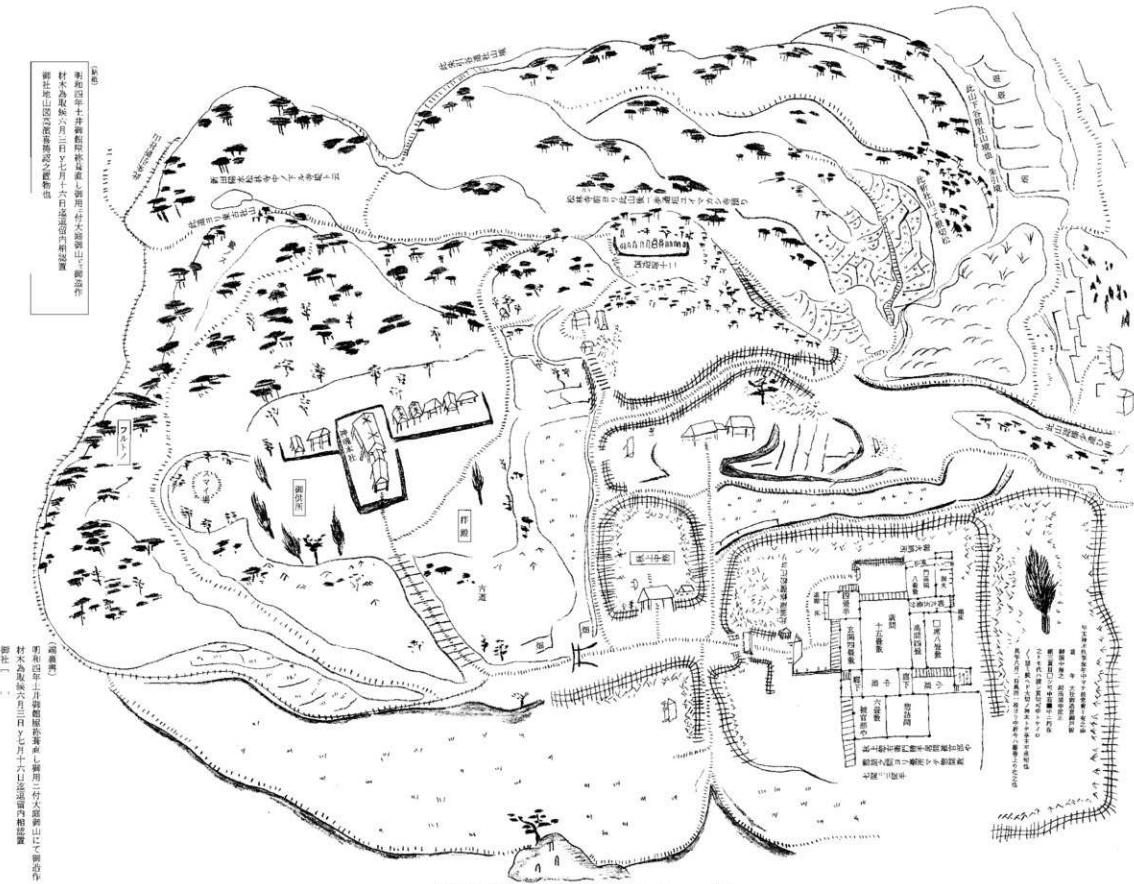
一方、千家国造館は「秋上中務」と記された建物から西方へ向かった山裾部に見える建物が位置的にはこれに当たるものと想定される。

（註1）加藤義成『出雲国造館跡』『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』島根県教育委員会、1975年。

（註2）北島英孝『出雲国造家文書』清文堂出版株式会社、1968年7月



第42図 調査区詳細図



第43図 「神魂社古図」模式図

第5章 小 結

平成14～15年度までの調査の結果、多大な成果が得られた。まず、平成4年度の調査で確認された溝状遺構（H4：SD-01）の延長部が今回の調査（B地点SD-01）でも確認されたことから、これが屋敷地の北側の区画溝である可能性がさらに強くなった。また出土遺物の年代が概ね13世紀後半～14世紀前半までのもので、さらに埋め戻された形跡があることから、この溝は中世までの出雲国造館に伴うもので、さらに想像を逞しくすれば北島家、千家家に分かれた後の建替え等に伴う造成によって埋め戻されたものと考えられる。また平成4年度調査時の報告では、昭和56年度に検出された溝状遺構（S56：SD-01）と関連付けて屋敷地の範囲を方1町四方と想定されている。今回の調査ではこれを追認することが出来なかつたが、溝の規模や形状が酷似していることから北側の溝と一連のものである可能性は高いものと考えられる。ただし、（S56：SD-01）からは溝底部から江戸時代の灯明皿、磁器、寛永通宝が検出されていることから、北側の溝と違って中世以降の北島国造館時代にも存続していた可能性が考えられる。

その他の遺構として国造館に関連すると思われるピットや土壤状遺構、溝状遺構も多数検出されているが、今回の調査範囲の制約上、建物の復元や遺構の性格付けは非常に困難であった。これらの遺構は埋土中に古墳時代～中世にかけての遺物の細片を含むものが多いことから、大半は中世までの出雲国造館に伴うものであると考えられ、その集中範囲は平成14年度調査のB～F地点および昭和55年度調査の土居Ⅰ、Ⅲ、Ⅴ地点を中心とした範囲が想定される。このことは加藤義成氏が論考（註1）の中で奈良時代から中世に及ぶ出雲国造の居館は「土居」の字名が残っている範囲にあったのではないかと推定されている事を裏付けるものである。一方、中世以降の北島国造館は明治初年の絵図「北島国造館図」（図絵2）に見られるように礎石建ちであれば、その痕跡は残りにくいものと思われるが、速玉社の位置と「神魂社古岡」（図絵1）との比較によって推察すれば、上居地区の南側、字「元鳥居」地区を中心とする範囲が想定されるものと考えられる。今後の調査例の増加を待って検討したい。

また、正林寺遺跡はこれまで遺物散布地として知られて来た遺跡である。今回の調査では遺構としてはわずかに溝状遺構1箇所、ピット9箇所が検出されたのみであるが、遺物の分布範囲が凡そ把握できたことは有意義であった。

(註1) 加藤義成「出雲国造館跡」「八雲立つ風土記の丘周辺の文化財」島根県教育委員会、1975年

出雲国造館跡・正林寺遺跡発掘調査成果一覧表

【平成14年度調査】

調査地点	遺構番号	出土遺物
A地点	S K - 01	上師器壺片36、土師器高坏片1
	S K - 02	須恵器（坏片3、壺片1、器種不明片1）、土師器（壺片18、器種不明片5）、上師質土器片10
	P - 1	なし
	P - 2	上師器片2
	P - 3	なし
	P - 4	土師器（高坏脚片1、壺片16）、須恵器壺片3
	P - 5	土師器片12
	P - 6	なし
	P - 7	須恵器坏片2、土師器片8
	P - 8	土師器片10
	P - 9	土師器片5、土師質土器片3
	P - 10	土師器（高坏片2、器種不明片7）、土師質土器片4
	P - 11	須恵器片2、土師器片1
	P - 12	なし
	P - 13	土師器片5
	P - 14	なし
B地点	S D - 01	須恵器（坏片2、高台坏片1、坏蓋片1、器種不明片7）、土師器片7、土師質土器片3
	S K - 01	土師器片2、土師質土器片1
	P - 1	なし
	P - 2	須恵器片1、土師器片2、土師質土器片1
	P - 3	なし
	P - 4	なし
	P - 5	土師質土器（皿1、器種不明片3）、須恵器（坏蓋片1、器種不明片1）
	P - 6	なし
	P - 7	土師質土器柱状高台片1
	P - 8	なし
	P - 9	土師器片2
	P - 10	上師器片5
	P - 11	須恵器坏蓋片1
	P - 12	土師質土器片1
	P - 13	なし
	P - 14	なし
	P - 15	なし
	P - 16	なし
	P - 17	土師質土器坏片20、土師器片3、須恵器片1
	P - 18	なし
	P - 19	土師器片10、須恵器片1、土師質土器片3
	P - 20	なし
	P - 21	なし
	P - 22	土師質土器片4
	P - 23	なし
	P - 24	土師質土器片5
	P - 25	なし
	P - 26	なし
	P - 27	須恵器片2、土師質土器坏片6
C地点	S K - 01	弥生壺片6、須恵器（坏蓋片2、坏身片1、器種不明片10）、土師器（壺片67、高坏片2）手づくね土器片2
	S K - 02	須恵器坏蓋片2、土師器片16、土師質土器片3
	P - 1	なし
	P - 2	なし
	P - 3	なし
	P - 4	なし
	P - 5	須恵器焼片2、土師質土器坏片2
	P - 6	須恵器片1
	P - 7	土師器焼片1
	P - 8	なし
	P - 9	なし
	P - 10	なし
	P - 11	なし
	P - 12	なし

調査地点	遺構番号	出 土 遺 物
	P-13	なし
	P-14	なし
	P-15	土師質土器坏片9
	P-16	土師質土器坏片3
	P-17	土師質土器（皿1、器種不明片10）
	P-18	須恵器片1、土師器片1
	P-19	土師質土器坏片2
	P-20	なし
	P-21	なし
	P-22	なし
	P-23	なし
第5層中		土師質土器（皿2、皿片54=7個体分以上）
D地点	SD-01	須恵器（壺口縁片1、器種不明片2）、土師質土器（皿4、皿片70=8個体以上、坏片74=約7個体分、柱状高台片1、器種不明片16）
	SD-02	なし
	SD-03	土師器焼片2、土師器片または土師質土器片85、手づくね土器片1
	SD-04	なし
	P-1	須恵器坏身片2、土師質土器片7
	P-2	なし
	P-3	須恵器縁片1、土師質土器坏片1
	P-4	須恵器壺口縁片1、土師質土器片5
	P-5	土師質土器坏片5
	P-6	須恵器片2、鉄釘片1
	P-7	かわらけ片5、須恵器壺片1、土師質土器（皿1、器種不明片5）、鉄釘1
	P-8	土師器片または土師質土器片7
	P-9	須恵器（坛蓋片1、壺片1）、陶器片1、土師質土器坏1、坏片15
	P-10	須恵器片3、土師質土器坏片5
	P-11	なし
	P-12	土師質土器坏片7
	P-13	土師質土器坏片8
	P-14	土師質土器坏片4
	P-15	土師質土器片4
	P-16	なし
	P-17	須恵器片1、土師質土器坏片21
	P-18	なし
	P-19	なし
	P-20	須恵器縁片7、土師質土器片10
	P-21	なし
	P-22	なし
	P-23	須恵器蓋片1、土師質土器坏片10
	P-24	土師質土器片6
地山面		土師質土器（坛片54、皿1、皿片8、柱状高台片1）、須恵器焼片12、土師器片2
E地点	SD-01	なし
	SD-02	須恵器焼片1、土師質土器坏片40
	P-1	なし
	P-2	土師質土器坏片6
	P-3	土師質土器片1
	P-4	なし
	P-5	土師器焼片3
	P-6	土師器縁片2
	P-7	土師質土器坏片28
	P-8	土師質土器片3
	P-9	土師質土器坏片10
	P-10	土師質土器片6
	P-11	土師質土器（环1、环片27）
	P-12	土師質土器片6
	P-13	須恵器片1、土師質土器片5
	P-14	土師器片6
	P-15	土師質土器坏片9
	P-16	須恵器坛蓋片1、土師質土器片5
	P-17	土師質土器坏片3

調査地点	遺構番号	出土遺物
	P-18	土師質土器片2
	P-19	土師質土器片10(約2個体分)
	P-20	なし
	P-21	なし
	P-22	なし
	P-23	なし
	P-24	なし
	P-25	なし
	P-26	なし
	P-27	土師質土器片8
地山面		土師質土器片23
F地点	SK-01	黒瓦片16、すり鉢片1、土師質土器片7
	SK-02	土師質土器片6
	P-1	なし
	P-2	なし
	P-3	なし
	P-4	土師質土器片12
	P-5	なし
	P-6	須恵器壺片2、土師質土器片1
	P-7	なし
	P-8	なし
	P-9	なし
	P-10	なし
	P-11	黒瓦片1、陶器片1
	P-12	なし
	P-13	土師質土器片3
	P-14	なし
	P-15	須恵器壺片5、須恵器壺蓋片1、土師器片4
	P-16	なし
	P-17	須恵器壺片1、土師器片3、土師質土器片2
	P-18	なし
	P-19	なし
	P-20	なし
	P-21	なし
	P-22	なし
	P-23	なし
地山上		須恵器(环身片1、腹片1)、土師器片1、土師質土器片9、陶器片4、青磁片2、黒瓦片4
G地点	第26層中	黒瓦片4、須恵器壺片2、陶器片1
H地点	SD-01	須恵器高环脚部片1
	SD-02	なし
	P-1	なし
I地点	SD-01	須恵器(环身片2、蓋口縁片1)、土師器片4、土師質土器片1
	SD-02	須恵器高台壺片1
	P-1	須恵器壺片1
	P-2	須恵器片1
	P-3	なし
	P-4	なし
	P-5	なし
	P-6	須恵器片1
	P-7	なし
	P-8	須恵器高台壺片1
	P-9	土師質土器片2
	P-10	土師器片2、土師質土器片2、須恵器片3
	P-11	須恵器壺片1
	P-12	須恵器环身片1
	P-13	土師器片1
	P-14	須恵器壺片3、土師質土器片1
	P-15	白磁片?1
	P-16	なし
	P-17	なし
	P-18	なし
	P-19	なし

調査地点	遺構番号	出 土 遺 物
	P-20	なし
	P-21	なし
	P-22	なし
	P-23	なし
	P-24	なし
	P-25	なし
	P-26	なし

【平成15年度調査】

調査地点	遺構番号	出 土 遺 物
J地点	遺構なし	なし
K地点	P-1	なし
	P-2	なし
L地点①	遺構なし	なし
L地点②	遺構なし	なし
L地点③	遺構なし	なし
M地点①	P-1	須恵器(环壹片1、器種不明片1)、土師器片1、土師質土器片1
	P-2	なし
	P-3	土師器片1、土師質土器片1
	P-4	須恵器片3、土師質土器片2
	P-5	なし
	P-6	土師質土器片1
	P-7	なし
M地点②	SK-01	須恵器蓋片(平安)1、須恵器甕口緣片2、陶器片1
	SD-01	なし
	P-8	なし
	P-9	須恵器蓋片(擬宝珠)1
	P-10	なし
第9層	現代瓦2、須恵器片9、龜山系1、土師器片3、土管片1	
第9層	黒瓦片3、染付片2、陶器片2	
第13層	須恵器(环壹片5、高台坏片7、坏片15、短颈壹片1、壹口縁部片1、甕口縁部片3、甕片16、器種不明片7)、土師器(把手2、壹片47)、土師質土器片11	
第13層上	染付片7、青磁片1、陶器片1、須恵器坏片3、古錢1	
M地点③	遺構なし	なし
M地点④	遺構なし	なし
N地点①～③	第19層	染付片2、陶器片1、須恵器壹片1、須恵器長颈壹片1
	第22層	須恵器(高坏片1、壹片1、器種不明片2)、土師器壹片3、染付片4、陶器片4、黒瓦片1
	第29層	須恵器片2、染付片1、陶器片1、黒瓦片3、ガラス片2
O地点①～③	第32層	陶磁器片(染付含む)2、土師質土器片3
O地点②	SD-01	なし
	P-1	なし
	P-2	なし
	P-3	なし
O地点③	P-4	なし
	P-5	なし
	P-6	なし
	P-7	なし
	P-8	なし
O地点④	P-9	なし
O地点⑤	第32層	瓦片1、江戸以降陶器片8
	第32、38～39層	須恵器片1、土師器片5、土師質土器片10、青磁片1、白磁片2、染付片5、唐津燒坏片4、陶器片11
P地点①	第46層	須恵器(环壹片3、高台坏片5、坏片21、高坏片3、壹片3、壹片42)、土師器(壹片11、把手1、器種不明片18)、土師質土器(坏片17、柱状高台片1、器種不明片28)、白磁碗片1、陶器片5、黒瓦片2
P地点②	第46層	須恵器(环壹片2、坏片10、高台坏片1、高坏片2、壹片7、壹片10)、土師器(把手片1、支脚片1、壹片108)、土師質土器(柱状高台片2、坏片1、器種不明片12)、白磁片1
P地点③	第51層	須恵器(坏片1、壹片1)、土師器片3
Q地点①	遺構なし	なし
Q地点②	遺構なし	なし

出土遺物観察表

No.	出土地点	種別	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	その他の
1	A地点SK-02	須恵器	坪身	口径 11.3cm	口縁部はやや内傾して立ち上る	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：淡青灰色
2	A地点P-10	須恵器	坪身	口径 11.8cm	口縁部はやや内傾して短く立ち上る	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：明灰色
3	A地点SK-01	土師器	高坪杯部	-	坪部はやや内窓氣味	坪部外表面は一部刷毛目が残る	焼成：やや不良、色調：暗褐色
4	A地点SK-01	土師器	高坪脚部	殘存長 3.6cm	脚部はやや「ハ」字状に開く	脚部外表面に一部刷毛目が残る	焼成：やや不良、色調：暗褐色No.3と同一個体の可能性あり
5	A地点P-10	土師器	高坪杯部	-	坪部はやや内窓氣味	坪部外表面は一部刷毛目が残る	焼成：良好、色調：赤褐色
6	A地点P-4	土師器	高坪脚部	殘存長 5.6cm	脚部はわざかに「ハ」字状に開く	外面はナデ仕上げ	焼成：良好、色調：暗褐色
7	B地点P-11	須恵器	坪蓋	口径 12.0cm	口縁部外面に無い縦を付ける	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：暗灰色
8	B地点P-5	須恵器	坪蓋	-	口縁部外面に無い縦を付ける	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：明灰色
9	B地点SD-01	須恵器	高台坪	底径 9.4cm	脚部は短く垂下する	底部外表面に回転糸切り痕がある	焼成：良好、色調：淡灰色
10	B地点SD-01	須恵器	坪	底径 8.6cm	坪部は平底の底部からやや内窓氣味に立ち上がる	底部外表面に糸切り痕がある	焼成：良好、色調：暗褐色
11	B地点P-5	土師質土器	坪	底径 5.4cm	坪部は平底の底部から直線的に立ち上がる	風化のため不明	焼成：やや良好、色調：黄褐色
12	B地点P-17	土師質土器	坪	底径 7.1cm	坪部は平底の底部からやや内窓氣味に立ち上がる	風化のため不明	焼成：やや良好、色調：黃褐色
13	B地点SD-01	土師質土器	柱状高台	底径 4.4cm	底部には平坦面を伴つ	風化のため不明	焼成：やや良好、色調：明茶褐色
14	B地点P-7	土師質土器	柱状高台	底径 7.4cm	底部には平坦面を伴つ	風化のため不明	焼成：やや良好、色調：黃褐色
15	C地点SK-01	弥生土器	甌	-	口縁部は下に内窓し、内傾する	風化のため不明	焼成：やや良好、色調：黄褐色
16	C地点SK-02	土師器	甌	-	口縁部外面に無い縦を持ち、端部は平坦に仕上がる	内外面ナデ仕上げ	焼成：やや良好、色調：黄褐色
17	C地点SK-02	須恵器	坪蓋	-	口縁部外面に無い縦を付ける	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：暗灰色
18	C地点SK-02	須恵器	坪	口径 12.0cm	坪部はやや内窓氣味で端部はよい	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：灰色
19	C地点SK-01	土師器	高坪杯部	-	坪部は平坦に大きく開く	坪部外表面に刷毛目調りがあり	焼成：良好、色調：暗褐色
20	C地点SK-02	土師器	高坪脚部	殘存長 3.0cm	脚部は大きく「ハ」字状に開く	風化のため不明	焼成：やや良好、色調：黃褐色
21	C地点SK-01	土師器	手づくね土器	脚部径 6.4cm	脚部から底部にかけて丸く立ち上る	内外面に指捺压痕が残る	焼成：良好、色調：暗褐色
22	C地点第5層中	土師器	碗形土器	脚部径 10.9cm	脚部は丸く、底部は平坦に立ち上る	内面に指捺压痕が残る	焼成：良好、色調：暗褐色～暗灰褐色
23	C地点第5層中	土師質土器	甌	口径 7.4cm 底径 5.5cm 器高 1.5cm	平底の底部から短く内窓気味に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる	底部外表面に糸切り痕がある	焼成：良好、色調：黄褐色
24	C地点P-17	土師質土器	甌	口径 6.8cm 底径 4.7cm 器高 1.5cm	平底の底部から短く内窓気味に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる	底部外表面に回転糸切り痕がある	焼成：良好、色調：黄褐色
25	C地点第5層中	土師質土器	坪	底径 7.2cm	坪部は平底の底部からやや内窓氣味に立ち上がる	底部外表面に糸切り痕がある	焼成：良好、色調：黄褐色
26	D地点SD-01	土師質土器	甌	口径 7.5cm 底径 5.8cm 器高 1.0cm	平底の底部から短く内窓気味に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる	底部外表面に糸切り痕がある	焼成：良好、色調：明茶褐色
27	D地点SD-01	土師質土器	甌	口径 7.2cm 底径 5.5cm 器高 1.2cm	平底の底部から短く内窓気味に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる	底部外表面に糸切り痕がある	焼成：良好、色調：暗褐色
28	D地点SD-01	土師質土器	皿	口径 8.8cm 底径 7.0cm 器高 1.3cm	平底の底部から短く内窓気味に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる	底部外表面に糸切り痕がある	焼成：良好、色調：暗褐色
29	D地点SD-01	土師質土器	皿	口径 8.0cm 底径 6.2cm 器高 2.0cm	平底の底部から短く直線的になら立ち上がり、口縁部は丸くおさめる	底部外表面に糸切り痕がある	焼成：良好、色調：暗褐色
30	D地点P-7	土師質土器	皿	口径 7.2cm 底径 4.5cm 器高 1.9cm	平底の底部から短く内窓気味に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる	底部外表面に糸切り痕がある	焼成：良好、色調：暗褐色
31	D地点SD-01	土師質土器	皿	口径 13.3cm 底径 8.0cm 器高 2.6cm	平底の底部から内窓しながら立ち上がり、口縁部は丸くおさめる	底部外表面に糸切り痕がある	焼成：良好、色調：暗褐色
32	D地点SD-01	土師質土器	坪	口径 12.0cm 底径 6.0cm 器高 3.4cm	平底の底部から内窓しながら立ち上がり、口縁部は丸くおさめる	底部外表面に糸切り痕がある	焼成：良好、色調：暗褐色
33	D地点P-9	土師質土器	坪	口径 12.4cm 底径 7.4cm 器高 4.6cm	平底の底部から内窓気味に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる	底部外表面に糸切り痕がある	焼成：良好、色調：暗褐色

No.	出上地点	種別	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	その他の
34	D地点SD-01	上師質上器	柱状高台	底径 4.8cm	底部には平面面を持つ 底盤底には平面面を持つ	底盤外面にわずかに 糸引き痕が残る	焼成: やや良好、色調: 淡黄褐色
35	D地点SD-03	上師器	甕	頸部外径 17.8cm	縦部は「く」字に屈曲する	風化のため不明	焼成: やや良好、色調: 淡黄褐色
36	D地点SD-03	上師質上器	坪口縫部	—	口縫部は端部分近くでわずかに外反する	内外面ナデ仕上げ	焼成: やや良好、色調: 淡黄褐色
37	D地点SD-03	土師質下器	手づくね 上部	口径 8.0cm 器高 3.9cm	底部は丸く仕上げる	内外面に帶領注痕が 残る	焼成: 良好、色調: 淡褐色
38	D地点SD-03	土師器	高坪脚部	脚部径 10.2cm	瓶部は大きく「ハ」字状に開く	内外面ナデ仕上げ	焼成: やや良好、色調: 淡褐色
39	D地点P-6	須恵器	甕	腹厚 0.7cm	瓶部はやや内凹する	外面にカキ目、内面 に同心円状のあて具 痕がある	焼成: 良好、色調: 淡青灰色
40	D地点P-6	鉄製品	鉄釘	残存長 4.1cm	断面は方形	—	色調: 塗色
41	E地点P-11	上師質上器	坪	口径 11.5cm 底径 5.4cm 器高 3.2cm	坪部は平底の底部から内窪 しながら立ち上がり、口縫部 は丸くおさめる	風化のため不明	焼成: 良好、色調: 淡褐褐色
42	E地点P-19	上師質上器	坪	底径 7.8cm	坪部は平底の底部から内窪 しながら立ち上がる	風化のため不明	焼成: 良好、色調: 淡褐色
43	E地点SD-02	土師質七器	皿	底径 7.1cm	坪部は平底の底部から直線 的に開きながら立ち上がる	風化のため不明	焼成: 良好、色調: 淡褐色
44	E地点SD-02	土師質上器	坪	底径 5.5cm	坪部は平底の底部から内窪 しながら立ち上がる	風化のため不明	焼成: 良好、色調: 淡褐色
45	E地点P-7	土師質上器	坪	底径 7.4cm	坪部は平底の底部から内窪 しながら立ち上がる	風化のため不明	焼成: 良好、色調: 増褐色
46	E地点SD-02	須恵器	甕	器厚 0.7cm	胴部はやや内凹する	外面にタタキ、内面 に同心円状のあて具 痕がある	焼成: 良好、色調: 淡青灰色
47	F地点P-15	須恵器	坪蓋	—	コ膝部に垂かいりを付ける	内外面ナデ仕上げ	焼成: 良好、色調: 淡青灰色
48	F地点P-6	土師質上器	坪	—	坪部は平底の底部から直線 的に立ち上がる	風化のため不明	焼成: 良好、色調: 淡褐色
49	F地点P-6	須恵器	甕	腹厚 0.9cm	胴部はやや内凹する	外面にタタキ、内面 に同心円状のあて具 痕がある	焼成: 良好、色調: 淡青灰色
50	F地点P-15	須恵器	甕	腹厚 0.9cm	胴部はやや内凹する	外面にタタキ、内面 に同心円状のあて具 痕がある	焼成: 良好、色調: 淡青灰色
51	F地点地山直上	染付	皿	口径 12.8cm	坪部は内窪する	内面に草花風の文様 を描く	焼成: 良好、色調: 茎土は灰白色
52	F地点地山直上	陶器	高台坪	底径 5.8cm	高台は直線的でやや高い	全体に輪郭がかかる が無文	焼成: 良好、色調: 輪面は淡褐色
53	H地点SD-01	須恵器	高坪脚部	—	椎部は大きく「ハ」字状に開く	内外面ナデ仕上げ	焼成: 良好、色調: 繁者灰色
54	I地点P-15	須恵器	坪蓋	—	コ膝部外面に垂かいりを付ける	内外面ナデ仕上げ	焼成: 良好、色調: 淡灰色
55	I地点P-11	須恵器	坪	—	口縫部は端部でわずかに外 反する	内外面ナデ仕上げ	焼成: 良好、色調: 青灰色
56	I地点SD-02	須恵器	高台付皿	底径 12.6cm	高台は直角で立てる	底盤外面に糸切り痕 が残る	焼成: 良好、色調: 淡灰色
57	I地点P-12	須恵器	坪	—	平底の底部からわざかに内 窪気味に立ち上がる	底盤外面に糸切り痕 が残る	焼成: 良好、色調: 淡灰色
58	I地点P-8	須恵器	台付き蓋	底径 約8.0cm	高台はやや直立気味	胴部は内外面ナデ仕 上げ	焼成: 良好、色調: 淡青灰色
59	M地点②第13層	須恵器	坪蓋	つまみ紐 2.4cm	断面球状つまみ	ナデ仕上げ	焼成: 良好、色調: 淡青灰色
60	M地点②第13層	須恵器	坪蓋	—	瘤部が小さく下方に屈曲する	内外面ナデ仕上げ	焼成: 良好、色調: 淡青灰色
61	M地点②第13層	須恵器	坪蓋	—	瘤部が小さく下方に屈曲する	内外面ナデ仕上げ	焼成: 良好、色調: 淡青灰色
62	M地点②第13層	須恵器	坪蓋	口径 12.4cm	瘤部が小さく下方に屈曲する	天井部外面に糸切り痕 が残る	焼成: 良好、色調: 淡青灰色
63	M地点②第13層	須恵器	皿	口径 12.0cm 底径 8.8cm 器高 2.2cm	坪部は平底の底部からやや 内窪気味に立ち上がる	底盤外面に糸切り痕 が残る	焼成: 良好、色調: 增灰色
64	M地点②第13層	須恵器	坪	口径 13.0cm 底径 11.0cm 器高 4.1cm	坪部は平底の底部からやや 内窪気味に立ち上がる、口 縫部は丸くおさめる	風化のため不明	焼成: やや不良、色調: 淡褐色
65	M地点②第13層	須恵器	坪	—	口縫部は丸くおさめる	内外面ナデ仕上げ	焼成: 良好、色調: 増灰色
66	M地点②第13層	須恵器	坪	口径 10.4cm	口縫部は内窪気味に伸びて 瘤部は丸く立ち上げる	内外面ナデ仕上げ	焼成: 良好、色調: 淡灰色
67	M地点②第13層	須恵器	台坪皿	口径 18.0cm 底径 11.0cm 器高 4.0cm	坪部は底部から内窪して立 ち上り、口縫部でわずかに外 反する。高台はやや骨張く	底盤外面上に糸切り痕 が残る。坪部は内外面 ナデ仕上げ	焼成: 良好、色調: 淡灰色
68	M地点②第13層	須恵器	台坪皿	口径 20.0cm 底径 12.6cm 器高 3.6cm	坪部は底部から内窪して立 ち上り、口縫部でわずかに外 反する。高台はやや開く	底盤外面上に糸切り痕 が残る。坪部は内外面 ナデ仕上げ	焼成: やや不良、色調: 増褐色

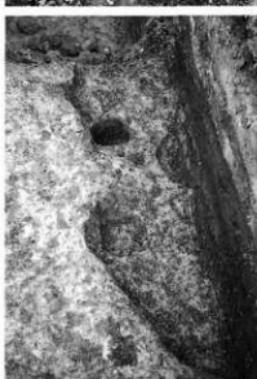
No.	出士地点	種別	器種	法量	形態の特徴	手作の特徴	その他の
69	M地点②第13層	須恵器	壺口縁部	口径 9.2cm	縁部はほぼ直立し、口縁部は大きく開いて底部で膨らむ	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：淡灰色
70	M地点②第13層	須恵器	壺口縁部	-	口縁部はゆるやかに開き、底部でわざわざに平坦山をもつ	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：暗灰色
71	M地点②第13層	須恵器	壺口縁部	-	口縁部はゆるやかに開き、縁部は薄く仕上げる	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：明灰色
72	M地点②第13層	須恵器	壺口縁部	口径 6.3cm	口縁部は短く底立する	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：暗灰色
73	M地点②第13層	須恵器	壺口縁部	口径 16.8cm	口縁部は大きく開き、底部は丸くおさめる	口縁部は内外面ナデ仕上げ、脚部外面はタタキ、内面は同心円状のて具痕が残る	焼成：良好、色調：淡灰色
74	M地点②第13層	須恵器	壺口縁部	口径 13.0cm	口縁部は大きく外反して開き、縁部は丸くおさめる	口縁部は内外面ナデ仕上げ、脚部外面はタタキ、内面は同心円状のて具痕が残る	焼成：良好、色調：淡灰色
75	M地点②第13層	須恵器	壺口縁部	口径 19.6cm	口縁部は大きく外反して開き、縁部は丸くおさめる	口縁部は内外面ナデ仕上げ、脚部外面はタタキ、内面は同心円状のて具痕が残る	焼成：やや良好、色調：灰白色
76	M地点②第13層	須恵器	台坪壺	底径 13.0cm	高台部は「ハ」字形に開く	底外部はナデ仕上げ	焼成：やや良好、色調：灰色
77	M地点②第13層	須恵器	台坪壺	底径 11.4cm	高台はやや粗く「へ」字形に開く	底外部はナデ仕上げ	焼成：良好、色調：灰色
78	M地点②第13層	上部鋤	甕	口径 16.2cm	縁部は張らず、口縁部は大きく外反する	風化のため不明	焼成：やや良好、色調：淡褐色
79	M地点②第13層	土師器	把手	-	矧く上方に伸びる	指顎状痕が残る	焼成：良好、色調：深褐色
80	N地点①第22層中	須恵器	高坪	底径 11.0cm 残存高 11.0cm	坪部は内窓して伸びる。坪部は2段透かしを施す	内外面ともに回転ナデ	焼成：良好、色調：淡灰色
81	N地点①第22層中	壺	甕	底径 4.2cm	高台は近く直立。坪部は内窓して伸びる	外面に草花風の文様を施す	焼成：良好、色調：釉土は白色
82	N地点①	青磁	鉢？	器厚 1.5cm	坪部は内窓する	内面に刻花文を付けた	焼成：良好、色調：釉土は白色、物裏は緑色
83	N地点①第22層中	須恵器	甕	脚部径 23.8cm	脚部は丸く、口縁部は大きく外反する	口縁部は内外面ナデ仕上げ、脚部外面はタタキ、内面は同心円状のて具痕が残る	焼成：良好、色調：淡灰色
84	O地点②第32、38~39層	陶器(唐津)	台付皿	底径 4.5cm	矧い削り出しの高台を持ち、外部はゆるやかに内窓して立ち上がる	外面に緑色の釉薬がある	焼成：良好、色調：胎土は赤茶色、釉薬は緑色
85	O地点②第32、38~39層	陶器(唐津)	台付皿	底径 4.0cm	矧い削り出しの高台を持ち、坪部はゆるやかに内窓して立ち上がる	高台部以外の内外面に緑色の釉薬がかかる	焼成：良好、色調：胎土は赤茶色、釉薬は緑色
86	O地点②第32、38~39層	陶器(唐津)	皿	口径 13.0cm	口縁部で粗にする	底部以外の内外面に灰色の釉薬がかかる	焼成：良好、色調：胎土は赤茶色、釉薬は灰色
87	O地点②第32、38~39層	陶器(唐津)	台付皿	底径 4.4cm	矧い削り出しの高台を持ち、坪部はゆるやかに内窓して立ち上がる	内窓部に白濁した釉薬がある	焼成：良好、色調：胎土は赤茶色、釉薬は灰白色
88	O地点②第32、38~39層	須恵器	はそう口縁部	口径 12.2cm	口縁部はやや外反する	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：淡青灰色
89	O地点②第32、38~39層	須恵器	高坪舞脚	脚部径 8.8cm	脚部は「ハ」字形に開き、脚部近辺で屈曲して垂下する	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：淡青灰色
90	O地点②第32、38~39層	土師質土器	坪	-	口縁部は内窓して伸び、坪部付近で外反する	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：淡褐色
91	P地点②第46層中	須恵器	坪身	口径 10.7cm	口縁部は内窓して立ち上がる	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：淡青灰色
92	P地点②第46層中	須恵器	坪身	口径 11.0cm	口縁部は内窓して立ち上がる	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：淡青灰色
93	P地点①第46層中	須恵器	坪身	口径 約10.0cm 器高 約4.2cm	口縁部は内窓して立ち上がる	坪部は内外面ナデ仕上げ、底外部は回転ナデケツリ	焼成：良好、色調：灰色
94	P地点②第46層中	須恵器	釜	底径 8.0cm	脚部はやや張り、底部は丸い	底外部に回転ヘラケツリ	焼成：良好、色調：淡灰色
95	P地点①第46層中	須恵器	坪盤	口径 18.0cm	口縁部は幅部が小さく下方に屈曲する	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：淡青灰色
96	P地点②第46層中	須恵器	高坪	-	坪部は内窓して伸びる。坪部は2段透かしを施す	内外面ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：淡灰色
97	P地点②第46層中	須恵器	高台坪	底径 8.0cm	脚部は短く「ハ」字形に開く	底部外面は糸切り後ナデ仕上げ	焼成：良好、色調：淡灰色
98	P地点②第46層中	須恵器	台付壺	口径 8.4cm	脚部は矧く「ハ」字形に開く。脚部は内窓して伸びる	脚部はナデ仕上げ。脚部外面は回転ナデ	焼成：良好、色調：淡灰色
99	P地点②第46層中	土師質土器	柱状高台	底径 4.4cm	底部底には平塗面を持つ	風化的ため不明	焼成：やや良好、色調：明茶褐色
100	P地点②第46層中	土師質土器	柱状高台	底径 4.3cm	底部底には平均面を持つ	風化的ため不明	焼成：やや良好、色調：明茶褐色
101	P地点②第46層中	白磁	碗	-	口縁部は幅部を玉縁状に仕上げる	内窓面に乳白色の釉薬がある	焼成：良好、色調：灰白色
102	P地点①第46層中	土師器	把手	-	矧く上方に反する	風化のため不明	焼成：やや良好、色調：黄褐色



A地点P-7~9
完掘状况



A地点（左）P-2、3、（右）SK-01



A地点SK-02
完掘状况



A地点P-10完掘状况



A地点土層堆積狀況



B地点SD-01
完掘状况



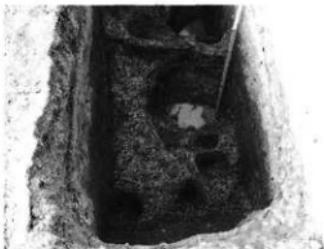
B地点SD-01土層堆積狀況



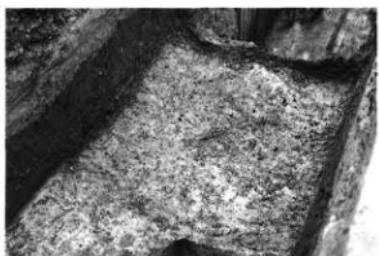
B地点P-14~23
完掘状况



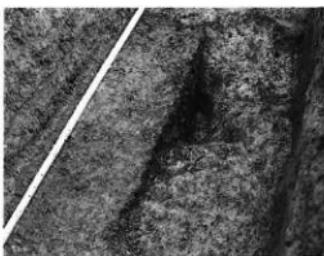
C地点SK-01完掘状况



C地点SK-02、P-2~4完掘状况



D地点SD-01完掘状况



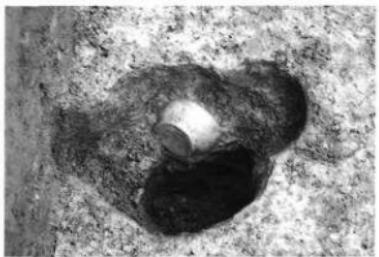
D地点SD-03半掘状况



D地点SD-04完掘状况



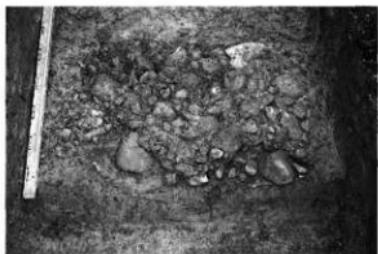
D地点P-9~12完掘状况



D地点P-9完掘状况



E地点P-7~14完掘状况



F地点SK-01検出状況



F地点SK-01半掘状況



F地点SK-01完掘状況



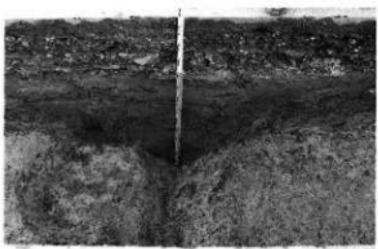
F地点SK-02、
P-13~18
完掘状況



G地点土層堆積状況



H地点SD-01完掘状況



H地点SD-01土層堆積状況



H地点SD-02完掘状況



I地点SD-01、
P-1~12
完掘状況



I地点SD-01、P-8~11完掘状況



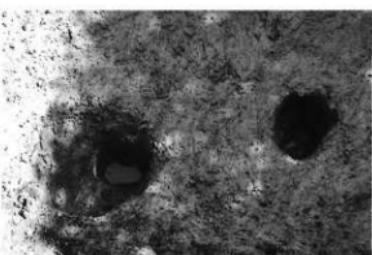
I地点P-15~26完掘状況



J地点土層堆積状況



K地点土層堆積状況



K地点ビット検出状況



L地点①完掘状況



L地点①土層堆積状況



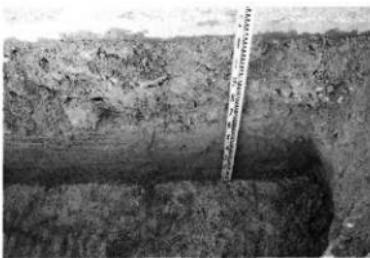
L地点②完掘状況



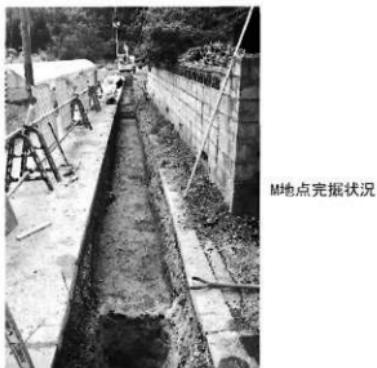
L地点②土層堆積状況



L地点③完掘状況



L地点③土層堆積状況



M地点完掘状況



M地点①P-1～5
完掘状況



M地点①土層堆積状況



-81-

M地点②SK-01検出状況



M地点②SK-01完掘状況



M地点②SK-01土層堆積状況



M地点②SD-01、P-9完掘状況



M地点③~④完掘状況



M地点③土層堆積状況



N地点①M-6付近土層堆積状況



N地点①M6~7間土層堆積状況



N地点①M7~8間土層堆積状況



N地点②完掘状況



N地点②M9~10間土層堆積状況



N地点③
完掘状況



N地点③土層堆積状況



O地点①～②完掘状況



O地点②SD-01完掘状況



O地点②SD-01土層堆積状況



O地点③
完掘状況



0地点③P-4~7検出状況



0地点③P-8付近土層状況



0地点④完掘状況



0地点④P-9付近土層堆積状況



0地点⑤完掘状況



0地点⑤土層堆積状況



P地点①～②完掘状況



P地点①土層堆積状況



P地点③完掘状況



P地点③土層堆積状況



P地点④完掘状況



P地点④土層堆積状況



Q地点①～②完掘状況



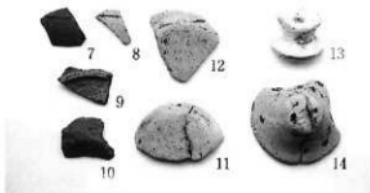
Q地点①土層堆積状況



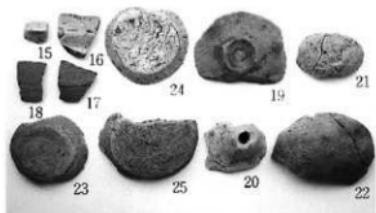
Q地点②土層堆積状況



A地点出土遗物



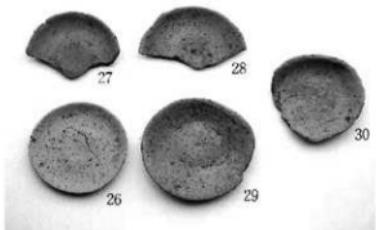
B地点出土遗物



C地点出土遗物



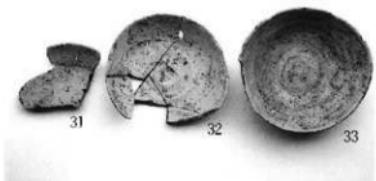
D地点出土遗物



D地点出土遗物



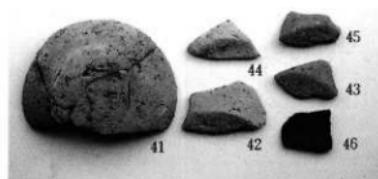
D地点出土遗物



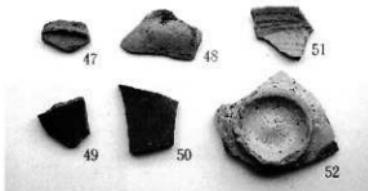
D地点出土遗物



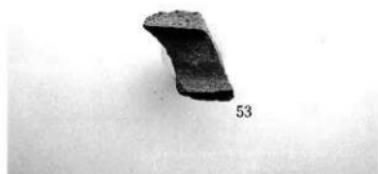
D地点出土遗物



E地点出土遗物



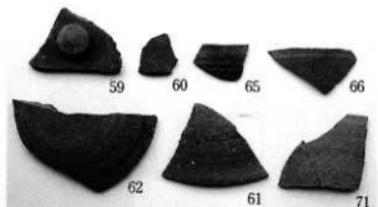
F地点出土遗物



H地点出土遗物



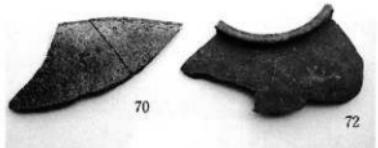
I地点出土遗物



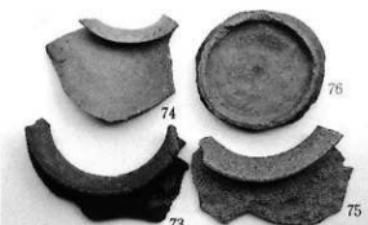
M地点出土遗物



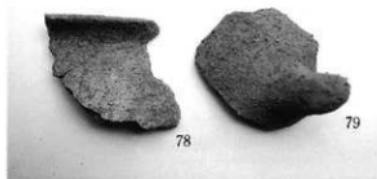
Mb地点出土遗物



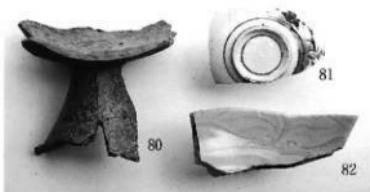
M地点出土遗物



M地点出土遗物



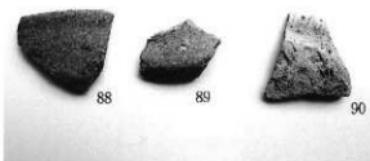
M地点出土遗物



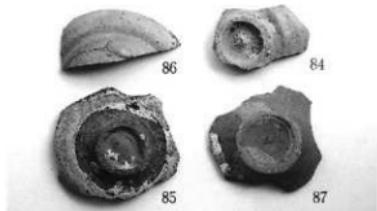
N地点出土遗物



N地点出土遗物



O地点出土遗物



O地点出土遗物



P地点出土遗物



P地点出土遗物



P地点出土遗物

報告書抄録

フリガナ	オオバチョウカンキヨウジニトモナウマイゾウブンカザイハックツチョウサホウコクショ (イズモコクソウカンアト・ショウリンジセキ)				
書名	平成14~15年度大庭町管渠工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (出雲国造館跡、正林寺遺跡)				
副書名					
卷次					
シリーズ名	松江市文化財調査報告書				
シリーズ番号	第97集				
編集者名	飯塚康行、藤井				
編集機関	松江市教育委員会				
所在地	〒690-8540 烏根県松江市末次町86番地 TEL (0852) 55-5294				
発行年月日	西暦2005年2月28日				
所取遺跡	出雲国造館跡、正林寺遺跡		コード		
所在地	鳥根県松江市大庭町		市町村	遺跡番号	
北緯	35° 25' 26"	東経	133° 5' 17"	32201	出雲国造館跡: B027 正林寺遺跡: B002
調査期間	調査面積				
平成14年度: 2002年11月18日~2003年1月15日	約617m ²				
平成15年度: 2003年9月29日~2003年11月21日					
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
出雲国造館跡	館跡	古墳時代~鎌倉時代	溝状遺構 ピット群	須恵器 土師器 土師質土器	下水道立会調査
正林寺遺跡	散布地	古墳時代~江戸時代	溝状遺構 ピット	須恵器 土師器 土師質土器	下水道立会調査

松江市文化財調査報告書第97集

平成14～15年度大庭町管渠工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

(出雲国造館跡・正林寺遺跡)

2005年2月

発 行 松江市教育委員会
松江市本次町86番地

印 刷 黒 潮 社
松江市向島町182-3